

まちづくりに関するアンケート調査
結果報告書

令和8年3月
紀北町

目次

I. 調査の概要及び回答者の属性	1
1. 調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査概要及び回収率等	1
(3) 本調査結果報告書の留意点	1
2. 回答者の属性	2
(1) 住民アンケート調査	2
(2) 中学生アンケート調査	6
II. 住民アンケートの調査結果	7
1. 町の住みやすさについて	7
(1) 町の住みやすさ	7
(2) 町の魅力について	9
2. 定住意向について	11
(1) 今後の定住意向について	11
(2) 住みたくない理由について	13
3. 町の現状と今後の取り組みについて	15
(1) 町の各環境に対する満足度・重要度	15
(2) 今後のまちづくりの特色について	21
4. 分野別の取り組みについて	23
(1) 防災対策について	23
(2) 定住対策について	25
(3) 環境について	27
(4) 地域福祉について	30
(5) 観光・交流について	32
(6) 教育について	34
(7) 健康づくりについて	36
5. コミュニティ活動、参画・協働について	38
(1) コミュニティ活動等への参加状況と参加意向	38
(2) 参加したいコミュニティ活動等について	41
(3) 参加しない理由について	43
6. 日頃の行動などについて	44
(1) 生涯学習活動について	44
(2) スポーツ活動について	45
(3) 健康増進について	46
(4) 災害時の避難路・避難場所の認知度	47
(5) 防災対策について	48
(6) 福祉活動への参加について	49
(7) 幸福度について	50
(8) 地域の暮らしの満足度について	52
(9) 身体的な健康状態について	54

(10) 身近な相談相手の有無について	56
7. 情報入手・情報発信について	58
(1) 「広報きほく」について	58
(2) 町のホームページについて	59
(3) 行政情報番組について	60
(4) 活用しているSNSについて	61
Ⅲ. 小中学生アンケートの調査結果	63
1. 町について	63
(1) 紀北町が好きか	63
(2) 町の好きなところ	64
(3) 紀北町が好きでない理由	66
2. 今後のまちづくりについて	68
(1) 将来のまちの姿	68
(2) 町で自慢できること	70
(3) 将来やりたいことの有無	71
(4) 将来、町に戻ってきたいか	73
Ⅳ. 調査結果の考察	74
1. 住民アンケート調査について	74
(1) 町の住みやすさについて	74
(2) 定住意向について	74
(3) 町の現状と今後の取り組みについて	74
(4) 分野別の取り組みについて	75
(5) コミュニティ活動、参画・協働について	75
(6) 日頃の行動などについて	75
2. 小中学生アンケート調査について	76
(1) 町について	76
(2) 今後のまちづくりについて	76
Ⅴ. 資料編：調査票	78
1. 住民アンケート調査票	78
2. 小中学生アンケート調査項目	90

I. 調査の概要及び回答者の属性

1. 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、紀北町第3次総合計画及び第3期紀北町総合戦略の策定に向け、今後の定住意向をはじめ、各分野の満足度・重要度、今後のまちづくりの方向、分野ごとの施策で期待することなど、住民の意識構造の実態把握を目的に実施しました。

(2) 調査概要及び回収率等

	住民アンケート調査	小中学生アンケート調査
調査対象	16歳以上の町民	町内小中学校に在籍する 小学6年生・中学3年生
抽出法	層化抽出（住民基本台帳より抽出）	全数調査
調査方法	郵送法（Web回答併用）	Web回答
調査時期	令和7年11月～12月	令和7年10月～11月
配布数	2,500	-
有効回収数	866	168
有効回収率	34.6%	-

(3) 本調査結果報告書の留意点

本速報版を理解する上で、次の点に留意する必要があります。

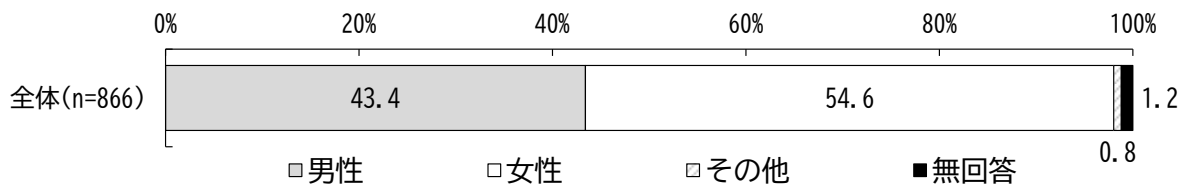
- 比率は百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- 基数となるべき実数は、“n=〇〇”として掲載し、各比率は回答数を100%として算出しています。
- 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- グラフ中の選択肢の文言は一部簡略化しています。
- 問の中には「～に○をつけた方がいます。」などいろいろな制限があり、また、回答者数が少なく、有意性の低いものも含まれます。
- アンケート調査における「前回調査」とは令和2年に実施した同種のアンケート調査結果となります（前回調査は16歳以上の町民と中学3年生を対象に実施）。
- 前回調査では、年齢による回答率の差から回答者の年齢の偏りが顕著（2ページ参照）であったことから、今回調査では年齢による回答率の差を考慮して、サンプル数を年齢別に割り当てた上で、サンプルを無作為に抽出しています。

2. 回答者の属性

(1) 住民アンケート調査

①性別

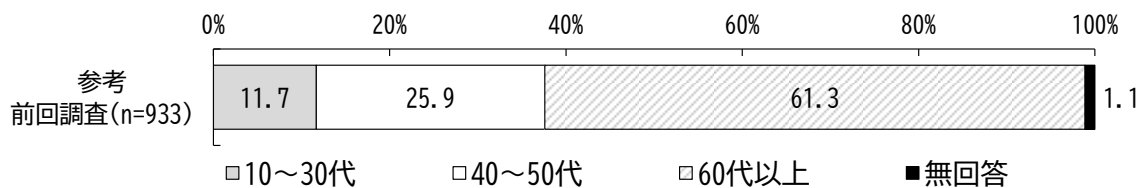
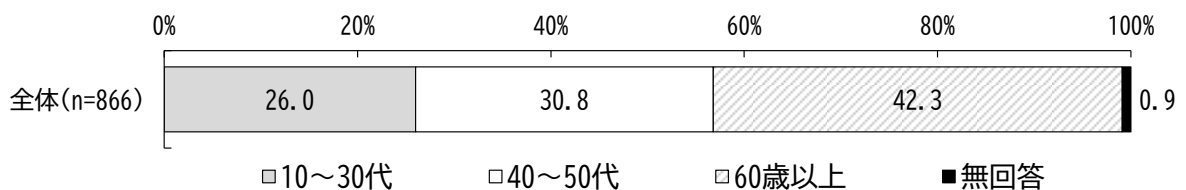
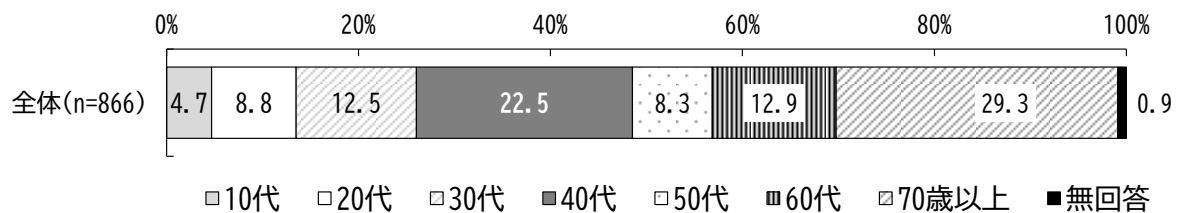
■回答者の性別は、「女性」が54.6%、「男性」が43.4%、「その他」が0.8%となっています。



②年齢

■回答者の年齢は、「70歳以上」が29.3%で最も多く、次いで「40代」(22.5%)、「60代」(12.9%)、「30代」(12.5%)、「20代」(8.8%)、「50代」(8.3%)、「10代」(4.7%)の順となっています。

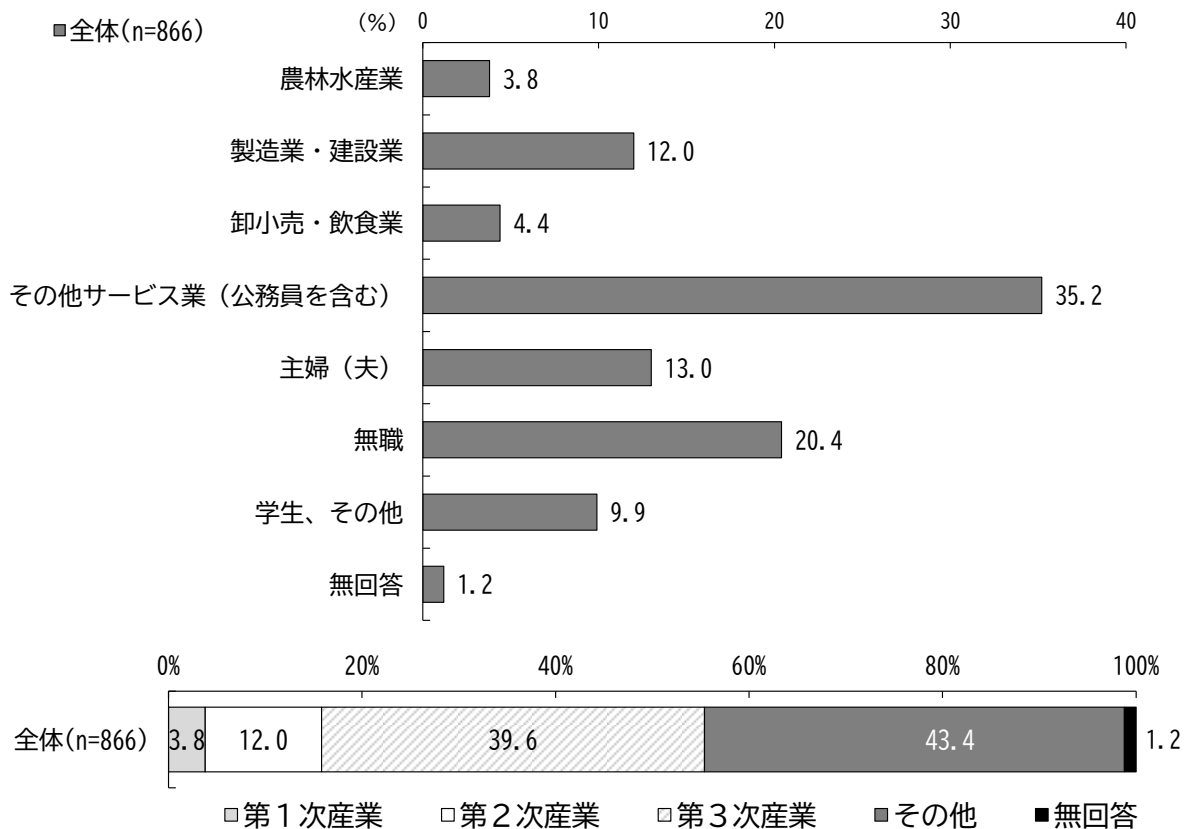
■年齢3区分で見ると「60歳以上」が42.3%、「40～50代」が30.8%、「10～30代」が26.0%となっています。



③職業

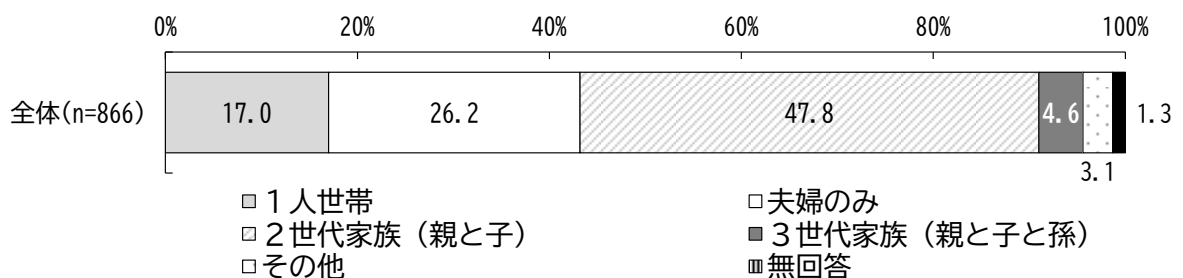
■回答者の職業は、「その他サービス業（公務員を含む）」が35.2%で最も多く、次いで「無職」（20.4%）、「主婦（夫）」（13.0%）、「製造業・建設業」（12.0%）、「学生、その他」（9.9%）、「卸小売業・飲食業」（4.4%）、「農林水産業」（3.8%）の順となっています。

■産業分類でみると「その他」が43.4%で最も多く、第3次産業が39.6%、第2次産業が12.0%、第1次産業が3.8%となっています。



④家族構成

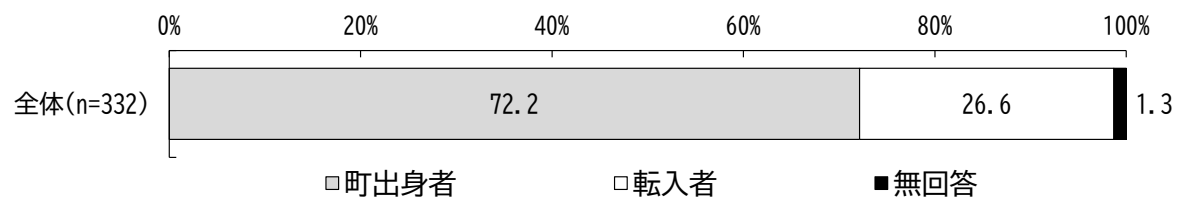
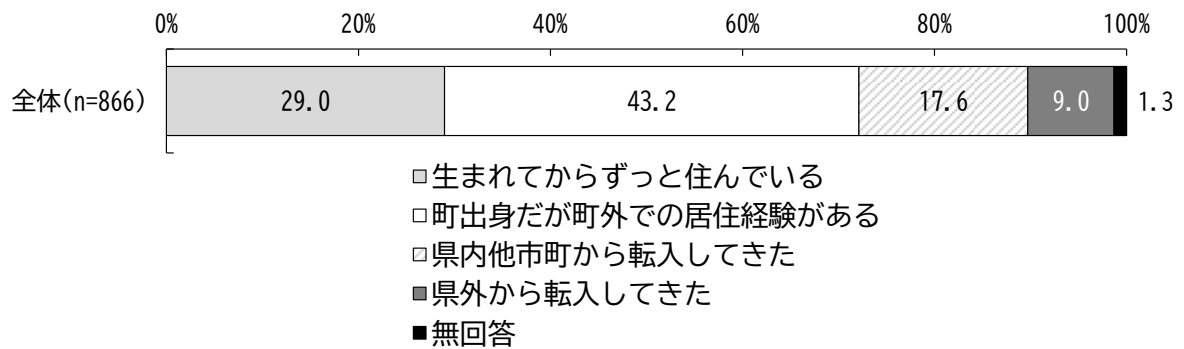
■回答者の家族構成は、「2世代家族（親と子）」が47.8%で最も多く、次いで「夫婦のみ」が26.2%、「1人世帯」（17.0%）、「3世代家族（親と子と孫）」（4.6%）、「その他」（3.1%）となっています。



⑤居住歴

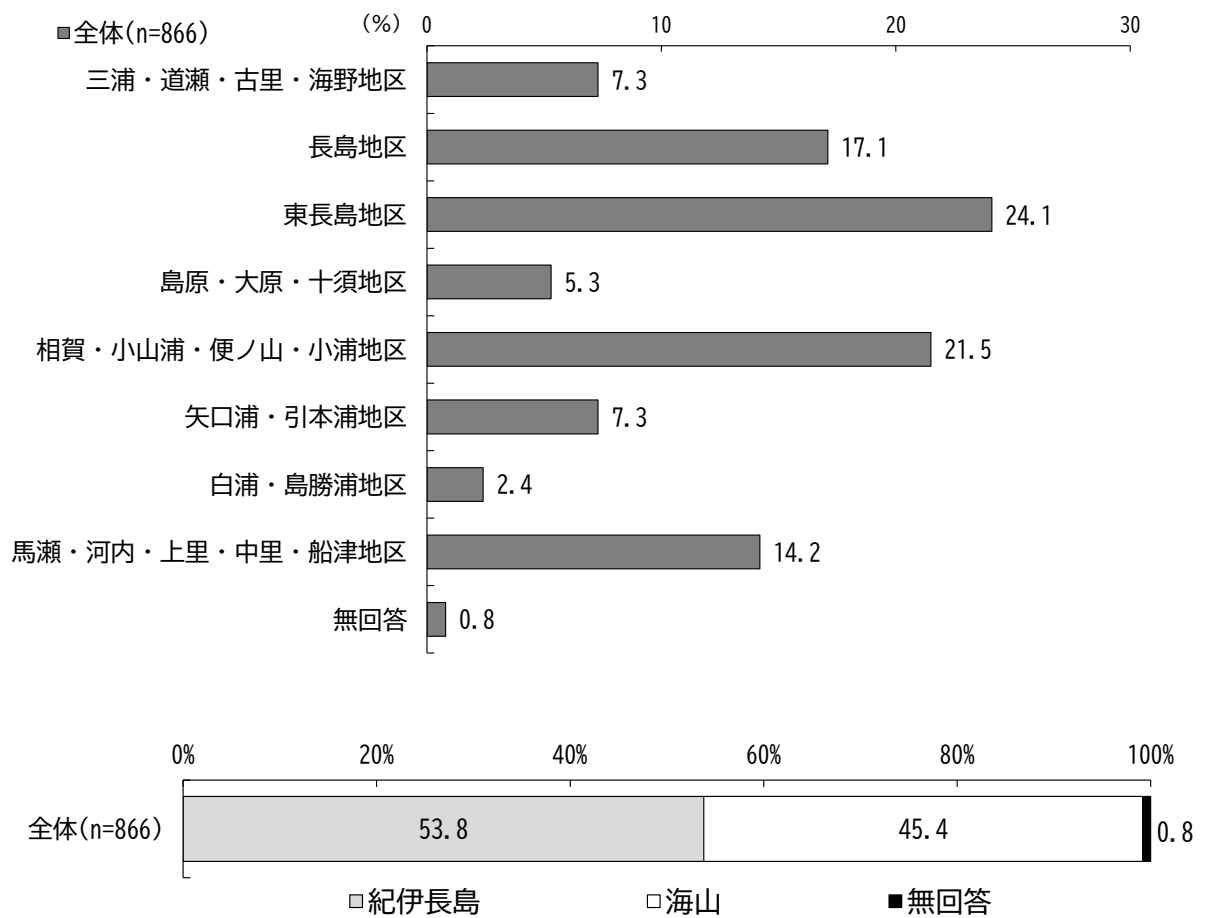
■回答者の居住歴は、「町出身だが町外での居住経験がある」が43.2%で最も多く、次いで「生まれてからずっと住んでいる」が29.0%、「県内他市町から転入してきた」が17.6%、「県外から転入してきた」が9.0%となっています。

■『町出身者』（「生まれてからずっと住んでいる」及び「町出身だが町外での居住経験がある」）、『転入者』（「県内他市町から転入してきた」及び「県外から転入してきた」）に区分すると、『町出身者』が72.2%、『転入者』が26.6%となっています。



⑥居住地区

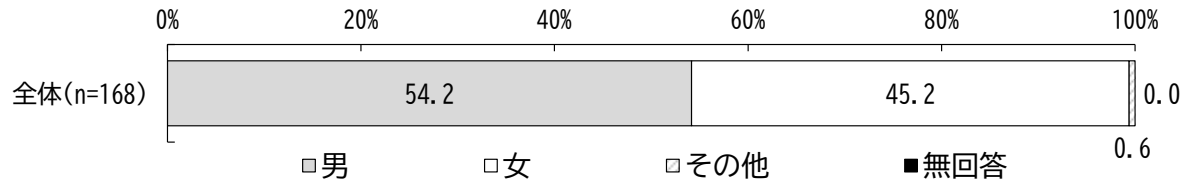
- 回答者の居住地区は、「東長島地区」(24.1%)が最も多く、次いで「相賀・小山浦・便ノ山・小浦地区」(21.5%)、「長島地区」(17.1%)、「馬瀬・河内・上里・中里・船津地区」(14.2%)、「三浦・道瀬・古里・海野地区」及び「矢口浦・引本浦地区」(同率7.3%)、「島原・大原・十須地区」(5.3%)、「白浦・島勝浦地区」(2.4%)となっています。
- 居住地域は、「紀伊長島」が53.8%、「海山」が45.4%となっています。



(2) 中学生アンケート調査

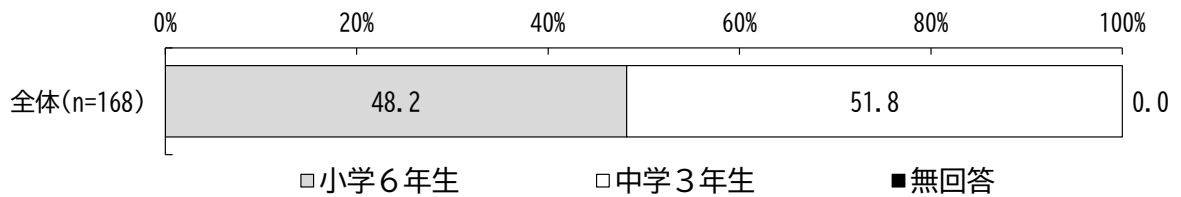
①性別

■回答者の性別は、「男」が54.2%「女」が45.2%、「その他」が0.6%となっています。



②学年

■回答者の学年は、「中学3年生」が51.8%、「小学6年生」が48.2%となっています。



II. 住民アンケートの調査結果

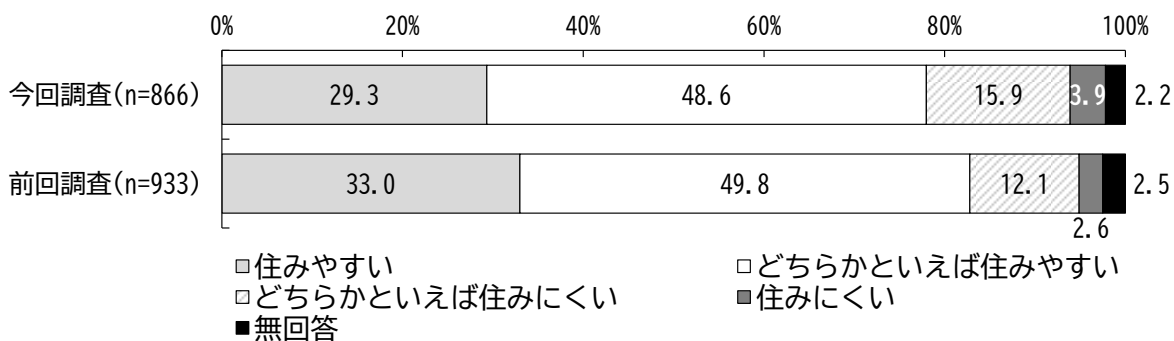
1. 町の住みやすさについて

(1) 町の住みやすさ

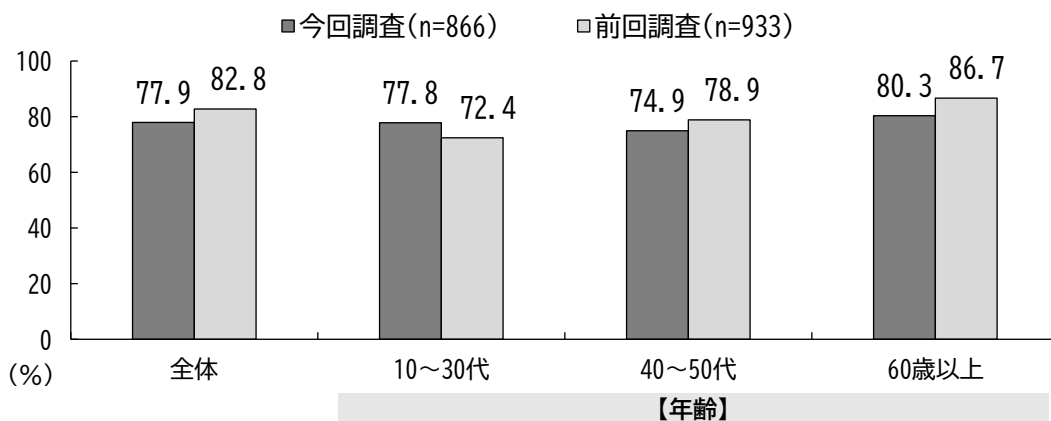
問2 あなたにとって、紀北町は住みやすいまちですか。

- 紀北町の住みやすさについては、「どちらかといえば住みやすい」が 48.6%と半数を占め、これに「住みやすい」(29.3%)を合わせた『住みやすい』が 77.9%となっています。一方、『住みにくい』(「どちらかといえば住みにくい」15.9%及び「住みにくい」3.9%の合計)は 19.8%にとどまります。
- 『住みやすい』は前回調査(82.8%)から全体で約5ポイント減少し、年齢別の40代~50代、60歳以上で減少しています。一方、10~30代では増加しています。
- 『住みやすい』と回答する割合をみていくと、年齢別では60代以上で80.3%、10~30代で77.8%、40~50代で74.9%となっています。
- 性別では、男性(80.3%)が女性(76.8%)を上回ります。
- 居住歴では、町出身者(78.0%)と転入者(77.8%)がほぼ同率となっています。
- 居住地域では、海山(78.6%)と紀伊長島(77.5%)がほぼ同率となっています。
- 『住みにくい』は年齢別の40~50代で23.9%と最も多くなっています。

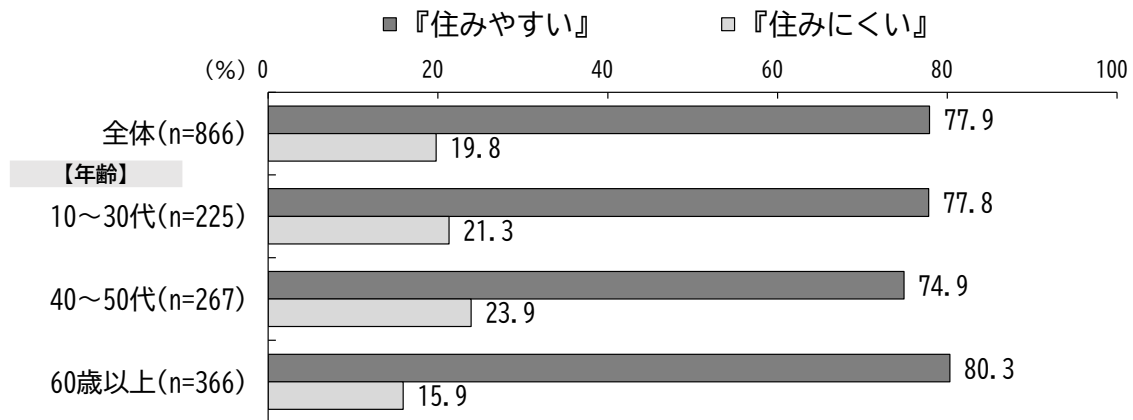
町の住みやすさ (全体/前回調査との比較)



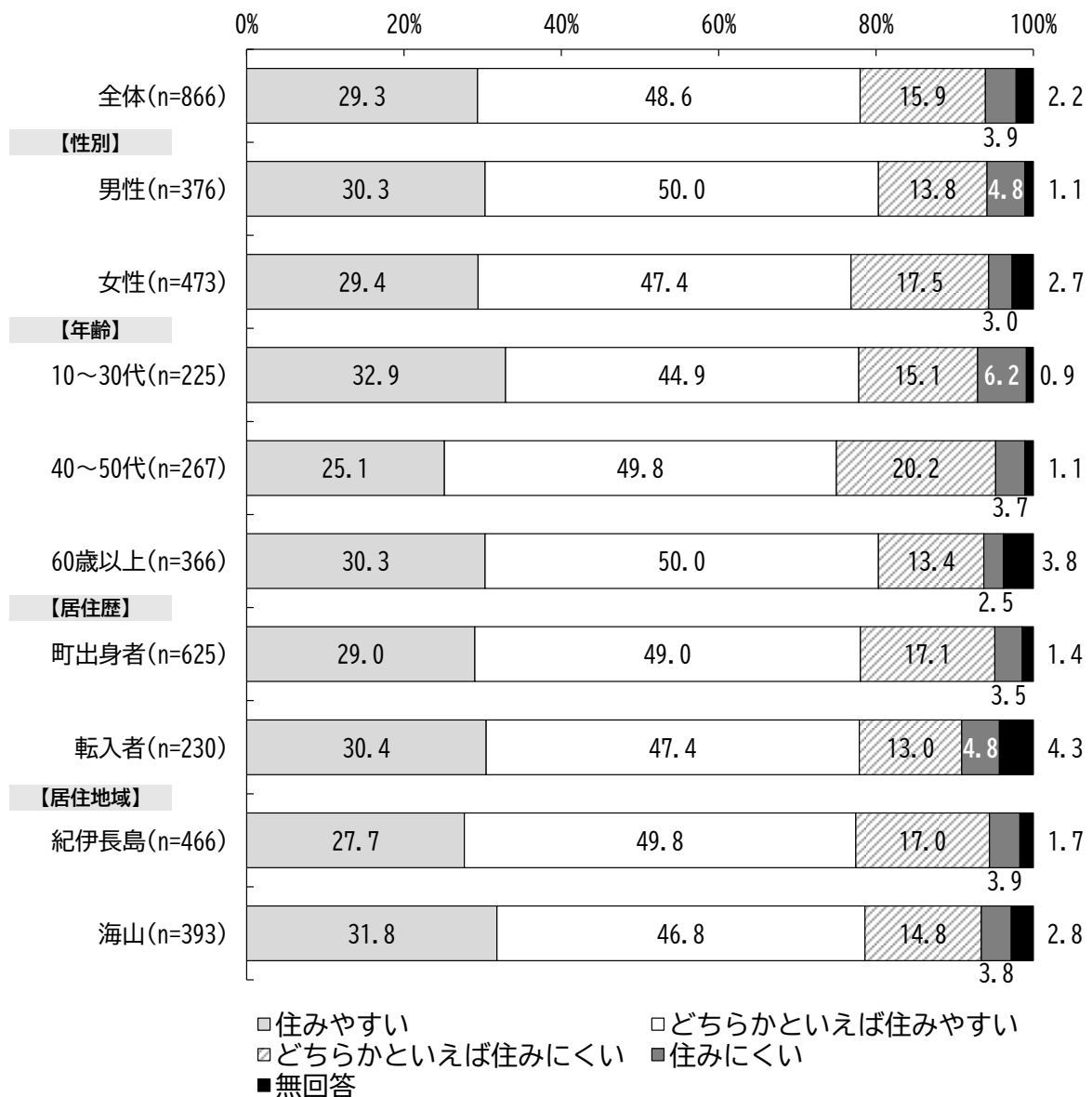
町の住みやすさ (全体、性別/『住みやすい』の回答割合/前回調査との比較)



町の住みやすさ（全体、年齢での『住みやすい』と『住みにくい』の回答割合）



町の住みやすさ（全体、性別、年齢、居住歴、居住地域）



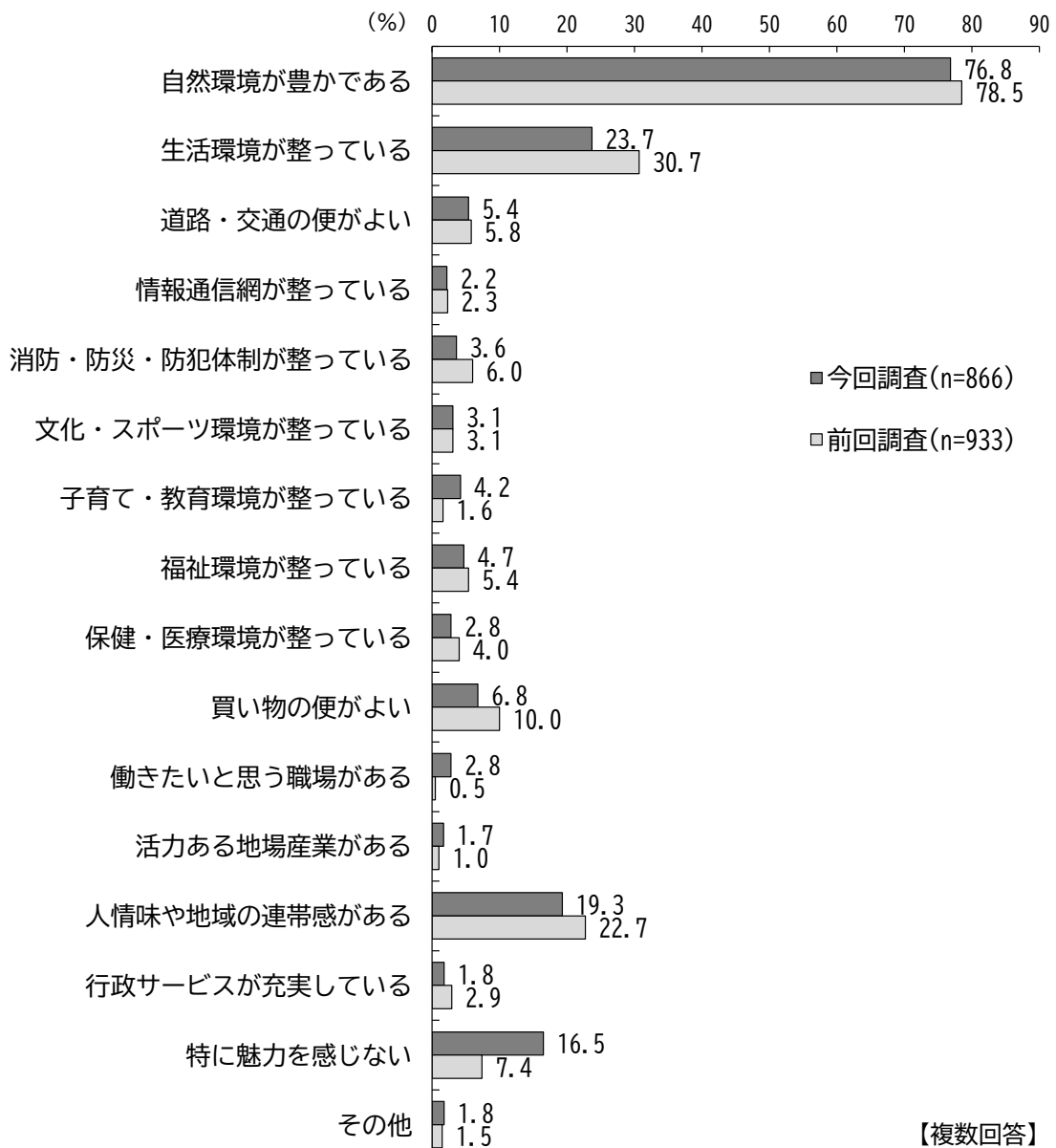
(2) 町の魅力について

問3 あなたは、紀北町のどのようなところに魅力を感じていますか。【複数回答】

■紀北町の魅力については、「自然環境が豊かである」(76.8%)が前回調査と同様に第1位に挙げられ、次いで「生活環境が整っている」(23.7%)、「人情味や地域の連帯感がある」(19.3%)が続き、これらが町の住みやすさにつながっていることがうかがえます。

■性別、年齢、居住歴、居住地域でも、すべての層で「自然環境が豊かである」が第1位となっています。

町の魅力について（全体／前回調査との比較）



町の魅力について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地域）

（複数回答、上位3位、単位：％）

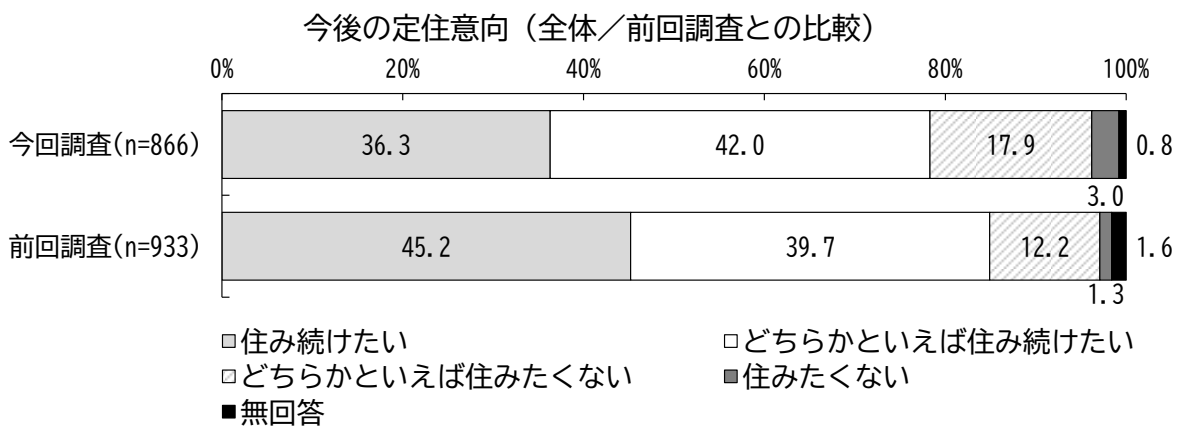
		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		自然環境が豊かである 76.8	生活環境が整っている 23.7	人情味や地域の連帯感がある 19.3
性別	男性(n=376)	自然環境が豊かである 79.0	生活環境が整っている 22.9	人情味や地域の連帯感がある 19.7
	女性(n=473)	自然環境が豊かである 75.1	生活環境が整っている 24.3	人情味や地域の連帯感がある 18.8
年齢	10～30代(n=225)	自然環境が豊かである 83.1	生活環境が整っている 19.6	人情味や地域の連帯感がある 17.3
	40～50代(n=267)	自然環境が豊かである 80.5	人情味や地域の連帯感がある 19.5	特に魅力を感じない 15.0
	60歳以上(n=366)	自然環境が豊かである 70.5	生活環境が整っている 32.8	人情味や地域の連帯感がある 20.2
居住歴	町出身者(n=625)	自然環境が豊かである 80.0	生活環境が整っている 21.6	人情味や地域の連帯感がある 21.0
	転入者(n=230)	自然環境が豊かである 69.1	生活環境が整っている 29.1	特に魅力を感じない 15.7
居住地域	紀伊長島(n=466)	自然環境が豊かである 74.2	生活環境が整っている 20.0	特に魅力を感じない 19.5
	海山(n=393)	自然環境が豊かである 79.9	生活環境が整っている 27.7	人情味や地域の連帯感がある 21.4

2. 定住意向について

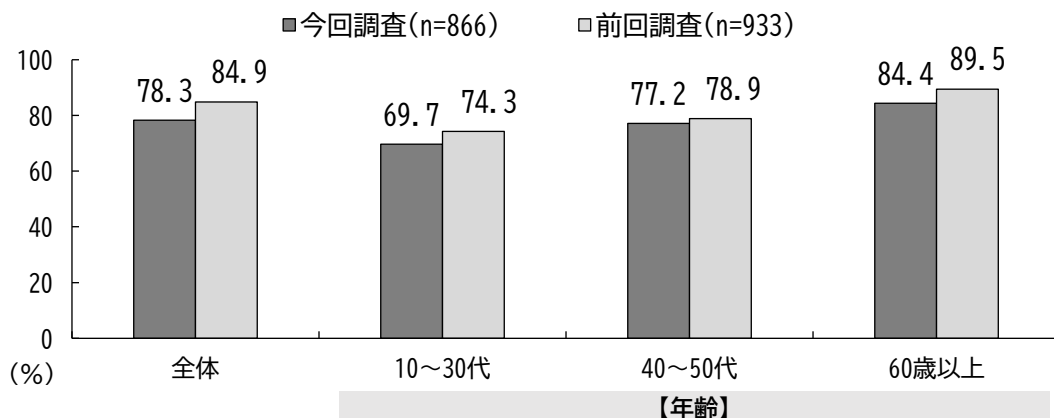
(1) 今後の定住意向について

問4 あなたは、これからも紀北町に住み続けたいと思いますか。

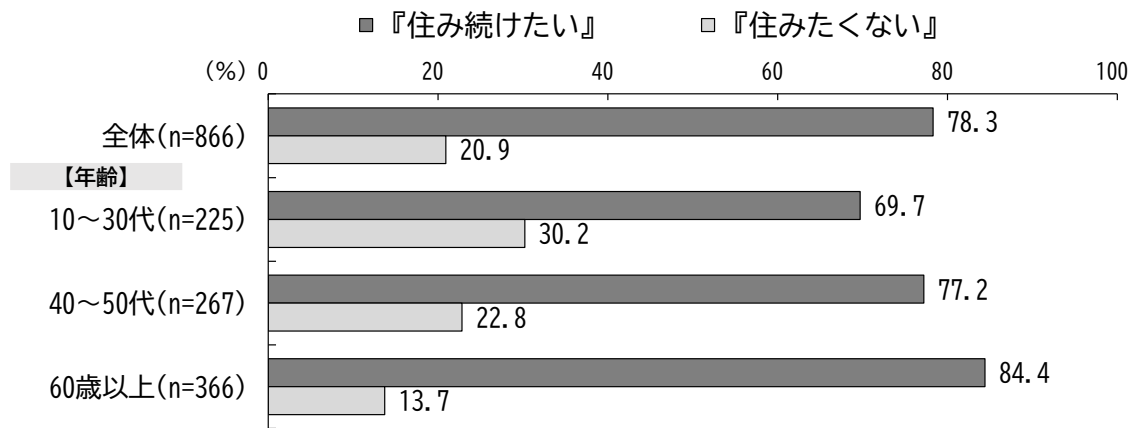
- 紀北町の住みやすさについては、「どちらかといえば住み続けたい」が42.0%と約4割を占め、これに「住み続けたい」(36.3%)をあわせた『住み続けたい』が78.3%となっています。一方、『住みたくない』(「どちらかといえば住みたくない」17.9%及び「住みたくない」3.0%の合計)は20.9%となっています。
- 『住み続けたい』は前回調査(84.9%)から全体で約7ポイント減少しています。また、年齢別でもすべての層で減少しています。
- 『住み続けたい』の割合をみていくと、年齢では、10~30代で69.7%、40~50代で77.2%、60代以上で84.4%と、年齢が上がるにつれて『住み続けたい』と回答する割合が増加しています。
- 性別では、男性(81.2%)が女性(76.5%)を上回ります。
- 居住歴では、町出身者(79.0%)が転入者(76.1%)を上回ります。
- 居住地域では、海山(80.2%)が紀伊長島(77.1%)を上回ります。
- 『住みたくない』は年齢別の10~30代で30.2%と最も多くなっています。



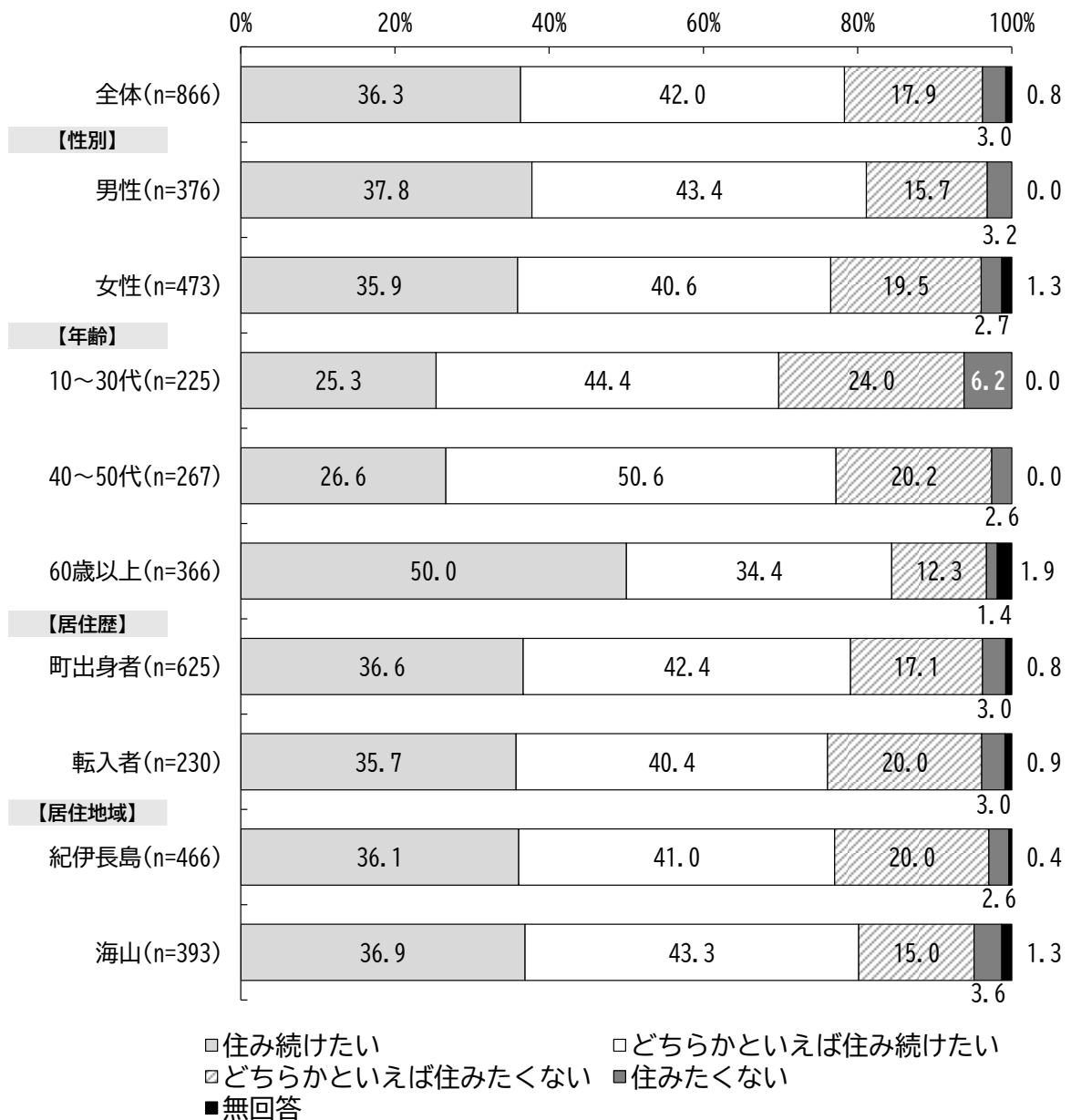
今後の定住意向 (全体、性別/『住み続けたい』の回答割合/前回調査との比較)



今後の定住意向（全体、年齢での『住みたい』と『住みたくない』の回答割合）



今後の定住意向（全体、性別、年齢、居住歴、居住地域）



(2) 住みたくない理由について

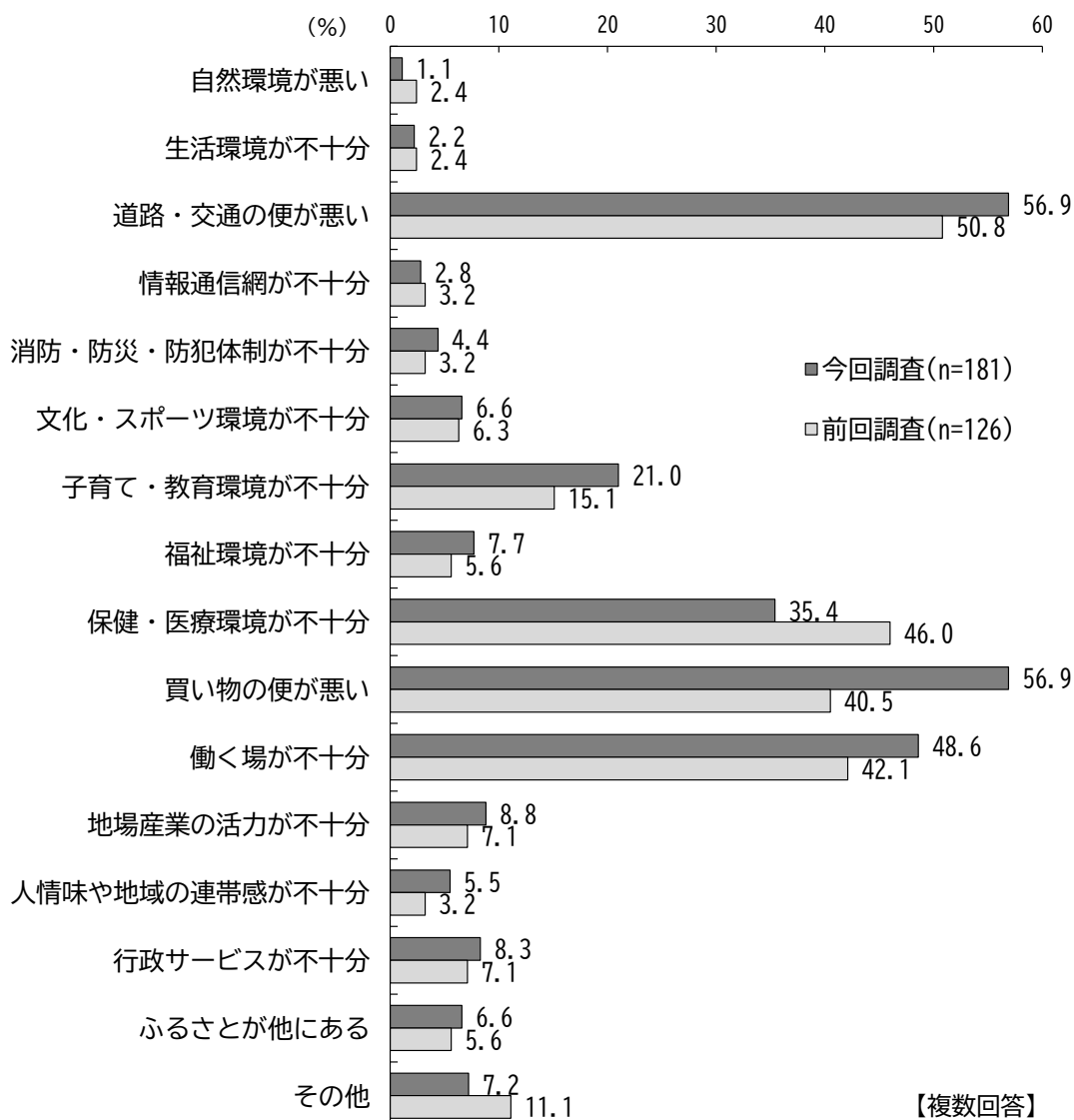
問4で「3」または「4」（住みたくない）に○をつけた方にうかがいます。
 問4付問 その主な理由は何ですか。【複数回答】

■住みたくない理由は、「道路・交通の便が悪い」及び「買い物の便が悪い」（同率56.9%）が第1位に挙げられ、次いで、「働く場が不十分」（48.6%）、「保健・医療環境が不十分」（35.4%）が続き、住みたくない理由の上位回答は前回調査と同様の傾向となっています。

■性別で見ると、男性では「道路・交通の便が悪い」（52.1%）、女性では「買い物の便が悪い」（63.8%）が第1位となっています。

■年齢別の10～30代では「働く場が不十分」（64.7%）、40～50代では「道路・交通の便が悪い」及び「買い物の便が悪い」（同率59.0%）、60歳以上では「買い物の便が悪い」（66.0%）がそれぞれ第1位に挙げられています。

住みたくない理由について（全体／前回調査との比較、『住みたくない』と回答した人のみ）



住みたくない理由について

(全体、性別、年齢、居住歴、居住地域／『住みたくない』と回答した人のみ)

(複数回答、上位3位、単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=181)		道路・交通の便が悪い／買い物の便が悪い 56.9		働く場が不十分 48.6
性別	男性(n=71)	道路・交通の便が悪い 52.1	買い物の便が悪い 47.9	働く場が不十分 45.1
	女性(n=105)	買い物の便が悪い 63.8	道路・交通の便が悪い 60.0	働く場が不十分 50.5
年齢	10～30代(n=68)	働く場が不十分 64.7	道路・交通の便が悪い 54.4	買い物の便が悪い 50.0
	40～50代(n=61)	道路・交通の便が悪い／買い物の便が悪い 59.0		働く場が不十分 49.2
	60歳以上(n=50)	買い物の便が悪い 66.0	道路・交通の便が悪い 58.0	保健・医療環境が不十分 42.0
居住歴	町出身者(n=126)	道路・交通の便が悪い 61.9	買い物の便が悪い 59.5	働く場が不十分 52.4
	転入者(n=53)	買い物の便が悪い 52.8	道路・交通の便が悪い 45.3	働く場が不十分 41.5
居住地域	紀伊長島(n=105)	道路・交通の便が悪い 58.1	買い物の便が悪い 56.2	働く場が不十分 50.5
	海山(n=73)	買い物の便が悪い 60.3	道路・交通の便が悪い 56.2	働く場が不十分 47.9

3. 町の現状と今後の取り組みについて

(1) 町の各環境に対する満足度・重要度

問5 町の現状についての満足度と重要度をおたずねします。

①町の各環境に対する満足度・重要度

- 町の現状についての満足度と重要度について、「1 生活基盤分野」、「2 保健・医療・福祉分野」、「3 産業分野」、「4 教育・文化・スポーツ分野」、「5 住民参画・行財政分野」の5分野 28 項目について、5段階で評価した結果を点数化しました（次ページの※評価点算出方法参照）。
- 満足度が最も高い項目は「1-⑫自然環境の豊かさ」となっており、次いで「1-④ごみ処理の状況」、「1-⑤上水道の整備状況」、「1-③騒音・振動等の状況」、「5-⑤広報や情報提供体制の状況」が続きます。
- 満足度が最も低い項目は「1-⑩公共交通の便利さ」となっており、次いで「3-②働きがいのある職場」、「1-①自然災害からの安全性」、「3-①日常の買い物の便利さ」、「1-⑧公園・緑地等の整備状況」が続きます。
- 重要度が最も高い項目は「1-①自然災害からの安全性」となっており、次いで「2-①保健・医療の状況」、「3-①日常の買い物の便利さ」、「1-④ごみの収集処理の状況」、「1-⑫自然環境の豊かさ」が続きます。

満足度（全体／評価点、上位5位、下位5位）

順位	上位項目	評価点	順位	下位項目	評価点
1	1-⑫自然環境の豊かさ	4.25	1	1-⑩公共交通の便利さ	2.31
2	1-④ごみの収集処理の状況	4.04	2	3-②働きがいのある職場	2.68
3	1-⑤上水道の整備状況	4.02	3	1-①自然災害からの安全性	2.71
4	1-③騒音・振動等の状況	3.77	4	3-①日常の買い物の便利さ	2.75
5	5-⑤広報や情報提供体制の状況	3.56	5	1-⑧公園・緑地等の整備状況	2.91

※各項目の先頭にある番号（「1-〇」）は1が生活基盤分野、2が保健・医療・福祉分野、3が産業分野、4が教育・文化・スポーツ分野、5が住民参画・行財政分野を表します。

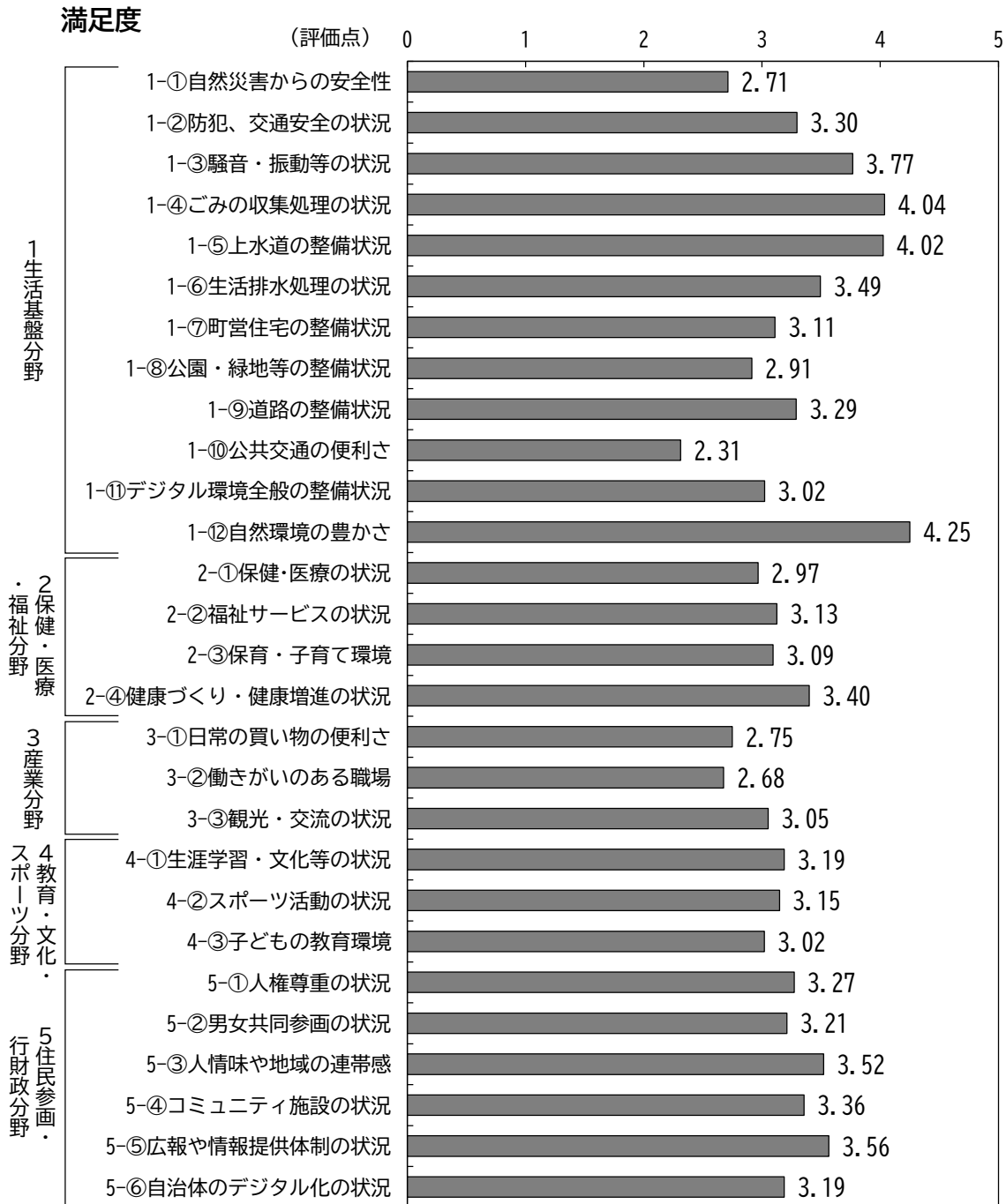
重要度（全体／評価点、上位10位）

順位	項目	評価点	順位	項目	評価点
1	1-①自然災害からの安全性	4.31	6	1-②防犯、交通安全の状況	3.97
2	2-①保健・医療の状況	4.20	7	1-⑤上水道の整備状況	3.94
3	3-①日常の買い物の便利さ	4.15		3-②働きがいのある職場	
4	1-④ごみの収集処理の状況	4.03	9	2-②福祉サービスの状況	3.93
5	1-⑫自然環境の豊かさ	3.99	10	1-⑩公共交通の便利さ	3.86

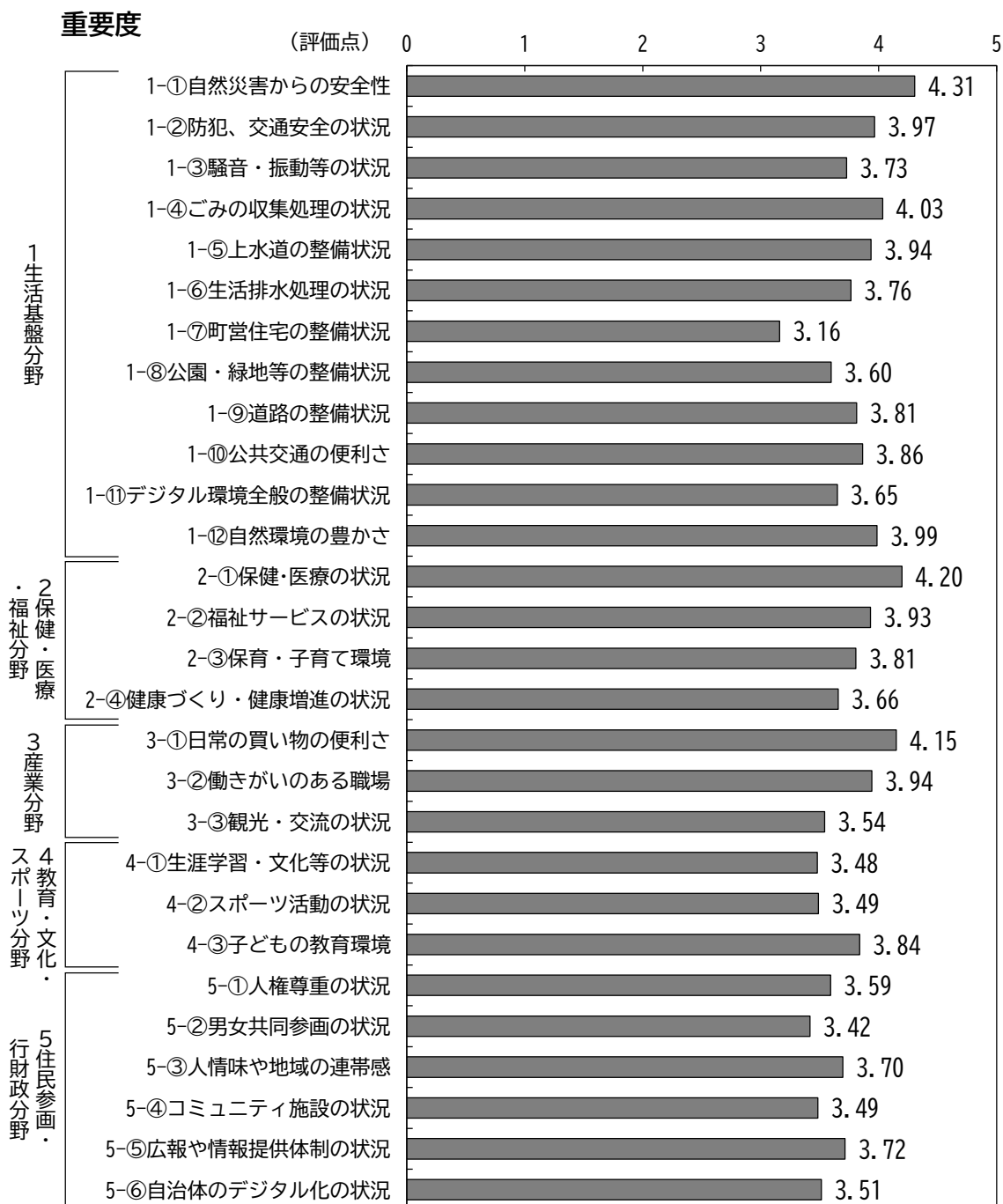
※評価点の算出方法（満足度の場合、重要度も同様）
5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left[\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 4 \text{点} + \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 3 \text{点} + \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「不満である」の回答者数} \times 1 \text{点} \end{array} \right]}{\left[\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の回答者数} \end{array} \right]}$$

満足度（全体／評価点）



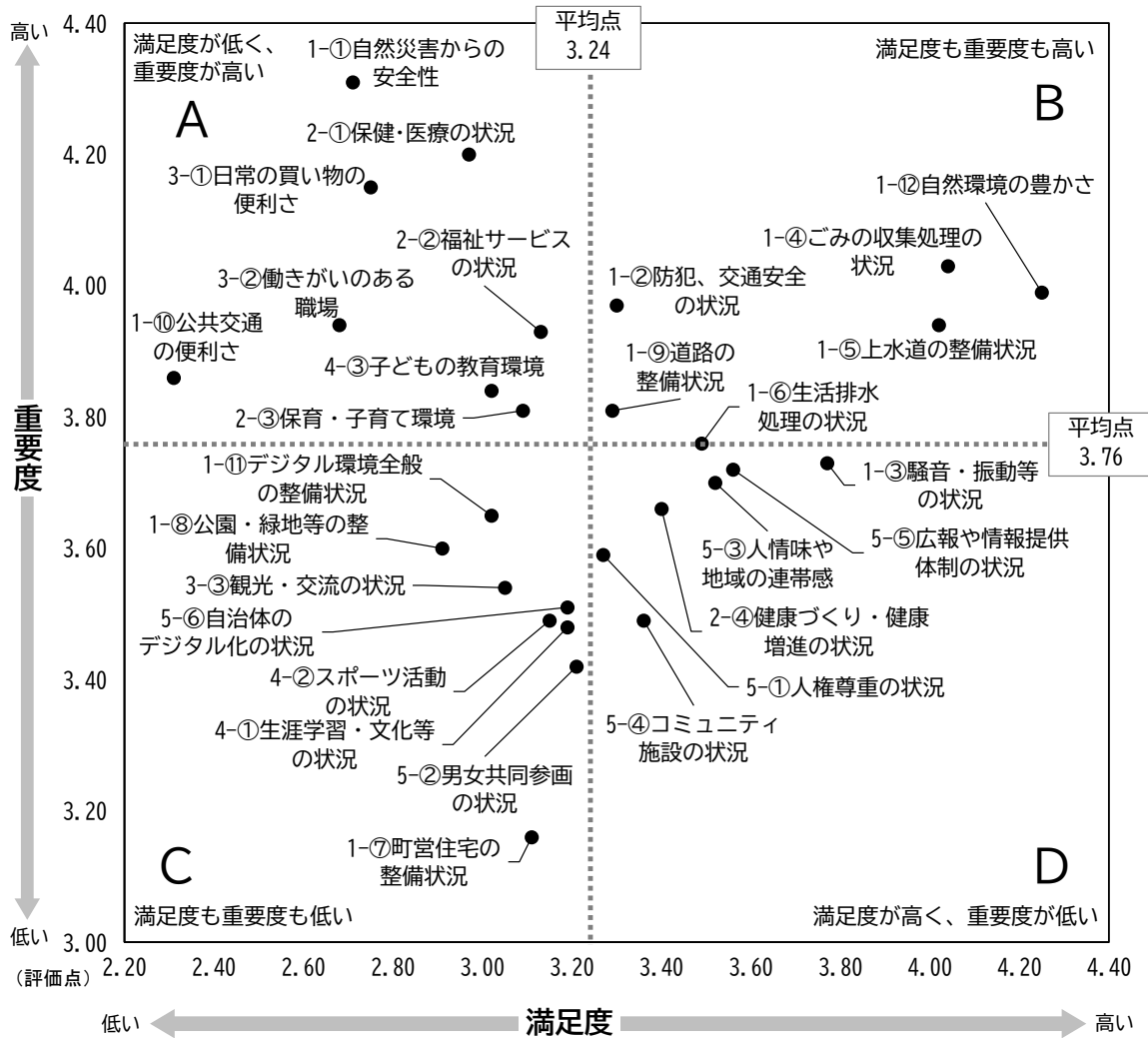
重要度（全体／評価点）



②満足度・重要度の散布図

■満足度と重要度の散布図を作成し、4つの領域に区分すると満足度が低く、重要度が高い『A』の領域に区分される項目は、「1-①自然災害からの安全性」、「2-①保健・医療の状況」、「3-①日常の買い物の便利さ」、「3-②働きがいのある職場」、「2-②福祉サービスの状況」、「1-⑩公共交通の便利さ」、「4-③子どもの教育環境」、「2-③保育・子育て環境」となっており、主に防災、保健・医療・福祉、子育て・教育、生活利便性の向上、働く場の確保などが優先して取り組む必要がある項目といえます。

満足度・重要度の散布図



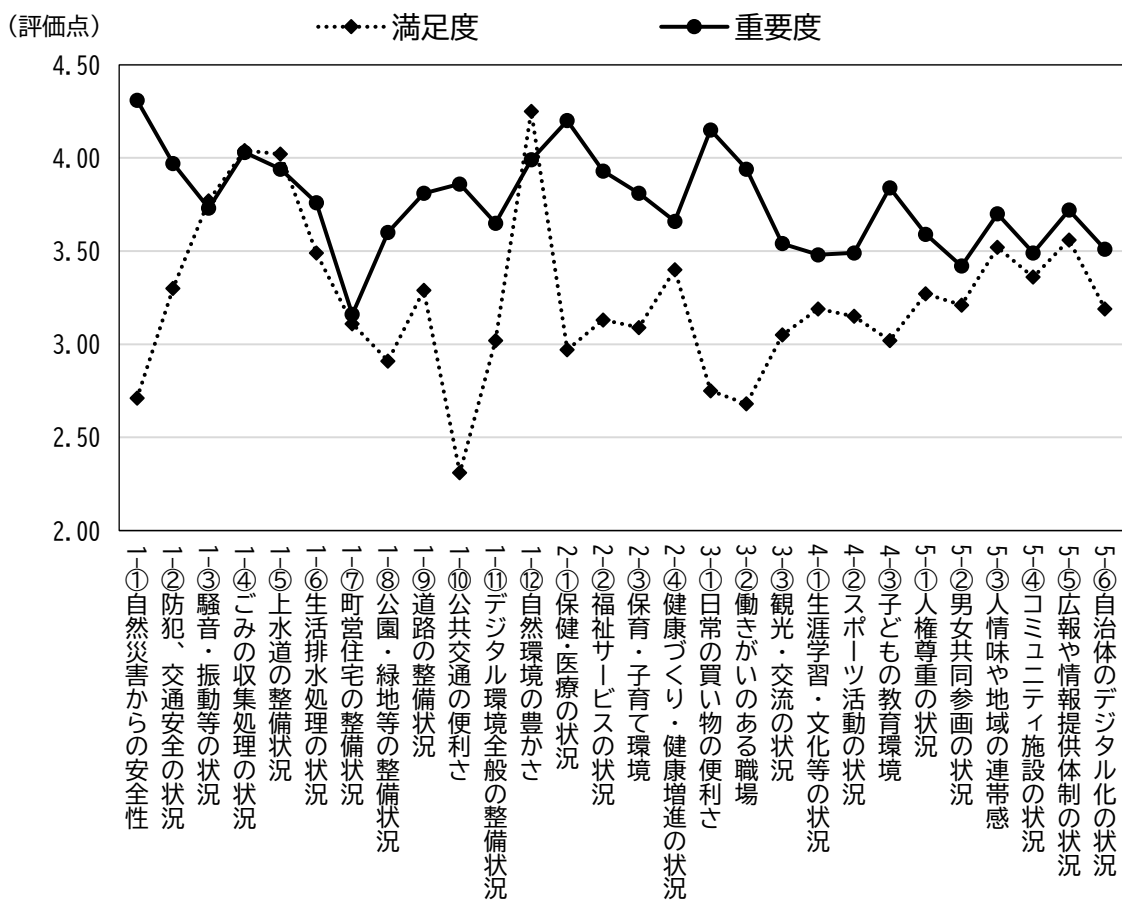
領域	A	B	C	D
項目	1-①自然災害からの安全性 2-①保健・医療の状況 3-①日常の買い物の便利さ 3-②働きがいのある職場 2-②福祉サービスの状況 1-⑩公共交通の便利さ 4-③子どもの教育環境 2-③保育・子育て環境	1-④ごみの収集処理の状況 1-⑫自然環境の豊かさ 1-②防犯、交通安全の状況 1-⑤上水道の整備状況 1-⑨道路の整備状況 1-⑥生活排水処理の状況	1-⑪デジタル環境全般の整備状況 1-⑧公園・緑地等の整備状況 3-③観光・交流の状況 5-⑥自治体のデジタル化の状況 4-②スポーツ活動の状況 4-①生涯学習・文化等の状況 5-②男女共同参画の状況 1-⑦町営住宅の整備状況	1-③騒音・振動等の状況 5-⑤広報や情報提供体制の状況 5-③人情味や地域の連帯感 2-④健康づくり・健康増進の状況 5-①人権尊重の状況 5-④コミュニティ施設の状況

※重要度が高い順

③満足度と重要度の比較

■満足度と重要度を比較すると、「1-③騒音・振動等の状況」、「1-④ごみの収集処理の状況」、「1-⑤上水道の整備状況」、「1-⑥生活排水処理の状況」、「1-⑦町営住宅の整備状況」などでは近い評価点となっていますが、一方、「1-①自然災害からの安全性」、「1-⑩公共交通の便利さ」、「2-①保健・医療の状況」、「3-①日常の買い物の便利さ」、「3-②働きがいのある職場」などでは、評価点に大きな開きがみられ、こうした項目について、満足度を高めることでギャップを埋めていくことが必要となります。

満足度・重要度の比較（全体／評価点）



④満足度と重要度の経年変化

- 満足度を前回調査と比較すると、「5-⑤広報や情報提供体制の状況」(0.24点増)、「1-⑥生活排水処理の状況」(0.16点増)、「1-①自然災害からの安全性」(0.14点増)などの点数が増加しています。
- 重要度を前回調査と比較すると、「3-②働きがいのある職場」(0.15点増)、「1-②防犯、交通安全の状況」及び「3-①日常の買い物の便利さ」(同点0.13点増)などの点数が増加しています。

満足度と重要度の経年変化(全体/評価点)

項目	満足度			重要度		
	今回調査	前回調査	増減	今回調査	前回調査	増減
1-①自然災害からの安全性	△ 2.71	△ 2.57	③ 0.14	① 4.31	① 4.34	△ -0.03
1-②防犯、交通安全の状況	3.30	3.21	0.09	3.97	3.84	② 0.13
1-③騒音・振動等の状況	④ 3.77	④ 3.67	0.10	3.73	3.65	0.08
1-④ごみの収集処理の状況	② 4.04	② 4.04	0.00	④ 4.03	3.95	0.08
1-⑤上水道の整備状況	③ 4.02	③ 4.01	0.01	3.94	3.89	0.05
1-⑥生活排水処理の状況	3.49	3.33	② 0.16	3.76	3.69	0.07
1-⑦町営住宅の整備状況	3.11	3.11	0.00	△ 3.16	△ 3.15	0.01
1-⑧公園・緑地等の整備状況	△ 2.91	△ 2.95	-0.04	3.60	△ 3.51	0.09
1-⑨道路の整備状況	3.29	3.15	③ 0.14	3.81	3.77	0.04
1-⑩公共交通の便利さ	△ 2.31	△ 2.27	0.04	3.86	3.77	0.09
1-⑪デジタル環境全般の整備状況	3.02	3.04	-0.02	3.65	3.55	⑤ 0.10
1-⑫自然環境の豊かさ	① 4.25	① 4.21	0.04	⑤ 3.99	② 4.14	△ -0.15
2-①保健・医療の状況	2.97	3.03	△ -0.06	② 4.20	③ 4.11	0.09
2-②福祉サービスの状況	3.13	3.16	-0.03	3.93	⑤ 3.99	△ -0.06
2-③保育・子育て環境	3.09	3.14	△ -0.05	3.81	3.76	0.05
2-④健康づくり・健康増進の状況※	3.40	-	-	3.66	-	-
3-①日常の買い物の便利さ	△ 2.75	3.05	△ -0.30	③ 4.15	④ 4.02	② 0.13
3-②働きがいのある職場	△ 2.68	△ 2.74	△ -0.06	3.94	3.79	① 0.15
3-③観光・交流の状況	3.05	△ 2.93	⑤ 0.12	3.54	3.59	△ -0.05
4-①生涯学習・文化等の状況	3.19	3.16	0.03	△ 3.48	△ 3.51	△ -0.03
4-②スポーツ活動の状況	3.15	3.20	△ -0.05	△ 3.49	△ 3.51	-0.02
4-③子どもの教育環境	3.02	3.02	0.00	3.84	3.78	0.06
5-①人権尊重の状況	3.27	3.20	0.07	3.59	3.58	0.01
5-②男女共同参画の状況	3.21	3.15	0.06	△ 3.42	△ 3.41	0.01
5-③人情味や地域の連帯感	3.52	⑤ 3.47	0.05	3.70	3.69	0.01
5-④コミュニティ施設の状況	3.36	3.30	0.06	△ 3.49	3.54	△ -0.05
5-⑤広報や情報提供体制の状況	⑤ 3.56	3.32	① 0.24	3.72	3.60	④ 0.12
5-⑥自治体のデジタル化の状況※	3.19	-	-	3.51	-	-
平均	3.24	3.23	0.01	3.76	3.70	0.06

※2-④、5-⑥は今回調査から追加した項目になります。

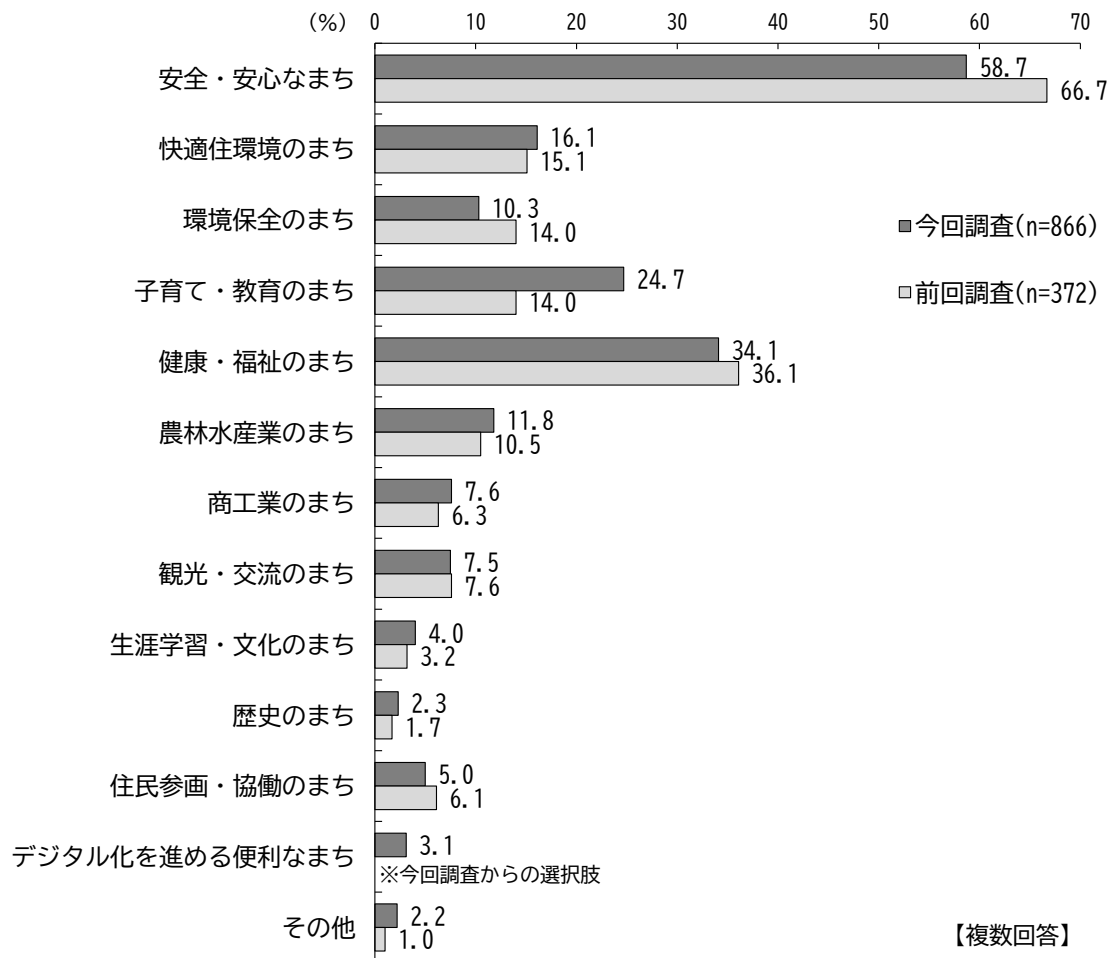
※○の項目は上位項目、△の項目は下位の項目を表しています。「増減」の欄では、○の数字はプラスの大きい順番、△の数字はマイナスの大きい順番を表しています。

(2) 今後のまちづくりの特色について

問6 あなたは、今後のまちづくりにおいて、紀北町をどのような特色のあるまちにすべきだと考えますか。【複数回答】

- 今後のまちづくりの特色について、「安全・安心なまち」(58.1%)が第1位に挙げられ、次いで「健康・福祉のまち」(34.1%)が続き、前回調査と同様の項目が上位となっています。
- 性別、年齢、居住歴、居住地域でも、すべての層で「安全・安心なまち」が第1位に挙げられ、多くの層で「健康・福祉のまち」が第2位となるなど、防災、健康・福祉を軸としたまちづくりへの関心が強い結果となっています。
- 年齢別の10～30代、40～50代では、「災害に強い安全・安心なまち」に次いで「子育て・教育のまち」が第2位に挙げられ、子どもを持つ世代では子育て支援や教育に対する期待が強い結果となっています。

今後のまちづくりの特色について（全体／複数回答）



今後のまちづくりの特色について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地域）

（複数回答、上位3位、単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		安全・安心なまち 58.7	健康・福祉のまち 34.1	子育て・教育のまち 24.7
性別	男性(n=376)	安全・安心なまち 53.2	健康・福祉のまち 30.1	子育て・教育のまち 23.1
	女性(n=473)	安全・安心なまち 63.8	健康・福祉のまち 37.6	子育て・教育のまち 26.4
年齢	10～30代(n=225)	安全・安心なまち 53.8	子育て・教育のまち 32.9	快適住環境のまち 19.6
	40～50代(n=267)	安全・安心なまち 55.1	子育て・教育のまち 35.2	健康・福祉のまち 25.5
	60歳以上(n=366)	安全・安心なまち 64.8	健康・福祉のまち 49.7	農林水産業のまち 14.5
居住歴	町出身者(n=625)	安全・安心なまち 58.6	健康・福祉のまち 35.2	子育て・教育のまち 23.2
	転入者(n=230)	安全・安心なまち 60.0	健康・福祉のまち 31.7	子育て・教育のまち 29.6
居住地域	紀伊長島(n=466)	安全・安心なまち 58.6	健康・福祉のまち 33.0	子育て・教育のまち 24.9
	海山(n=393)	安全・安心なまち 59.3	健康・福祉のまち 35.4	子育て・教育のまち 24.7

4. 分野別の取り組みについて

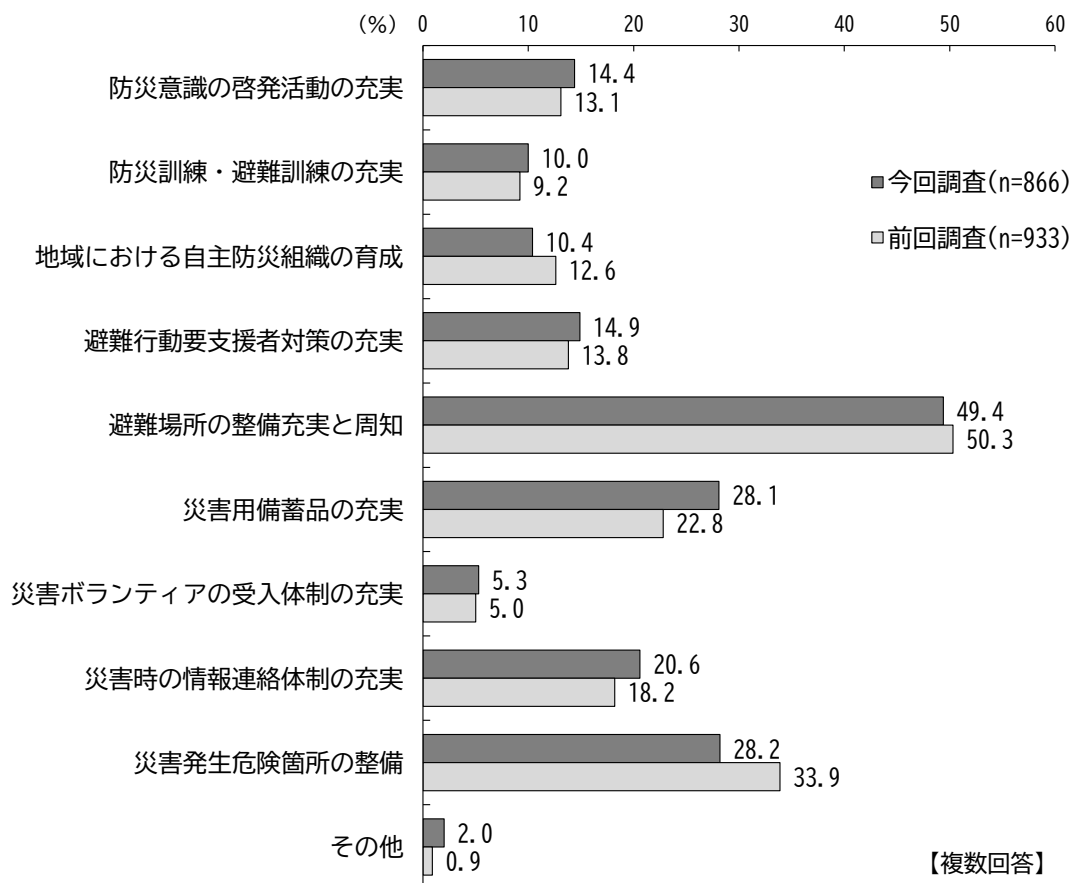
(1) 防災対策について

問7 あなたは、町の防災対策について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
【複数回答】

■「避難場所の整備充実と周知」(49.4%)が前回調査と同様に第1位に挙げられ、次いで「災害発生危険箇所の整備」(28.2%)、「災害用備蓄品の充実」(28.1%)が続きます。

■性別、年齢、居住歴、居住地域でも、すべての層で「避難場所の整備充実と周知」が第1位となっています。

防災対策について（全体／前回調査との比較）



防災対策について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地域）

（複数回答、上位3位、単位：％）

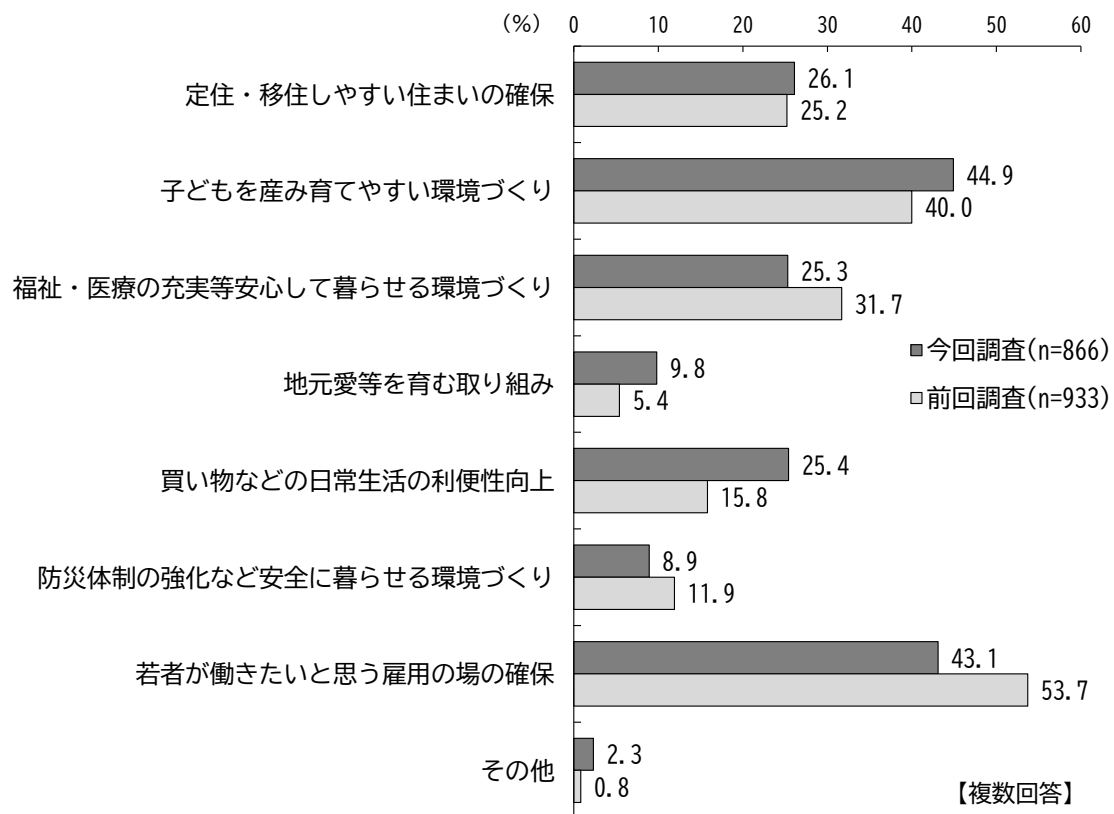
		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		避難場所の整備充実と周知 49.4	災害発生危険箇所の整備 28.2	災害用備蓄品の充実 28.1
性別	男性(n=376)	避難場所の整備充実と周知 42.3	災害発生危険箇所の整備 27.1	災害用備蓄品の充実 26.3
	女性(n=473)	避難場所の整備充実と周知 55.6	災害用備蓄品の充実 29.8	災害発生危険箇所の整備 28.1
年齢	10～30代(n=225)	避難場所の整備充実と周知 46.7	災害用備蓄品の充実 31.6	災害発生危険箇所の整備 27.6
	40～50代(n=267)	避難場所の整備充実と周知 53.2	災害発生危険箇所の整備 30.0	災害用備蓄品の充実 28.1
	60歳以上(n=366)	避難場所の整備充実と周知 48.1	災害発生危険箇所の整備 27.0	災害用備蓄品の充実 26.0
居住歴	町出身者(n=625)	避難場所の整備充実と周知 49.9	災害発生危険箇所の整備 30.9	災害用備蓄品の充実 28.0
	転入者(n=230)	避難場所の整備充実と周知 48.7	災害用備蓄品の充実 28.3	災害時の情報連絡体制の充実 24.3
居住地域	紀伊長島(n=466)	避難場所の整備充実と周知 50.0	災害発生危険箇所の整備 27.7	災害用備蓄品の充実 27.3
	海山(n=393)	避難場所の整備充実と周知 48.6	災害用備蓄品の充実 29.0	災害発生危険箇所の整備 28.2

(2) 定住対策について

問8 あなたは、若者の定住対策として、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
【複数回答】

- 定住対策については、「子どもを産み育てやすい環境づくり」(44.9%) が最も多く、次いで「若者が働きたいと思う雇用の場の確保」(43.1%) が続きます。
- 前回調査より「子どもを産み育てやすい環境づくり」と回答する割合が増加しています。
- 性別、年齢、居住歴、居住地域でも、ほとんどの層で「子どもを産み育てやすい環境づくり」が第1位となっていますが、年齢別の60歳以上では「若者が働きたいと思う雇用の場の確保」が第1位となっています。

定住対策について（全体／前回調査との比較）



定住対策について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地域）

（複数回答、上位3位、単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		子どもを産み育てやすい環境づくり 44.9	若者が働きたいと思う雇用の場の確保 43.1	定住・移住しやすい住まいの確保 26.1
性別	男性(n=376)	子どもを産み育てやすい環境づくり 45.5	若者が働きたいと思う雇用の場の確保 41.5	定住・移住しやすい住まいの確保 28.5
	女性(n=473)	子どもを産み育てやすい環境づくり／若者が働きたいと思う雇用の場の確保 44.6		福祉・医療の充実等安心して暮らせる環境づくり／買い物などの日常生活の利便性向上 26.8
年齢	10～30代(n=225)	子どもを産み育てやすい環境づくり 53.3	定住・移住しやすい住まいの確保 32.4	買い物などの日常生活の利便性向上／若者が働きたいと思う雇用の場の確保 29.8
	40～50代(n=267)	子どもを産み育てやすい環境づくり 47.9	若者が働きたいと思う雇用の場の確保 43.4	買い物などの日常生活の利便性向上 27.0
	60歳以上(n=366)	若者が働きたいと思う雇用の場の確保 51.1	子どもを産み育てやすい環境づくり 38.0	福祉・医療の充実等安心して暮らせる環境づくり 30.9
居住歴	町出身者(n=625)	子どもを産み育てやすい環境づくり 45.9	若者が働きたいと思う雇用の場の確保 44.3	定住・移住しやすい住まいの確保 25.8
	転入者(n=230)	子どもを産み育てやすい環境づくり 43.5	若者が働きたいと思う雇用の場の確保 40.4	定住・移住しやすい住まいの確保 27.0
居住地域	紀伊長島(n=466)	子どもを産み育てやすい環境づくり 45.3	若者が働きたいと思う雇用の場の確保 42.3	買い物などの日常生活の利便性向上 27.7
	海山(n=393)	子どもを産み育てやすい環境づくり 45.0	若者が働きたいと思う雇用の場の確保 44.0	定住・移住しやすい住まいの確保 27.2

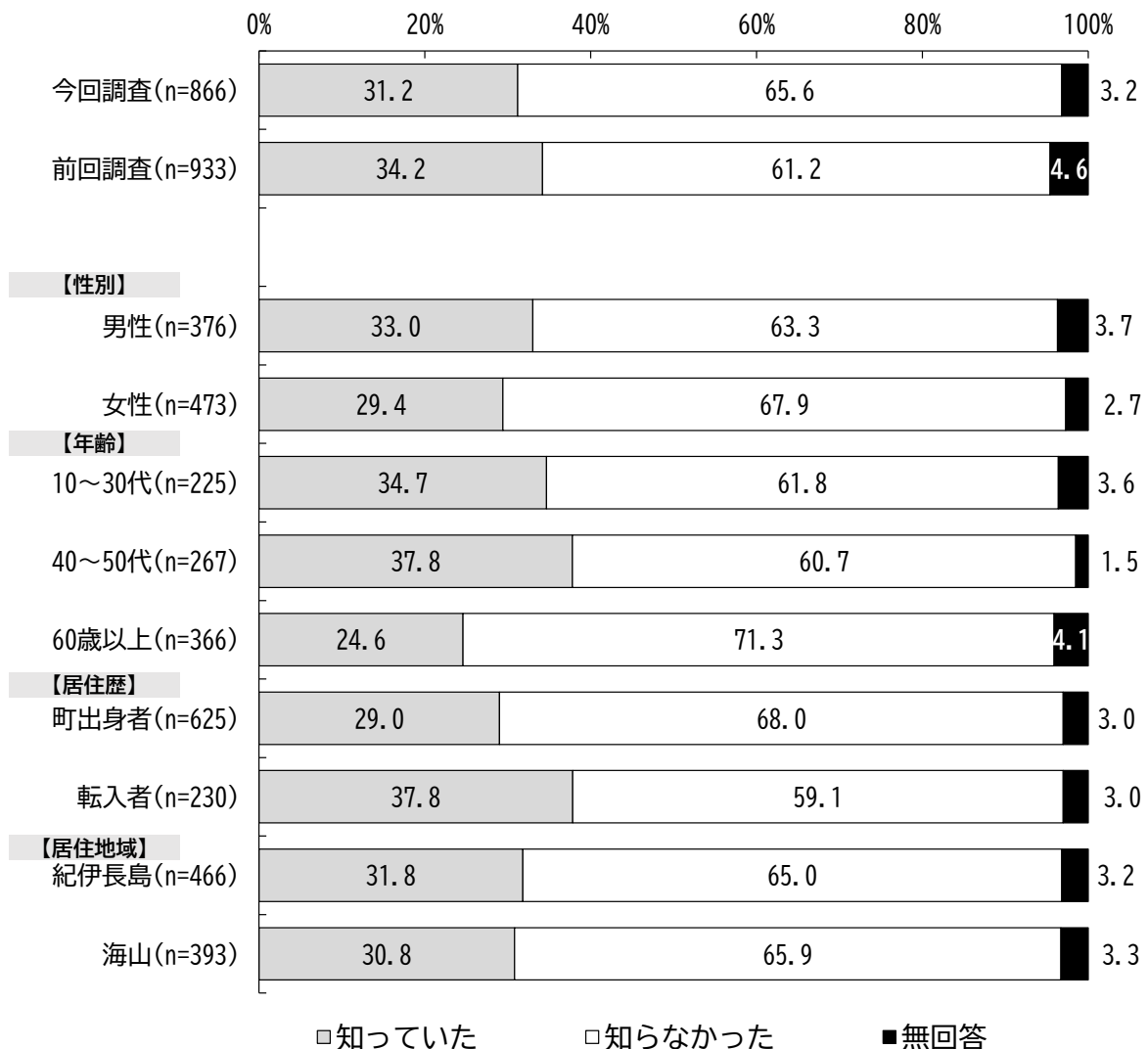
(3) 環境について

①「自然と共生の町」宣言の認知度

問9 紀北町では、豊かな自然を次世代につなぐため、平成30年に「自然と共生の町」宣言を行っています。あなたはこの宣言を知っていますか。

- 「自然と共生の町」宣言については、「知っていた」が31.2%、「知らなかった」が65.6%となっています。
- 「知っていた」と回答した割合をみると、性別では男性(33.3%)が女性(29.4%)を上回ります。
- 年齢では、40～50代で37.8%、10～30代で34.7%、60歳以上で24.6%となっており、60歳以上での認知度が低くなっています。
- 居住歴では、転入者(37.8%)が町出身者(29.0%)を上回っています。
- 居住地域では、紀伊長島(31.8%)、海山(30.8%)でほぼ同率となっています。

「自然と共生の町」宣言の認知度（全体・前回調査比較、性別、年齢、居住歴、居住地域）

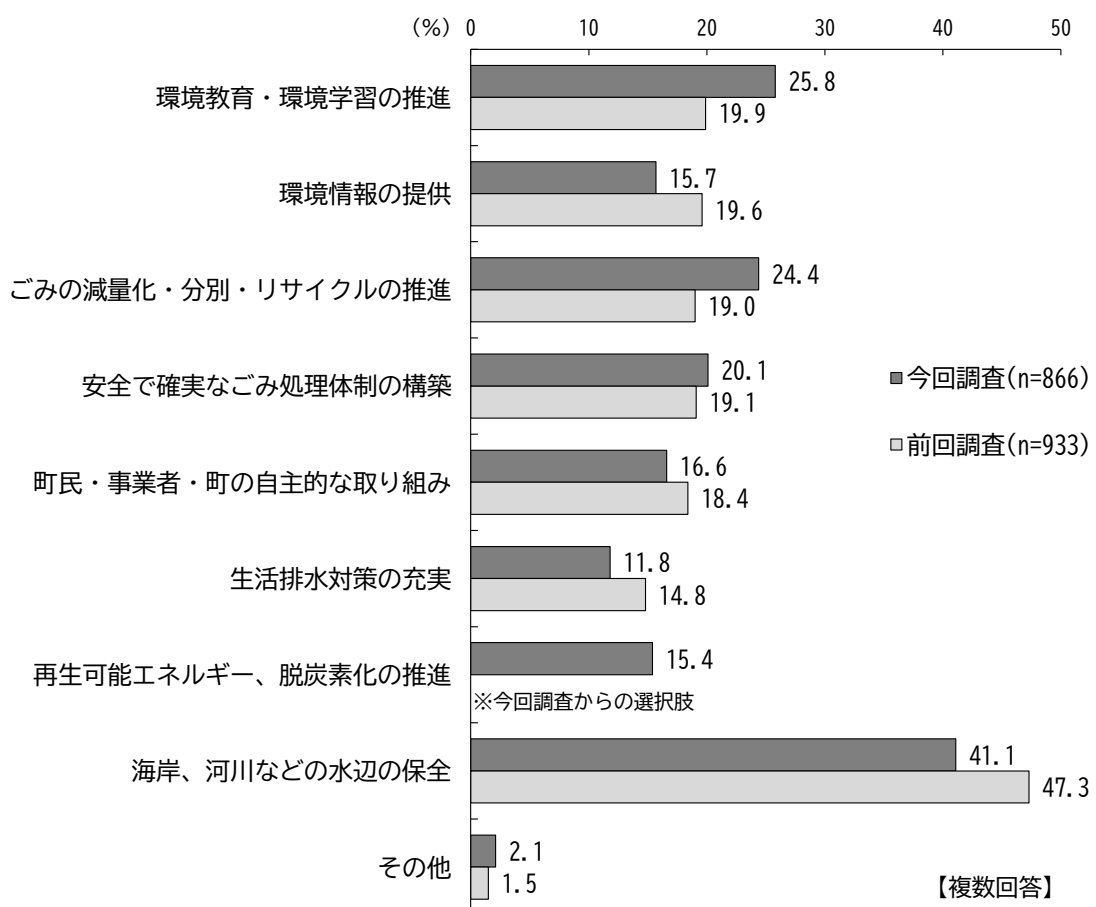


②環境保全について

問10 あなたは、地域の環境保全に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
【複数回答】

- 環境保全については、「海岸、河川などの水辺の保全」(41.1%)が前回調査と同様に最も多く、次いで「環境教育・環境学習の推進」(25.8%)、「ごみの減量化・分別・リサイクルの推進」(24.4%)などの順となっています。
- 性別、年齢、居住歴、居住地域でも、すべての層で「海岸、河川などの水辺の保全」が第1位となっています。

環境保全について（全体／前回調査との比較）



環境保全について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地域）

（複数回答、上位3位、単位：％）

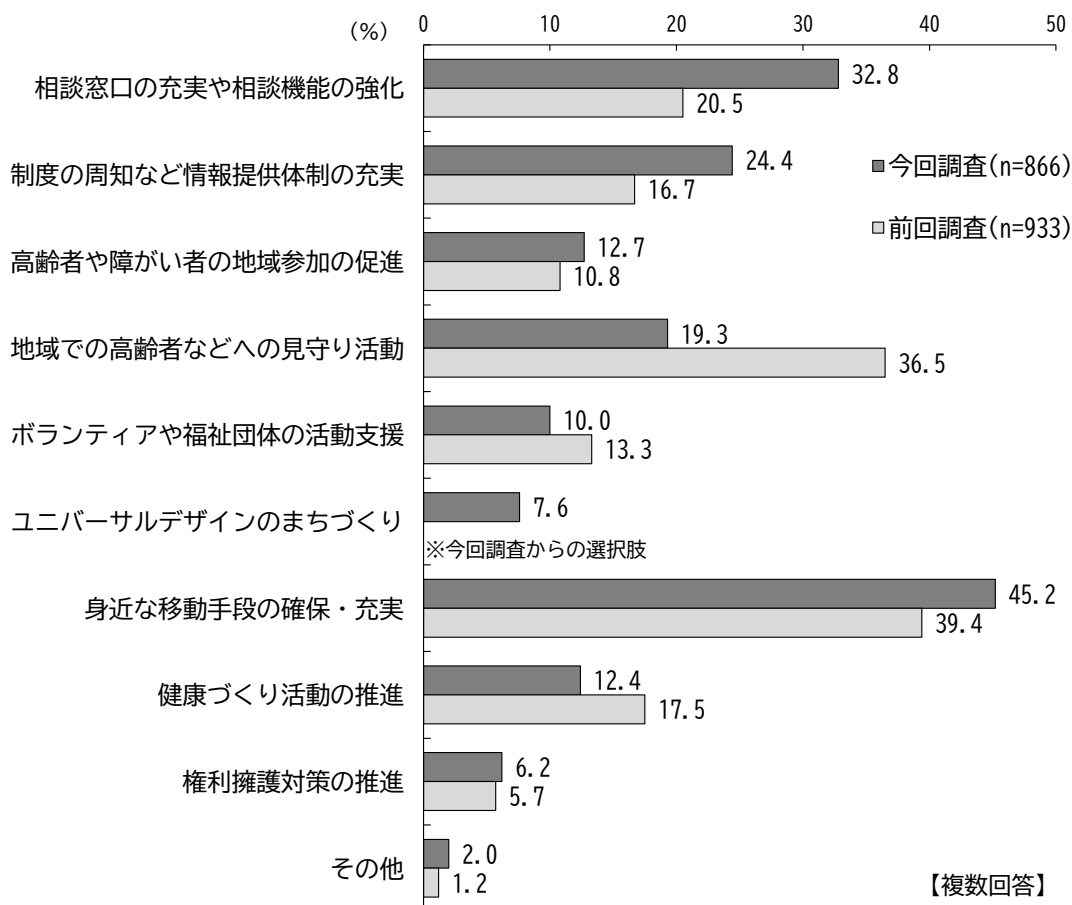
		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		海岸、河川などの水辺の保全 41.1	環境教育・環境学習の推進 25.8	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 24.4
性別	男性(n=376)	海岸、河川などの水辺の保全 41.2	環境教育・環境学習の推進 25.5	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 24.2
	女性(n=473)	海岸、河川などの水辺の保全 40.8	環境教育・環境学習の推進 25.8	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 24.5
年齢	10～30代(n=225)	海岸、河川などの水辺の保全 41.8	環境教育・環境学習の推進 36.9	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 23.1
	40～50代(n=267)	海岸、河川などの水辺の保全 43.4	環境教育・環境学習の推進 27.7	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 25.5
	60歳以上(n=366)	海岸、河川などの水辺の保全 38.8	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 24.6	環境情報の提供 19.1
居住歴	町出身者(n=625)	海岸、河川などの水辺の保全 43.0	環境教育・環境学習の推進 25.3	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 22.9
	転入者(n=230)	海岸、河川などの水辺の保全 35.7	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 29.1	環境教育・環境学習の推進 27.8
居住地域	紀伊長島(n=466)	海岸、河川などの水辺の保全 38.6	環境教育・環境学習の推進 28.1	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 26.0
	海山(n=393)	海岸、河川などの水辺の保全 43.8	環境教育・環境学習の推進 23.2	ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 22.6

(4) 地域福祉について

問11 あなたは、地域での福祉環境の充実に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

- 地域福祉の充実については、「身近な移動手段の確保・充実」(45.2%)が第1位に挙げられ、次いで「相談窓口の充実や相談機能の強化」(32.8%)、「制度の周知など情報提供体制の充実」(24.4%)などの順となっています。
- 前回調査と比較すると、「身近な移動手段の確保・充実」が前回調査と同様に第1位となっていますが、第2位の「相談窓口の充実や相談機能の強化」と回答する割合が増加しています。
- 性別、年齢、居住歴、居住地域でも、すべての層で「身近な移動手段の確保・充実」が第1位に、「相談窓口の充実や相談機能の強化」が第2位に挙げられています。

地域福祉について（全体／前回調査との比較）



地域福祉について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地域）

（複数回答、上位3位、単位：％）

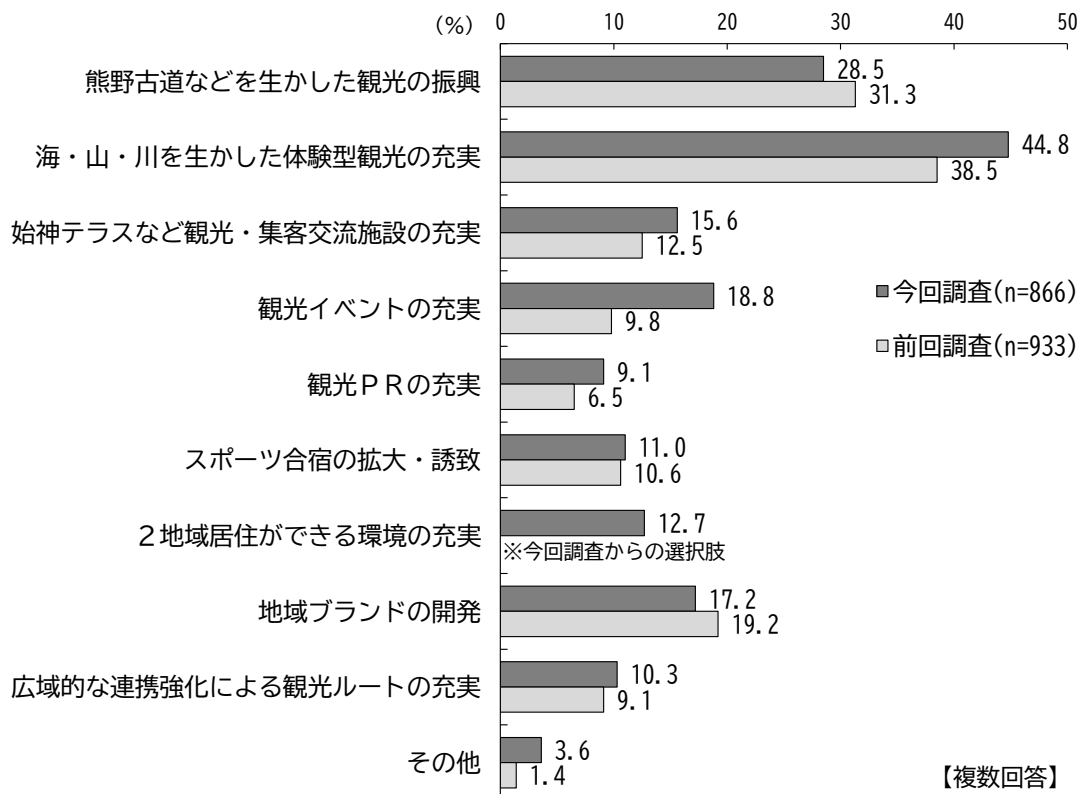
		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		身近な移動手段の確保・充実 45.2	相談窓口の充実や相談機能の強化 32.8	制度の周知など情報提供体制の充実 24.4
性別	男性(n=376)	身近な移動手段の確保・充実 41.2	相談窓口の充実や相談機能の強化 31.9	制度の周知など情報提供体制の充実 25.3
	女性(n=473)	身近な移動手段の確保・充実 48.6	相談窓口の充実や相談機能の強化 33.4	制度の周知など情報提供体制の充実 23.9
年齢	10～30代(n=225)	身近な移動手段の確保・充実 44.9	制度の周知など情報提供体制の充実 28.4	相談窓口の充実や相談機能の強化 26.2
	40～50代(n=267)	身近な移動手段の確保・充実 49.8	相談窓口の充実や相談機能の強化 35.2	制度の周知など情報提供体制の充実 27.0
	60歳以上(n=366)	身近な移動手段の確保・充実 42.6	相談窓口の充実や相談機能の強化 34.7	地域での高齢者などへの見守り活動 26.8
居住歴	町出身者(n=625)	身近な移動手段の確保・充実 46.2	相談窓口の充実や相談機能の強化 32.3	制度の周知など情報提供体制の充実 24.8
	転入者(n=230)	身近な移動手段の確保・充実 43.9	相談窓口の充実や相談機能の強化 33.9	制度の周知など情報提供体制の充実 24.3
居住地域	紀伊長島(n=466)	身近な移動手段の確保・充実 45.3	相談窓口の充実や相談機能の強化 36.3	制度の周知など情報提供体制の充実 25.3
	海山(n=393)	身近な移動手段の確保・充実 45.5	相談窓口の充実や相談機能の強化 28.2	制度の周知など情報提供体制の充実 23.4

(5) 観光・交流について

問12 あなたは、町の観光・交流の活性化のために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

- 観光・交流については、「海・山・川を生かした体験型観光の充実」(44.8%)が前回調査と同様に第1位に挙げられ、次いで「熊野古道などを生かした観光の振興」(28.5%)、「観光イベントの充実」(18.8%)などの順となっており、豊かな自然や熊野古道といった地域資源を活用した観光・交流が重視されています。
- 性別、年齢、居住歴、居住地域、産業分類でも、すべての層で「海・山・川を生かした体験型観光の充実」が第1位となっています。

観光・交流について（全体／前回調査との比較）



観光・交流について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地域）

（複数回答、上位3位、単位：％）

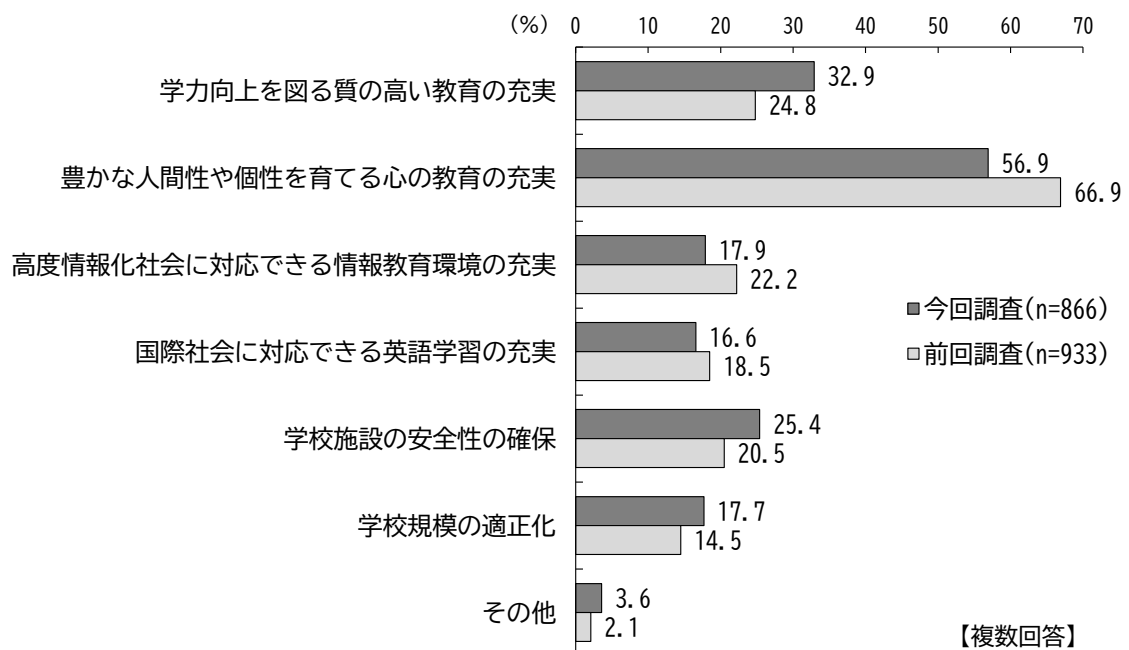
		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		海・山・川を生かした 体験型観光の充実 44.8	熊野古道などを生か した観光の振興 28.5	観光イベントの充実 18.8
性別	男性(n=376)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 45.2	熊野古道などを生か した観光の振興 27.9	観光イベントの充実 ／地域ブランドの開 発 17.3
	女性(n=473)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 44.2	熊野古道などを生か した観光の振興 29.0	観光イベントの充実 20.5
年齢	10～30代(n=225)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 49.8	熊野古道などを生か した観光の振興 32.9	観光イベントの充実 23.6
	40～50代(n=267)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 43.1	熊野古道などを生か した観光の振興 25.1	地域ブランドの開発 20.6
	60歳以上(n=366)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 43.2	熊野古道などを生か した観光の振興 27.9	始神テラスなど観 光・集客交流施設の 充実 16.4
居住歴	町出身者(n=625)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 46.6	熊野古道などを生か した観光の振興 26.1	地域ブランドの開発 18.2
	転入者(n=230)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 40.0	熊野古道などを生か した観光の振興 35.2	観光イベントの充実 20.9
居住地域	紀伊長島(n=466)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 42.7	熊野古道などを生か した観光の振興 28.1	観光イベントの充実 21.7
	海山(n=393)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 47.3	熊野古道などを生か した観光の振興 28.5	地域ブランドの開発 17.8
産業分類	第1次産業(n=33)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 39.4	熊野古道などを生かした観光の振興／地域 ブランドの開発 21.2	
	第2次産業(n=104)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 43.3	熊野古道などを生か した観光の振興 38.5	観光イベントの充実 20.2
	第3次産業(n=343)	海・山・川を生かした 体験型観光の充実 48.7	熊野古道などを生か した観光の振興 25.1	地域ブランドの開発 23.0

(6) 教育について

問13 あなたは、学校教育の充実に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
【複数回答】

- ▼
- 教育については、「豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実」(56.9%)が前回調査と同様に第1位に挙げられ、次いで「学力向上を図る質の高い教育の充実」(32.9%)、「学校施設の安全性の確保」(25.4%)が続きます。
 - 性別、年齢、居住歴、居住地域でも、すべての層で「豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実」が第1位となっています。また、年齢別の10～30代、40～50代、居住歴の転入者では「学力向上を図る質の高い教育の充実」と回答する割合が比較的多くなっています。

教育について（全体／前回調査との比較）



教育について（全体、性別、年齢、居住歴、居住地域）

（複数回答、上位3位、単位：％）

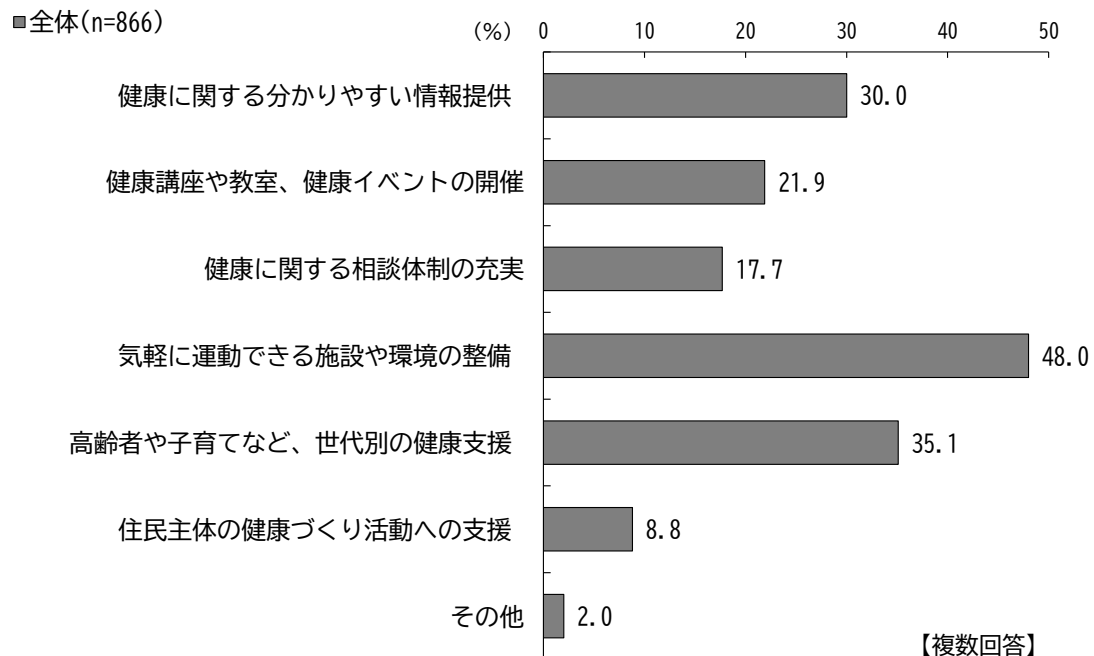
		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 56.9	学力向上を図る質の高い教育の充実 32.9	学校施設の安全性の確保 25.4
性別	男性(n=376)	豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 54.3	学力向上を図る質の高い教育の充実 31.1	高度情報化社会に対応できる情報教育環境の充実 22.6
	女性(n=473)	豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 58.6	学力向上を図る質の高い教育の充実 34.5	学校施設の安全性の確保 28.3
年齢	10～30代(n=225)	豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 52.9	学力向上を図る質の高い教育の充実 38.7	学校施設の安全性の確保 30.7
	40～50代(n=267)	豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 57.3	学力向上を図る質の高い教育の充実 37.8	学校施設の安全性の確保 27.3
	60歳以上(n=366)	豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 59.6	学力向上を図る質の高い教育の充実 26.0	学校施設の安全性の確保 21.0
居住歴	町出身者(n=625)	豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 57.9	学力向上を図る質の高い教育の充実 30.7	学校施設の安全性の確保 25.9
	転入者(n=230)	豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 55.7	学力向上を図る質の高い教育の充実 39.1	学校施設の安全性の確保 24.3
居住地域	紀伊長島(n=466)	豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 56.0	学力向上を図る質の高い教育の充実 33.9	学校施設の安全性の確保 26.6
	海山(n=393)	豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 58.5	学力向上を図る質の高い教育の充実 31.8	学校施設の安全性の確保 24.4

(7) 健康づくりについて

問14 いつまでも健康で暮らしていくためには、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

- 健康づくりについては、「気軽に運動できる施設や環境の整備」(48.0%)が第1位に挙げられ、次いで「高齢者や子育てなど、世代別の健康支援」(35.1%)、「健康に関するわかりやすい情報提供」(30.0%)が続きます。
- 性別、年齢、居住歴、居住地域でも、すべての層で「気軽に運動できる施設や環境の整備」が第1位となっています。

健康づくりについて (全体)



健康づくりについて（全体、性別、年齢、居住歴、居住地域）

（上位3位、単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		気軽に運動できる施設や環境の整備 48.0	高齢者や子育てなど、世代別の健康支援 35.1	健康に関するわかりやすい情報提供 30.0
性別	男性(n=376)	気軽に運動できる施設や環境の整備 51.1	高齢者や子育てなど、世代別の健康支援 33.0	健康に関するわかりやすい情報提供 28.2
	女性(n=473)	気軽に運動できる施設や環境の整備 46.1	高齢者や子育てなど、世代別の健康支援 37.0	健康に関するわかりやすい情報提供 30.7
年齢	10～30代(n=225)	気軽に運動できる施設や環境の整備 57.8	高齢者や子育てなど、世代別の健康支援 34.7	健康に関するわかりやすい情報提供 28.9
	40～50代(n=267)	気軽に運動できる施設や環境の整備 55.1	高齢者や子育てなど、世代別の健康支援 35.6	健康に関するわかりやすい情報提供 27.0
	60歳以上(n=366)	気軽に運動できる施設や環境の整備 37.4	高齢者や子育てなど、世代別の健康支援 35.0	健康に関するわかりやすい情報提供 32.8
居住歴	町出身者(n=625)	気軽に運動できる施設や環境の整備 49.9	高齢者や子育てなど、世代別の健康支援 34.4	健康に関するわかりやすい情報提供 27.8
	転入者(n=230)	気軽に運動できる施設や環境の整備 44.8	高齢者や子育てなど、世代別の健康支援 37.4	健康に関するわかりやすい情報提供 36.1
居住地域	紀伊長島(n=466)	気軽に運動できる施設や環境の整備 48.5	高齢者や子育てなど、世代別の健康支援 33.7	健康に関するわかりやすい情報提供 29.8
	海山(n=393)	気軽に運動できる施設や環境の整備 48.1	高齢者や子育てなど、世代別の健康支援 36.6	健康に関するわかりやすい情報提供 30.0

5. コミュニティ活動、参画・協働について

(1) コミュニティ活動等への参加状況と参加意向

問15 あなたの現在のコミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動への参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。

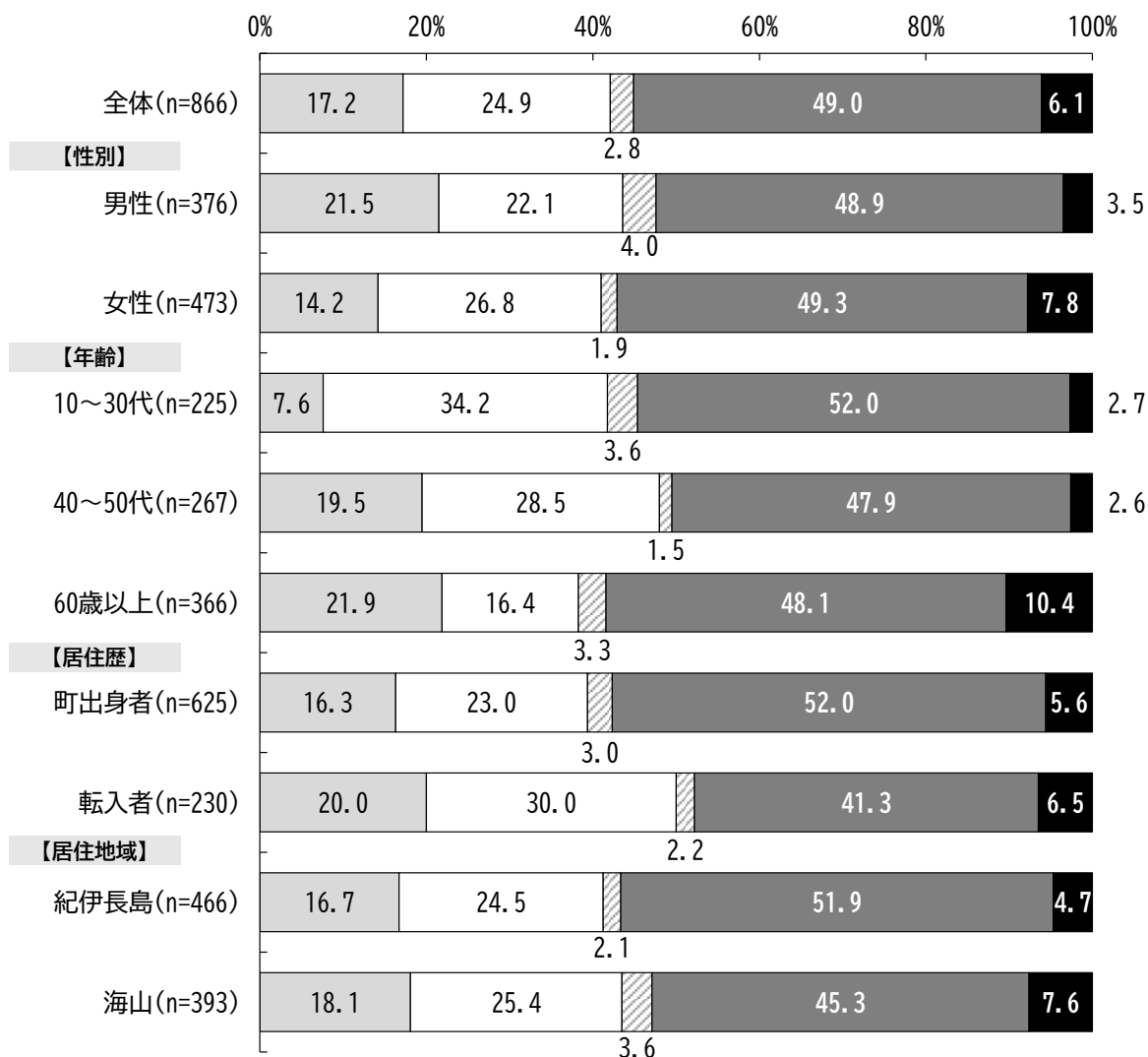
- コミュニティ活動等への参加状況と今後の意向をたずねたところ、『現在参加している』（「現在参加しており、今後も参加したい」17.2%及び「現在参加しているが、今後は参加するつもりはない」2.8%の合計）は20.0%と前回調査の20.1%とほぼ同率となっています。
- 今後の意向では『今後参加したい』（「現在参加しており、今後も参加したい」17.2%及び「現在参加していないが、今後は参加したい」24.9%の合計）は42.1%と前回調査の41.3%とほぼ同率となっています。
- 『参加するつもりはない』（「現在参加しているが、今後は参加するつもりはない」2.8%及び「現在参加しておらず、今後は参加するつもりはない」49.0%の合計）が51.8%となっています。
- 『今後参加したい』と回答した割合をみると、性別では男性（43.6%）、女性（41.0%）ともに4割を超えています。
- 年齢では、40～50代で48.0%、10～30代で41.8%、60歳以上で38.3%となっています。
- 居住歴では、転入者（50.0%）が町出身者（39.3%）を上回ります。
- 居住地域では、海山で43.5%、紀伊長島地区で41.2%と、ともに4割を超えています。

コミュニティ活動等への参加状況と参加意向について（全体／前回調査との比較）



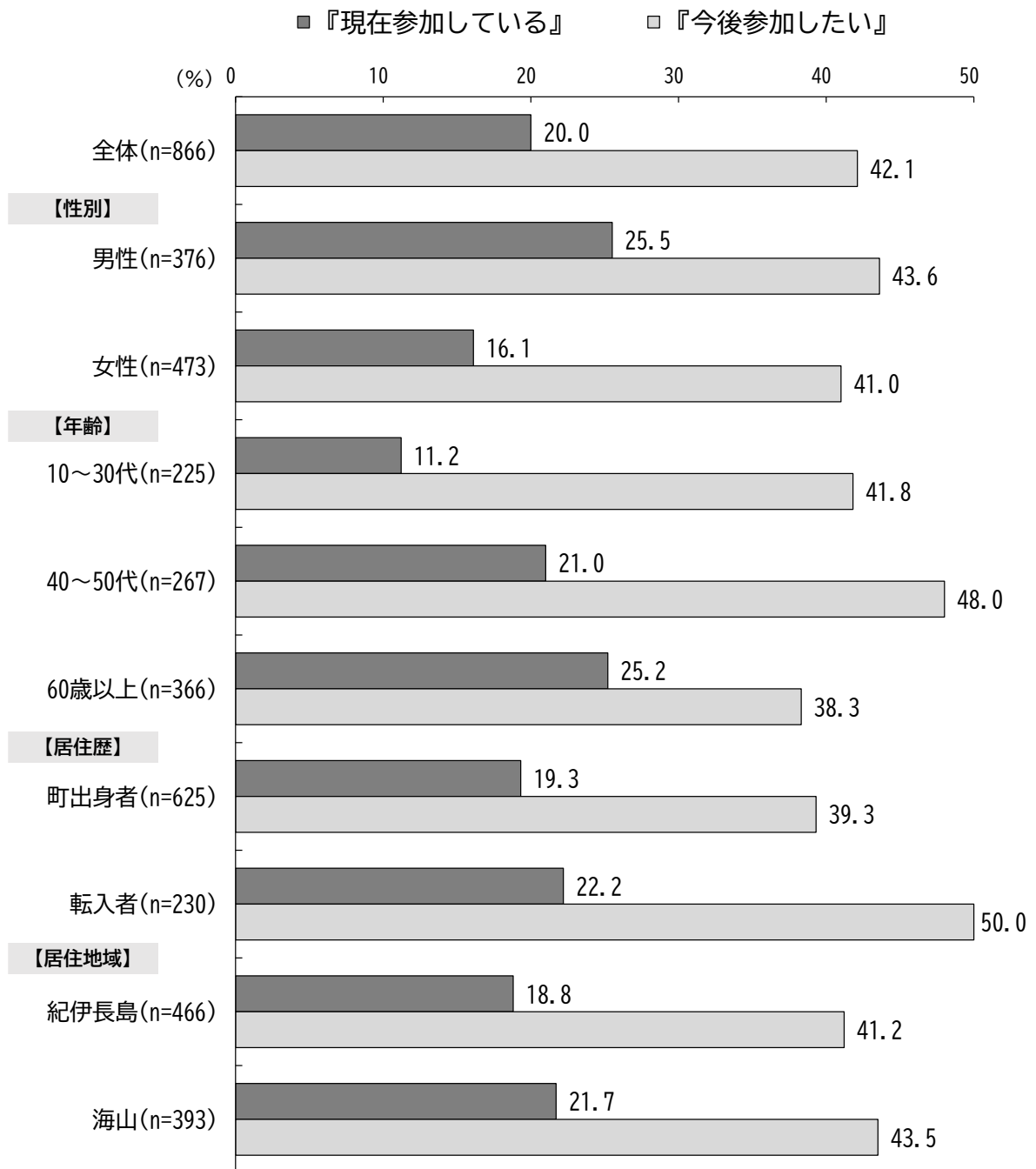
- 現在参加しており、今後も参加したい
- 現在参加していないが、今後は参加したい
- 現在参加しているが、今後は参加するつもりはない
- 現在参加しておらず、今後は参加するつもりはない
- 無回答

コミュニティ活動等への参加状況と参加意向について
(全体、性別、年齢、居住歴、居住地域)



- 現在参加しており、今後も参加したい
- 現在参加していないが、今後は参加したい
- 現在参加しているが、今後は参加するつもりはない
- 現在参加しておらず、今後も参加するつもりはない
- 無回答

コミュニティ活動等への参加状況と参加意向について
 (全体、性別、年齢、居住歴、居住地域)



(2) 参加したいコミュニティ活動等について

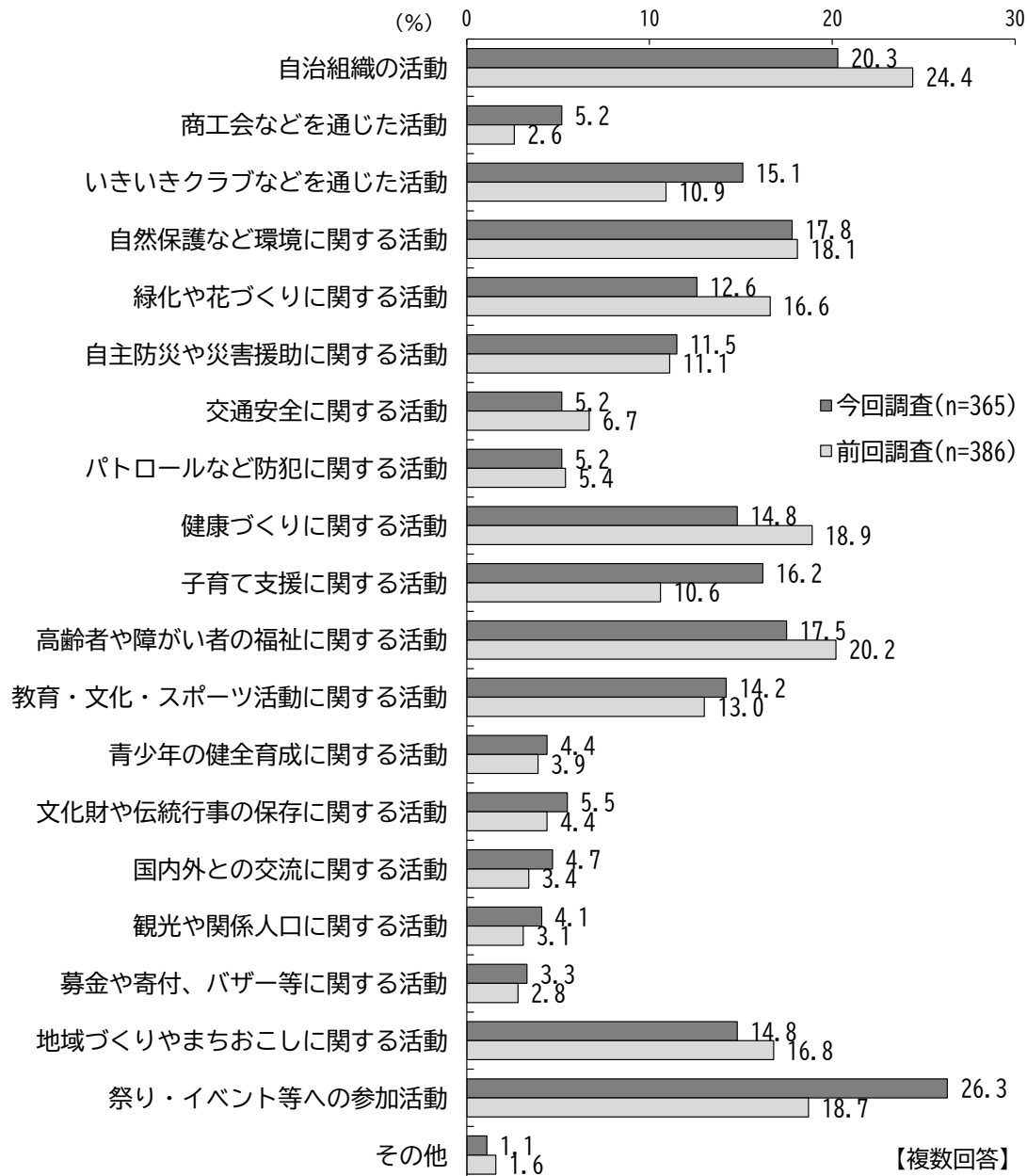
問15で「1」または「2」(参加したい)に○をつけた方にうかがいます。

問15付問① あなたは、今後(今後とも)どのようなコミュニティ活動(地域活動)・ボランティア活動に参加したいと思いますか。【複数回答】

■参加したい活動については、「祭り・イベント等への参加活動」(26.3%)が第1位に挙げられ、次いで「自治組織の活動」(20.3%)、「自然保護など環境に関する活動」(17.8%)などの順となっています。

■性別、年齢、居住歴、居住地域で見ると、ほとんどの層で「祭り・イベント等への参加活動」が第1位となっています。また、男性、60歳以上では「自治組織の活動」が第1位となっています。

参加したいコミュニティ活動等について(全体/『今後参加したい』と回答した人のみ)



参加したいコミュニティ活動等について

(全体、性別、年齢、居住歴、居住地域／『今後参加したい』と回答した人のみ)

(複数回答、上位3位、単位：%)

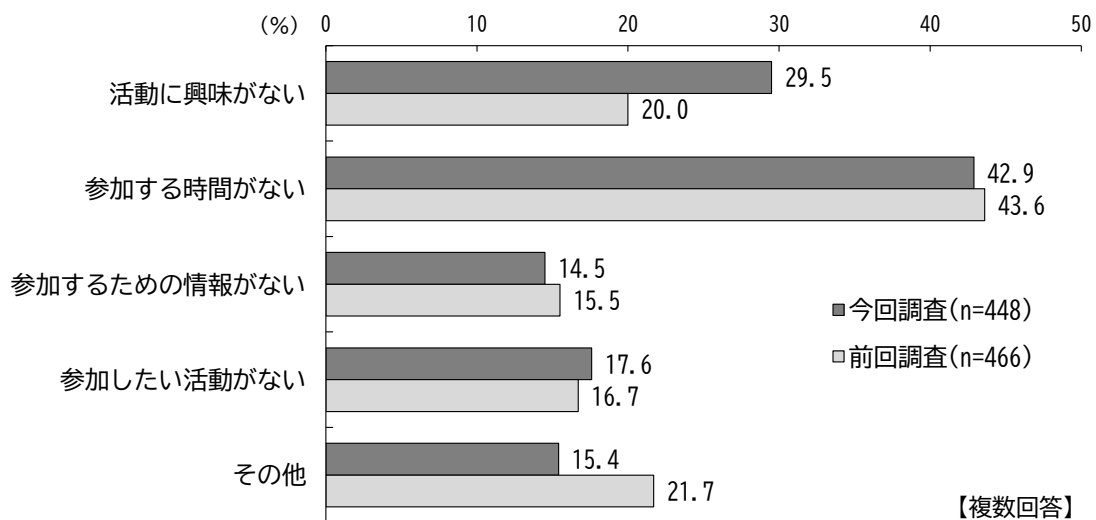
		第1位	第2位	第3位
全体(n=365)		祭り・イベント等への参加活動 26.3	自治組織の活動 20.3	自然保護など環境に関する活動 17.8
性別	男性(n=164)	自治組織の活動 31.1	祭り・イベント等への参加活動 24.4	自然保護など環境に関する活動 19.5
	女性(n=194)	祭り・イベント等への参加活動 27.3	子育て支援に関する活動 22.2	高齢者や障がい者の福祉に関する活動 19.6
年齢別	10～30代(n=94)	祭り・イベント等への参加活動 42.6	子育て支援に関する活動 25.5	教育・文化・スポーツ活動に関する活動 19.1
	40～50代(n=128)	祭り・イベント等への参加活動 35.2	高齢者や障がい者の福祉に関する活動 20.3	子育て支援に関する活動 18.8
	60歳以上(n=140)	自治組織の活動 29.3	いきいきクラブなどを通じた活動 24.3	自然保護など環境に関する活動 22.1
居住歴	町出身者(n=246)	祭り・イベント等への参加活動 25.6	自治組織の活動 19.5	高齢者や障がい者の福祉に関する活動 17.9
	転入者(n=115)	祭り・イベント等への参加活動 28.7	自治組織の活動 22.6	自然保護など環境に関する活動 19.1
居住地域	紀伊長島(n=192)	祭り・イベント等への参加活動 27.6	自治組織の活動 19.3	いきいきクラブなどを通じた活動／自然保護など環境に関する活動 17.2
	海山(n=171)	祭り・イベント等への参加活動 25.1	自治組織の活動 21.6	自然保護など環境に関する活動 18.7

(3) 参加しない理由について

問15で「3」または「4」(参加するつもりはない)に○をつけた方にうかがいます。
 問15付問② コミュニティ活動(地域活動)・ボランティア活動に参加しない理由はどのようなこと
 ですか。【複数回答】

■参加しない理由については、「参加する時間がない」が前回調査と同様に他を大きく引き離して理由の第1位となっています。
 ■性別、年齢でも、ほとんどの層で「参加する時間がない」が第1位となっています。

参加しない理由について(全体/『参加するつもりはない』と回答した人のみ)



参加しない理由について

(全体、性別、年齢/『参加するつもりはない』と回答した人のみ)

(複数回答、上位3位、単位：%)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=448)		参加する時間がない 42.9	活動に興味がない 29.5	参加したい活動がない 17.6
性別	男性(n=199)	参加する時間がない 40.7	活動に興味がない 33.7	その他 17.1
	女性(n=242)	参加する時間がない 45.0	活動に興味がない 26.4	参加したい活動がない 19.8
年齢別	10~30代(n=125)	参加する時間がない 56.0	活動に興味がない 28.8	参加したい活動がない 21.6
	40~50代(n=132)	参加する時間がない 58.3	活動に興味がない 37.9	参加したい活動がない 13.6
	60歳以上(n=188)	その他 30.3	活動に興味がない/参加する時間がない 23.9	

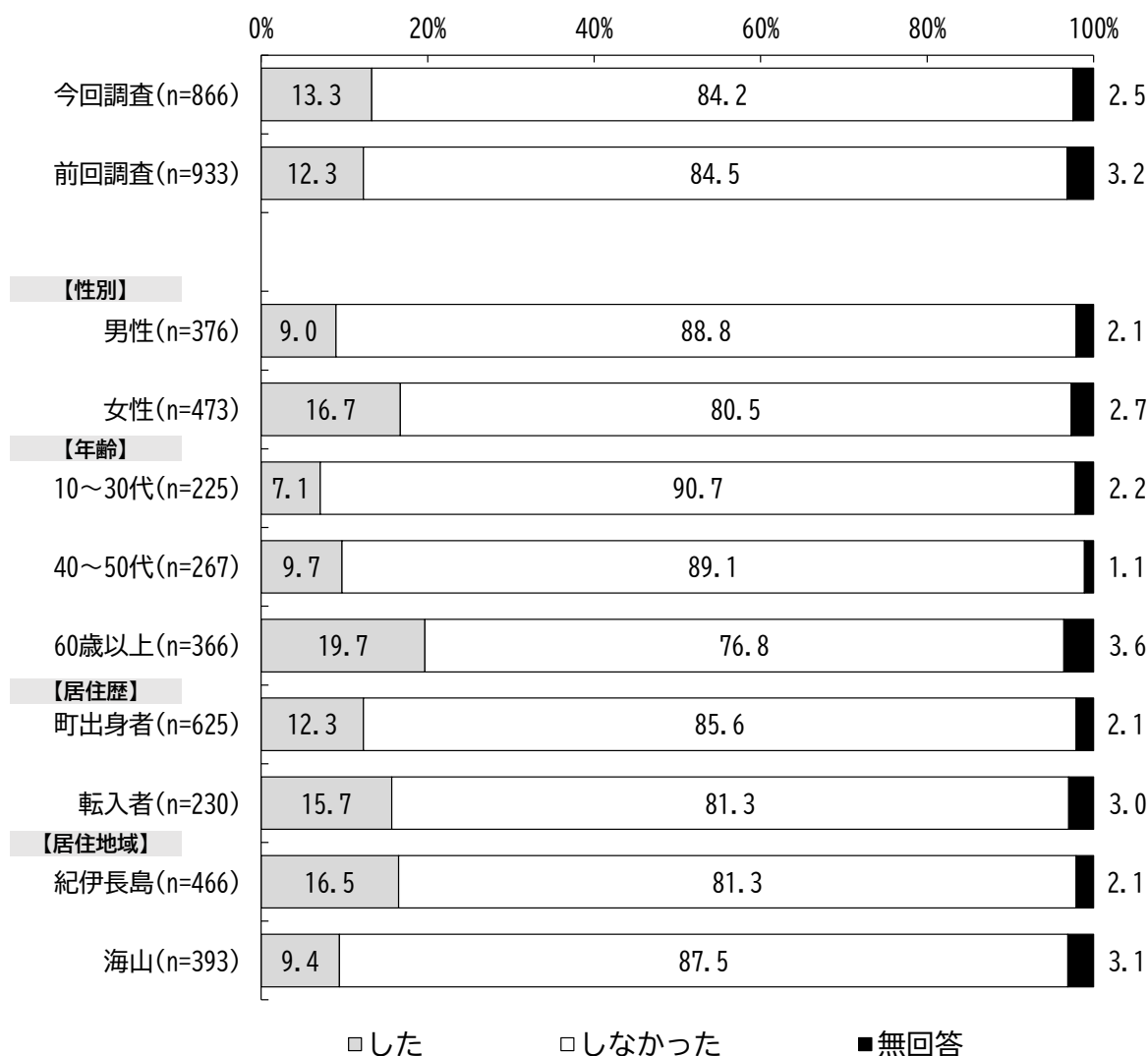
6. 日頃の行動などについて

(1) 生涯学習活動について

問16①あなたは、この1年間に、町の講座や教室等を利用した生涯学習活動をしましたか。

- 町の講座や教室等を利用した生涯学習活動については、「した」が13.3%、「していない」が84.2%と、前回調査と同様の結果となっています。
- 「した」と回答した割合をみると、性別では女性（16.7%）が男性（9.0%）を上回ります。
- 年齢では、10～30代で7.1%、40～50代が9.7%、60代以上で19.7%と、年齢が上がるにつれて参加率が上昇します。
- 居住歴では、転入者（15.7%）が町出身者（12.3%）を上回ります。
- 居住地域では、紀伊長島（16.5%）が海山（9.4%）を上回ります。

生涯学習活動について（全体・前回調査比較、性別、年齢、居住歴、居住地域）

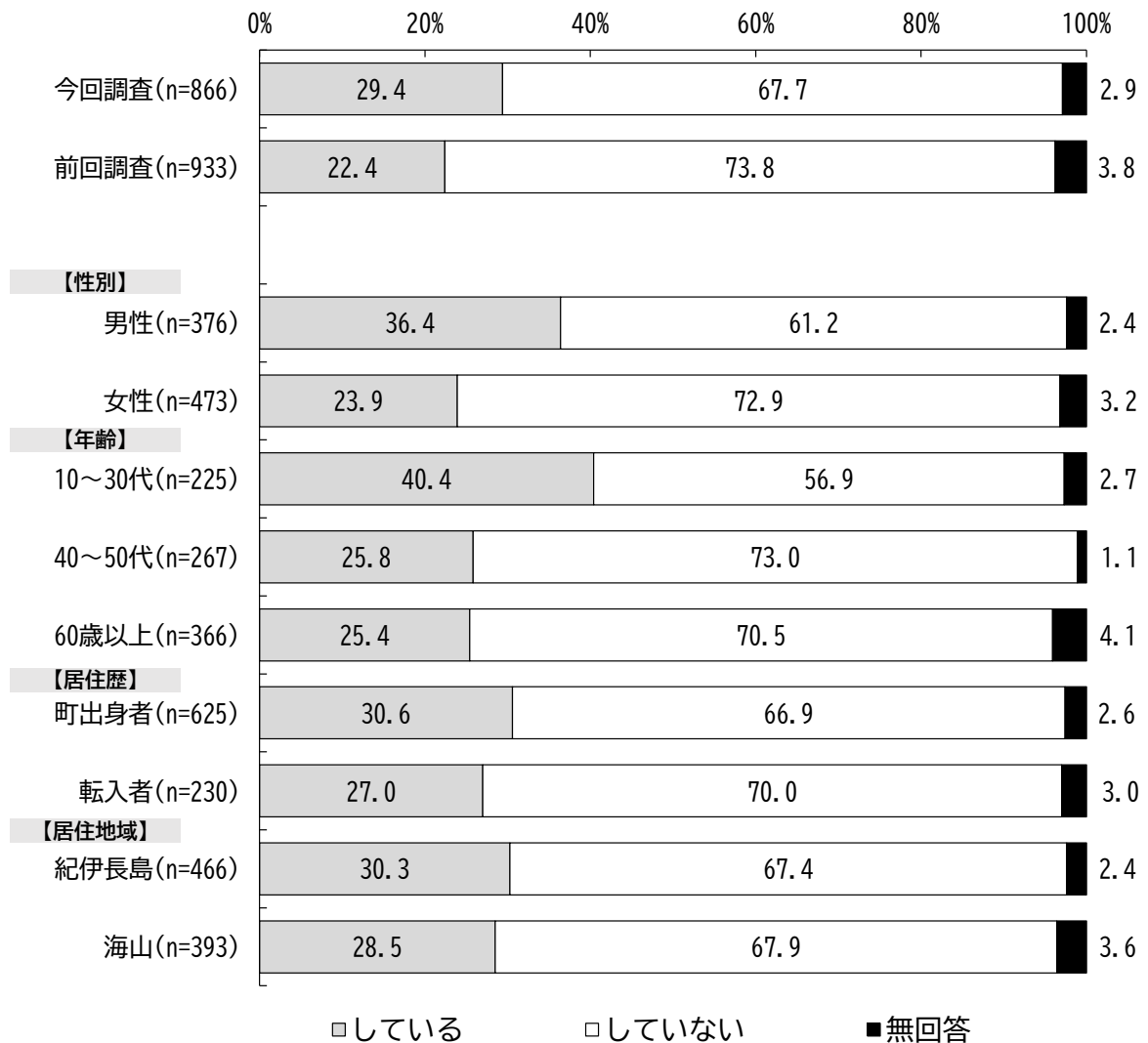


(2) スポーツ活動について

問16②あなたは、週1回以上、スポーツ活動をしていますか。

- 週1回以上、スポーツ活動については、「した」が29.4%、「していない」が67.7%となっており、「した」が前回調査の22.4%から約7ポイント増加しています。
- 「した」と回答した割合をみると、性別では男性（36.4%）が女性（23.9%）を上回ります。
- 年齢では、10～30代で40.4%と約4割を占める一方、40～50代は25.8%、60歳以上は25.4%と2割半ばにとどまります。
- 居住歴では、町出身者で30.6%、転入者で27.0%と3割前後となっています。
- 居住地域では、紀伊長島で30.3%、海山で28.5%と3割前後となっています。

スポーツ活動について（全体・前回調査比較、性別、年齢、居住歴、居住地域）

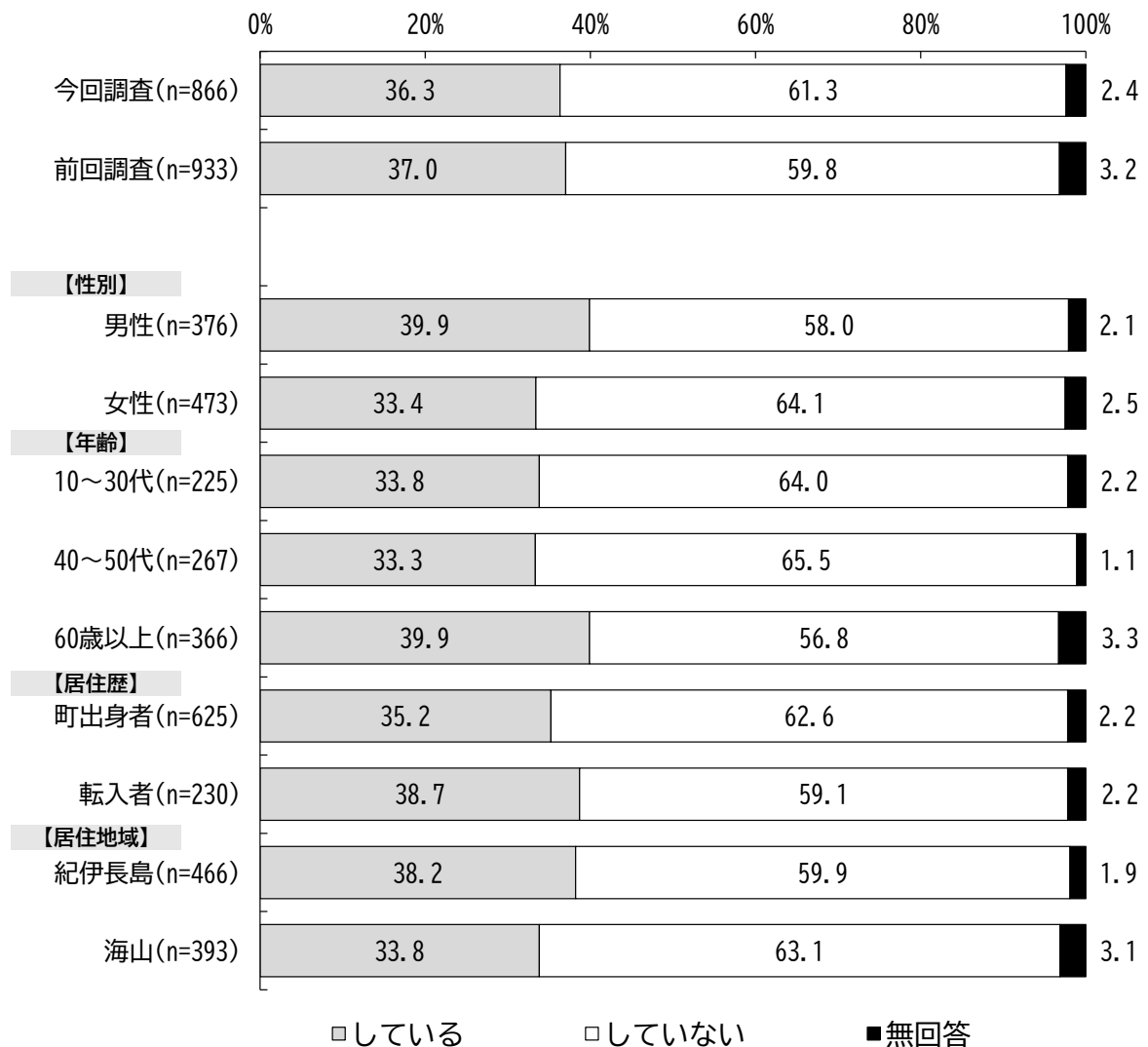


(3) 健康増進について

問16③あなたは、日常、健康増進のための取り組み（「ちょい減らし +10」、「きほく活活体操」、「健康ウォーキング」など食生活の改善や運動など）をしていますか。

- 健康増進のための取り組みについては、「している」が36.3%、「していない」が61.3%となっており、前回調査と同様の結果となっています。
- 「している」と回答した割合をみると、性別では男性（39.9%）が女性（33.4%）を上回ります。
- 年齢では、60代以上で39.9%と約4割を占め、10～30代で33.8%、40～50代で33.3%と3割前半にとどまります。
- 居住歴では、転入者（38.7%）が町出身者（35.2%）を上回ります。
- 居住地域では、紀伊長島（38.2%）が海山（33.8%）を上回ります。

健康増進について（全体・前回調査比較、性別、年齢、居住歴、居住地域）

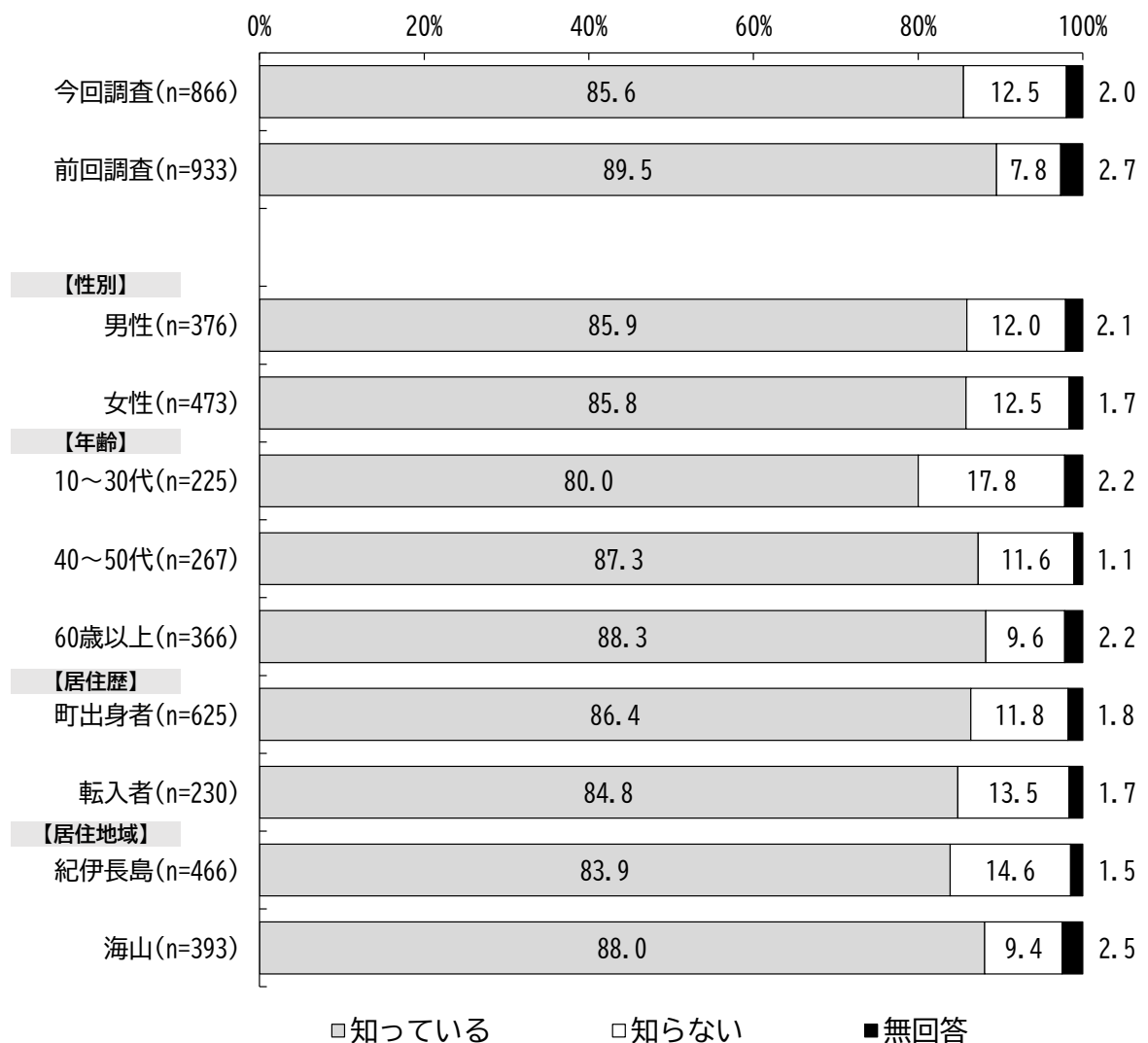


(4) 災害時の避難路・避難場所の認知度

問16④あなたは、災害時の避難路・避難場所を知っていますか。

- 災害時の避難路・避難場所の認知度については、「知っている」が85.6%を占め、「知らない」は12.5%にとどまります。
- 「知っている」と回答した割合を性別、年齢、居住歴、居住地域で見ても、ほとんどの層で「知っている」が多数を占めますが、年齢別の10～30代では80.0%と比較的低くなっています。

災害時の避難路・避難場所の認知度（全体・前回調査比較、性別、年齢、居住歴、居住地域）

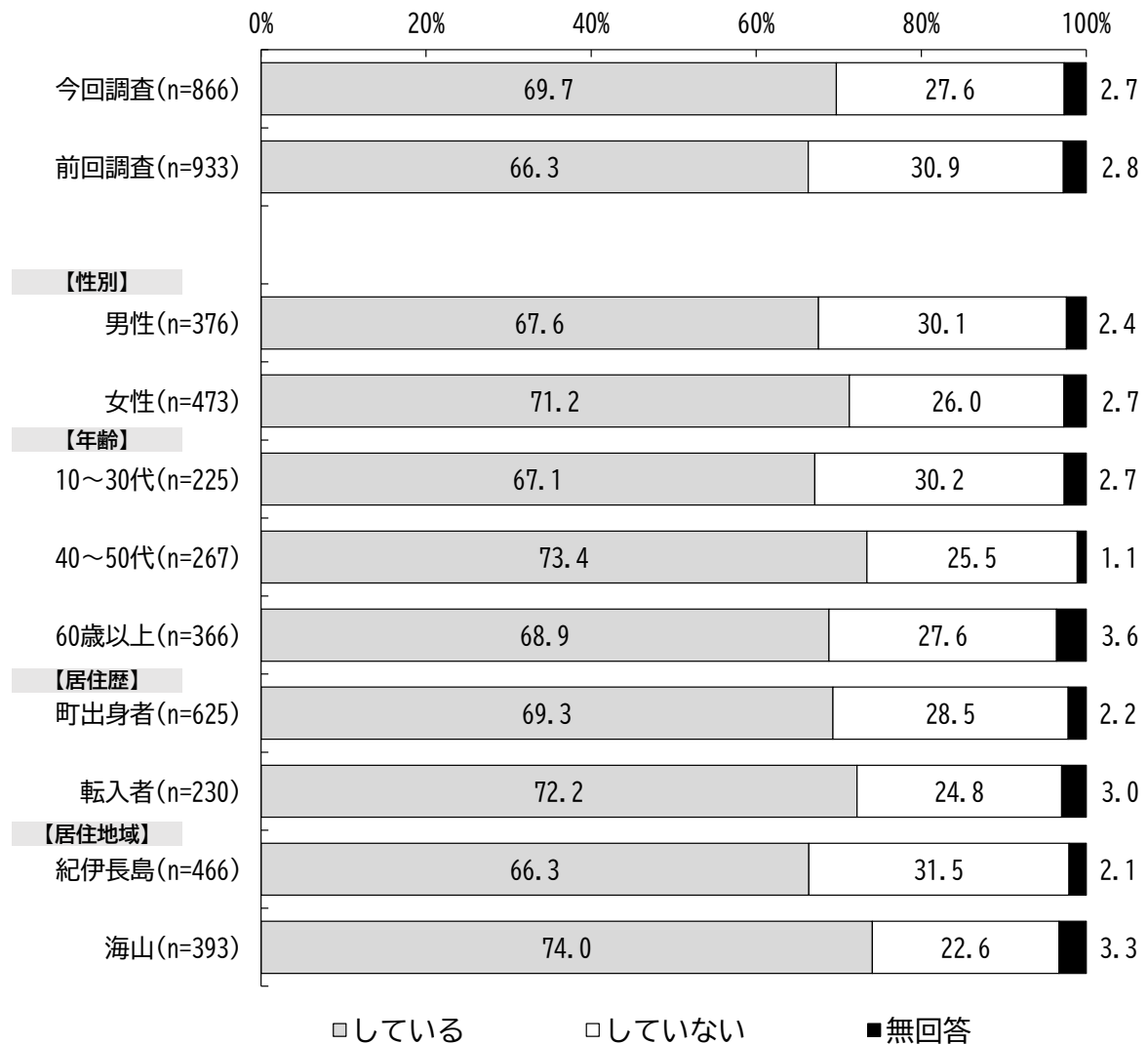


(5) 防災対策について

問16⑤あなたは、防災対策（食料・水の備蓄、家具の転倒防止など）をしていますか。

- 食料・水の備蓄、家具の転倒防止など防災対策の取り組みについては、「している」が69.7%、「していない」が27.6%となっています。
- 「している」と回答した割合をみると、性別では女性（71.2%）が男性（67.6%）を上回ります。
- 年齢では、40～50代が73.4%と7割を超え、60代以上で68.9%、10～30代で67.1%となっています。
- 居住歴では、転入者が72.2%、町出身者が69.3%と7割前後となっています。
- 居住地域では、海山（74.0%）が紀伊長島（66.3%）を上回ります。

防災対策について（全体・前回調査比較、性別、年齢、居住歴、居住地域）

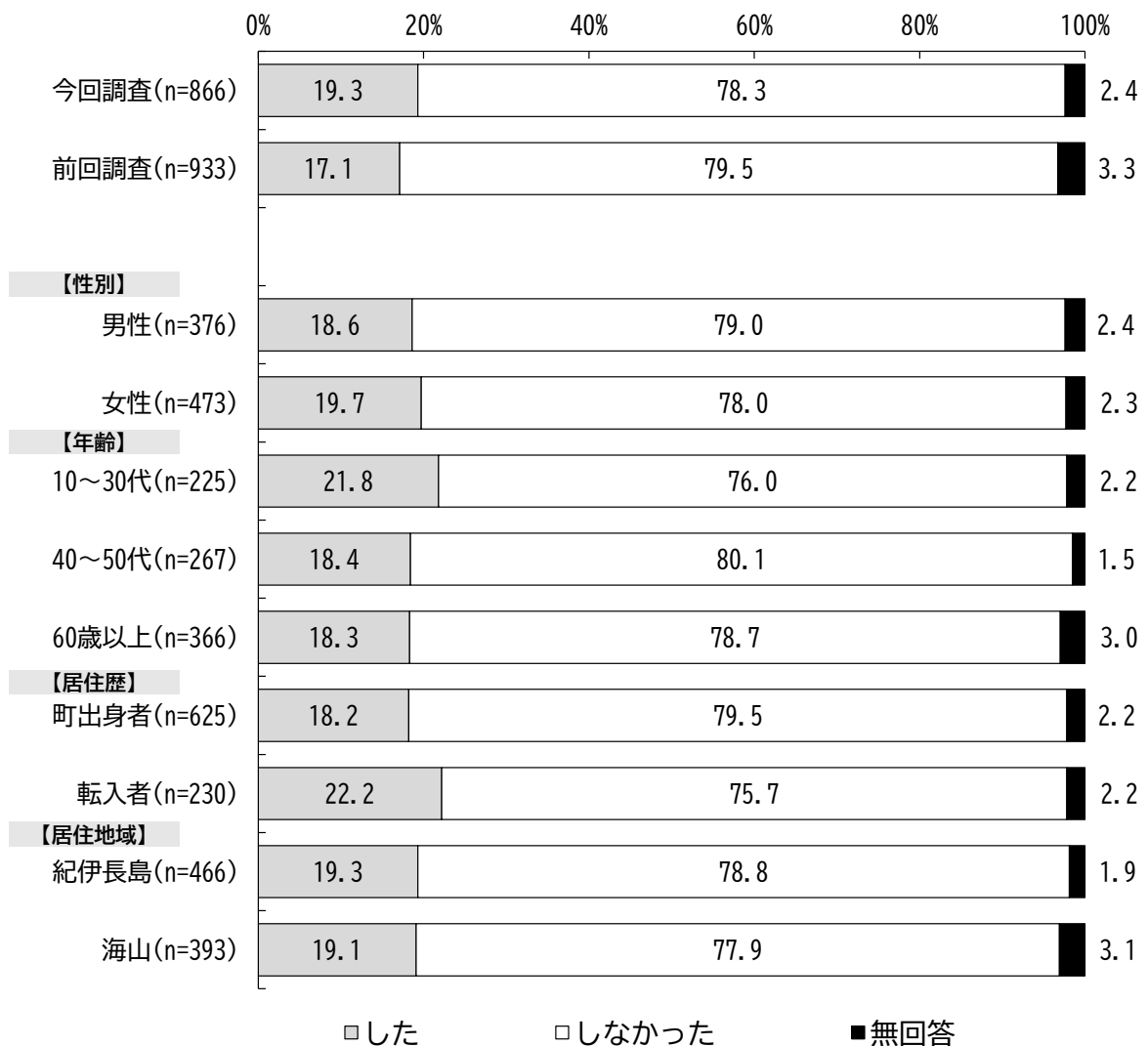


(6) 福祉活動への参加について

問16◎あなたは、この1年間に、身近な地域での見守り、支え合いなど、福祉活動を行いましたか。

- 身近な地域での見守り、支え合いなど福祉活動については、「した」が19.3%、「していない」が78.3%となっています。
- 「した」と回答した割合をみると、性別では男性(18.6%)、女性(19.7%)ともに2割弱となっています。
- 年齢では、10～30代で21.8%、40～50代が18.4%、60代以上で18.3%となっています。
- 居住歴では、転入者で22.2%、町出身者で18.2%と2割前後となっています。
- 居住地域では、紀伊長島(19.3%)、海山(19.1%)がほぼ同率となっています。

福祉活動への参加について（全体・前回調査比較、性別、年齢、居住歴、居住地域）



(7) 幸福度について

問16⑦あなたは、現在どの程度幸せですか【「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、数字に○をつけてください】

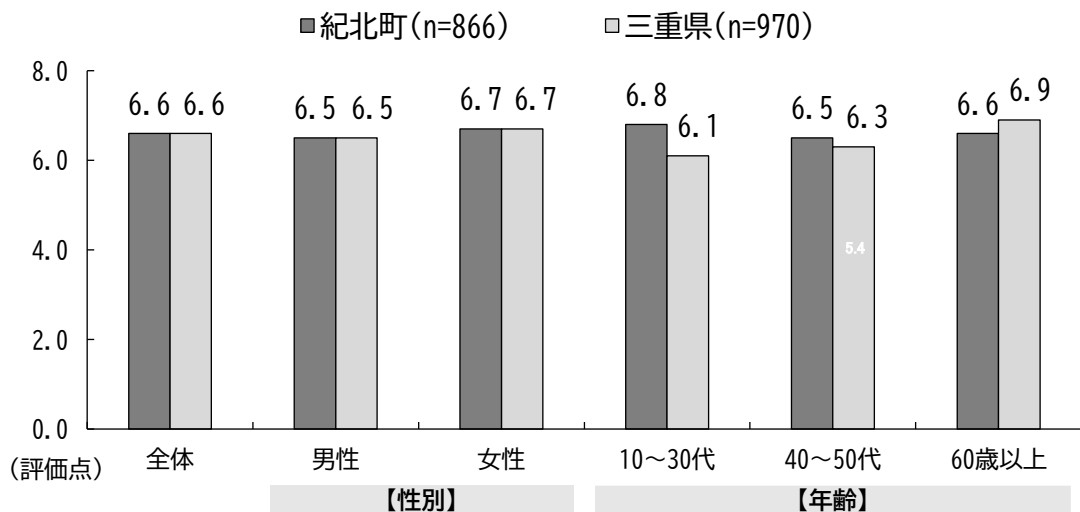
■現在、どの程度幸福だと感じているかについて、0点（とても不幸）から10点（とても幸せ）の11段階で回答いただいた結果を点数化しました（※評価点算出方法参照）。

■幸福度は全体で6.6点と県平均と同点となっています。

■性別で見ると、女性が6.7点と男性の6.5点を上回ります。また、男女ともに県平均と同点となっています。

■年齢では、10～30代が6.8点と最も高く、40～50代で6.5点、60歳以上で6.6点となっています。三重県と比較すると10～30代、40～50代は県平均を上回る一方、60歳以上は県平均を下回ります。

幸福度について（全体、性別、年齢／三重県との比較）



※評価点の算出方法

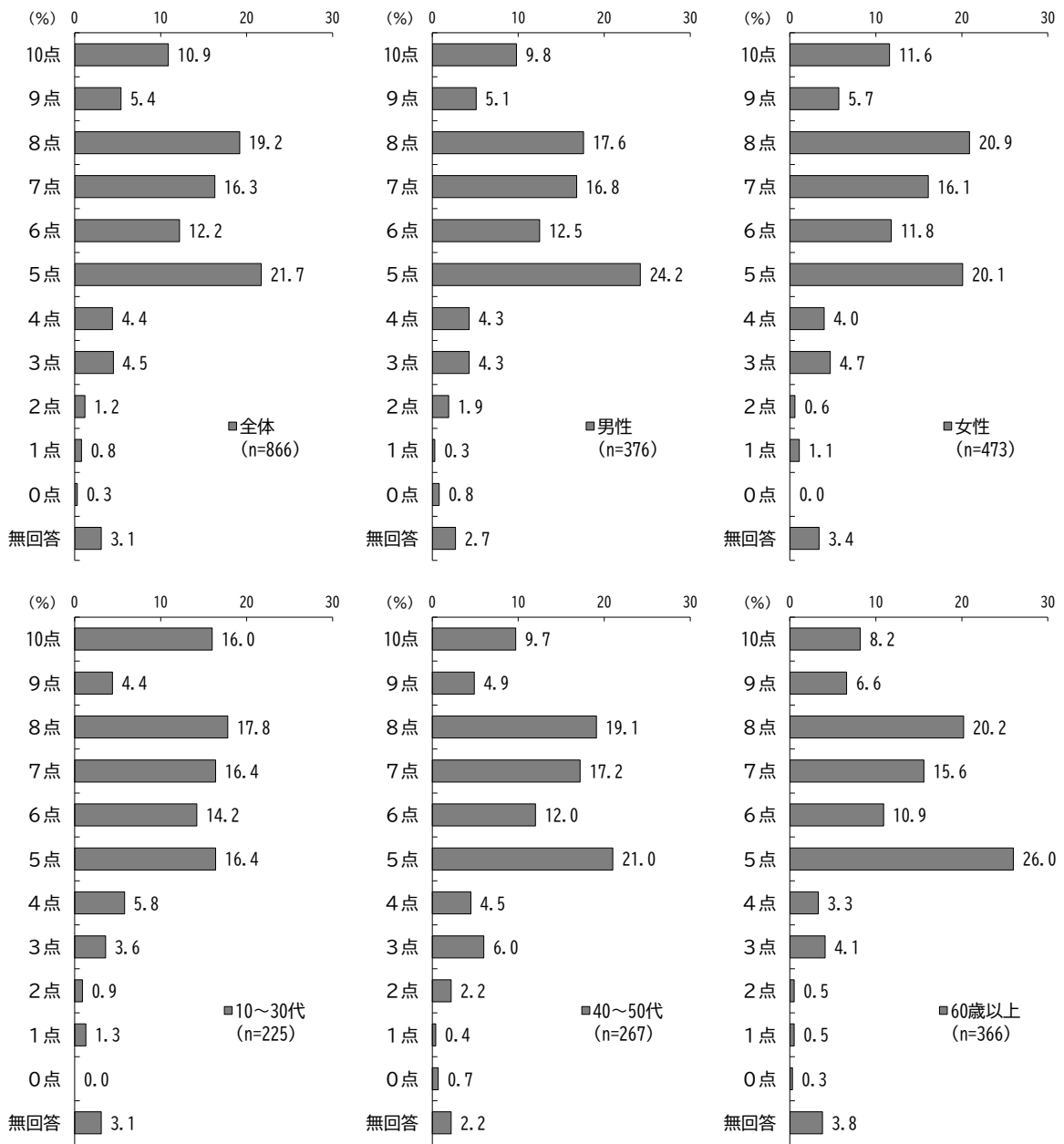
11段階の選択肢にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \left[\text{「0点」の回答者数} \times 0 \text{点として} 10 \text{点までの点数を合計} \right] \div \left[\text{「0点」から「10点」に回答した回答者数} \right]$$

※三重県平均値

デジタル庁「地域幸福度 Well-Being 指標 2025 年度（令和7年度）版」

幸福度について（全体、性別、年齢／回答割合）

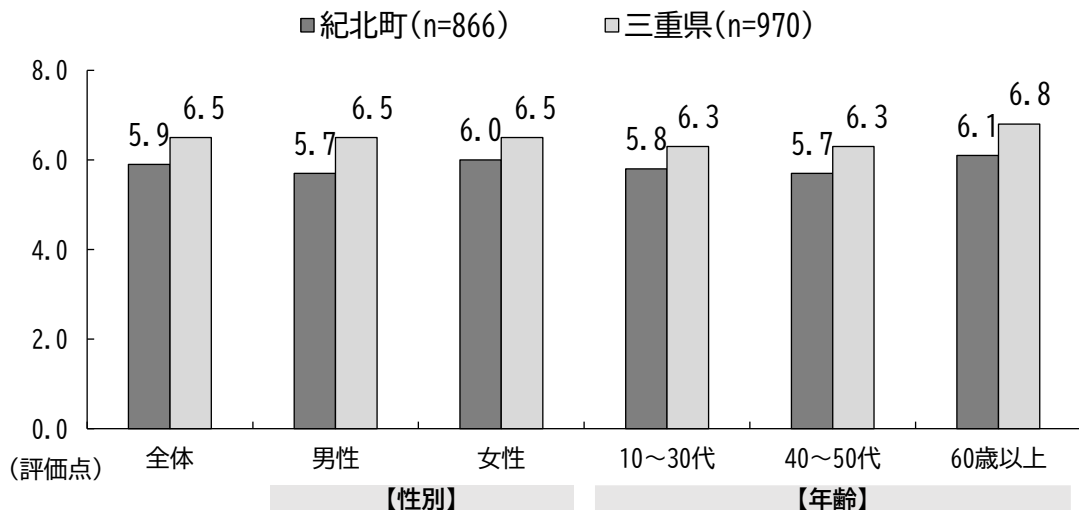


(8) 地域の暮らしの満足度について

問16⑧現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。【「とても不満」を0点、「とても満足」を10点として、数字に○をつけてください】

- 地域の暮らしの満足度について、0点（とても不満）から10点（とても満足）の11段階で回答いただいた結果を点数化しました（※評価点算出方法参照）。
- 満足度は全体で5.9点と県平均の6.5点を下回っています。
- 性別で見ると、女性が6.0点と男性の5.7点を上回ります。また、男女ともに県平均を下回っています。
- 年齢では、60歳以上で6.1点と最も高く、10～30代が5.8点、40～50代で5.7点となっています。また、すべての層で県平均を下回ります。

地域の暮らしの満足度について（全体、性別、年齢／三重県との比較）



※評価点の算出方法

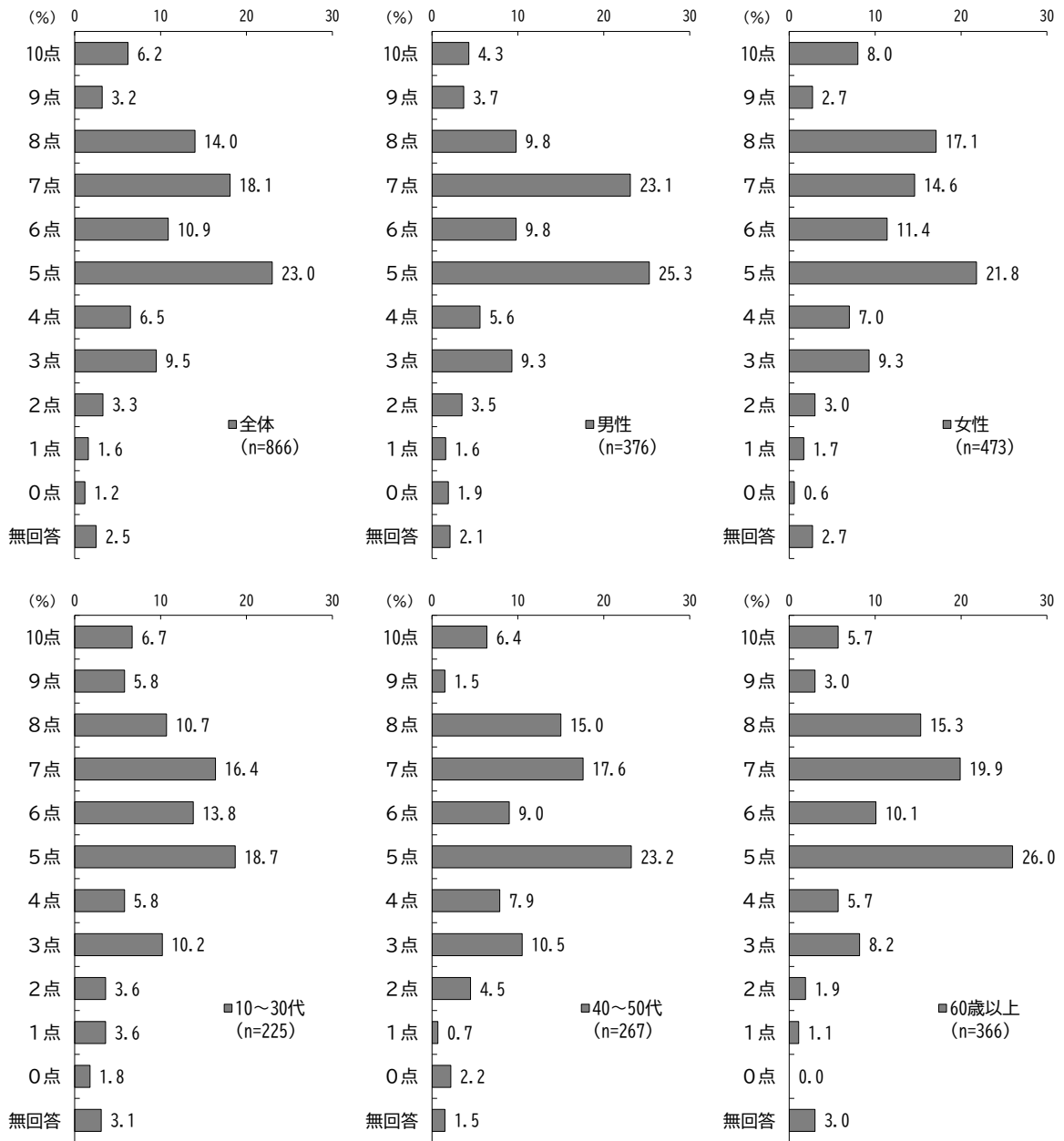
11段階の選択肢にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \left[\text{「0点」の回答者数} \times 0 \text{点} + \dots + \text{「10点」の回答者数} \times 10 \text{点} \right] \div \left[\text{「0点」から「10点」に回答した回答者数} \right]$$

※三重県平均値

デジタル庁「地域幸福度 Well-Being 指標 2025 年度（令和7年度）版」

地域の暮らしの満足度について（全体、性別、年齢／回答割合）

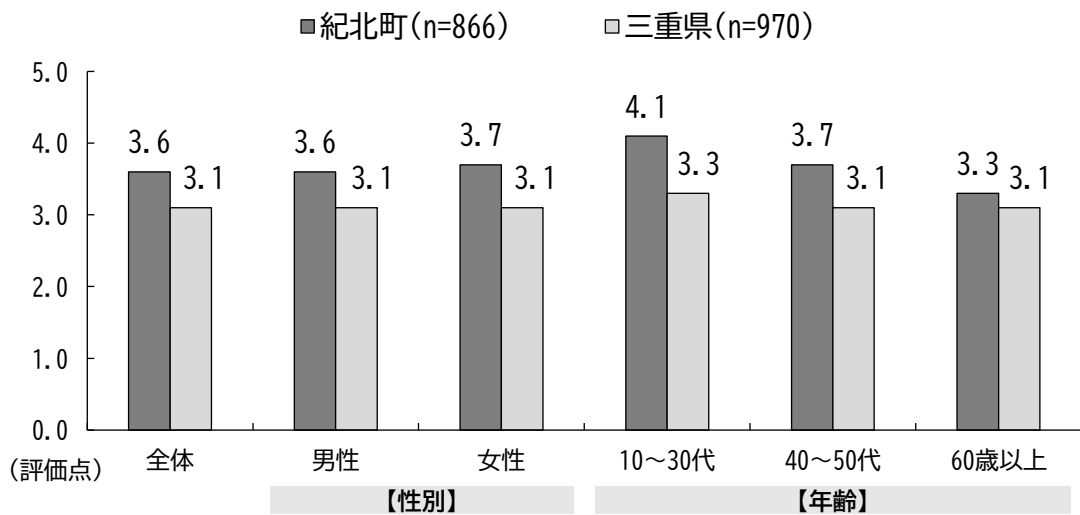


(9) 身体的な健康状態について

問16⑨現在、あなたは身体的に健康だと思いますか。

- 主観的な健康状態について、5段階で回答いただいた結果を点数化しました（※評価点算出方法参照）。
- 評価点は全体で3.6点と県平均の3.1点を上回っています。
- 性別で見ると、女性が3.7点と男性の3.6点を上回ります。また、男女ともに県平均を上回っています。
- 年齢では、10～30代が4.1点と最も高く、40～50代で3.7点、60歳以上で3.3点となっています。また、すべての層で県平均を上回ります。

身体的な健康状態について（全体、性別、年齢／三重県との比較）



※評価点の算出方法

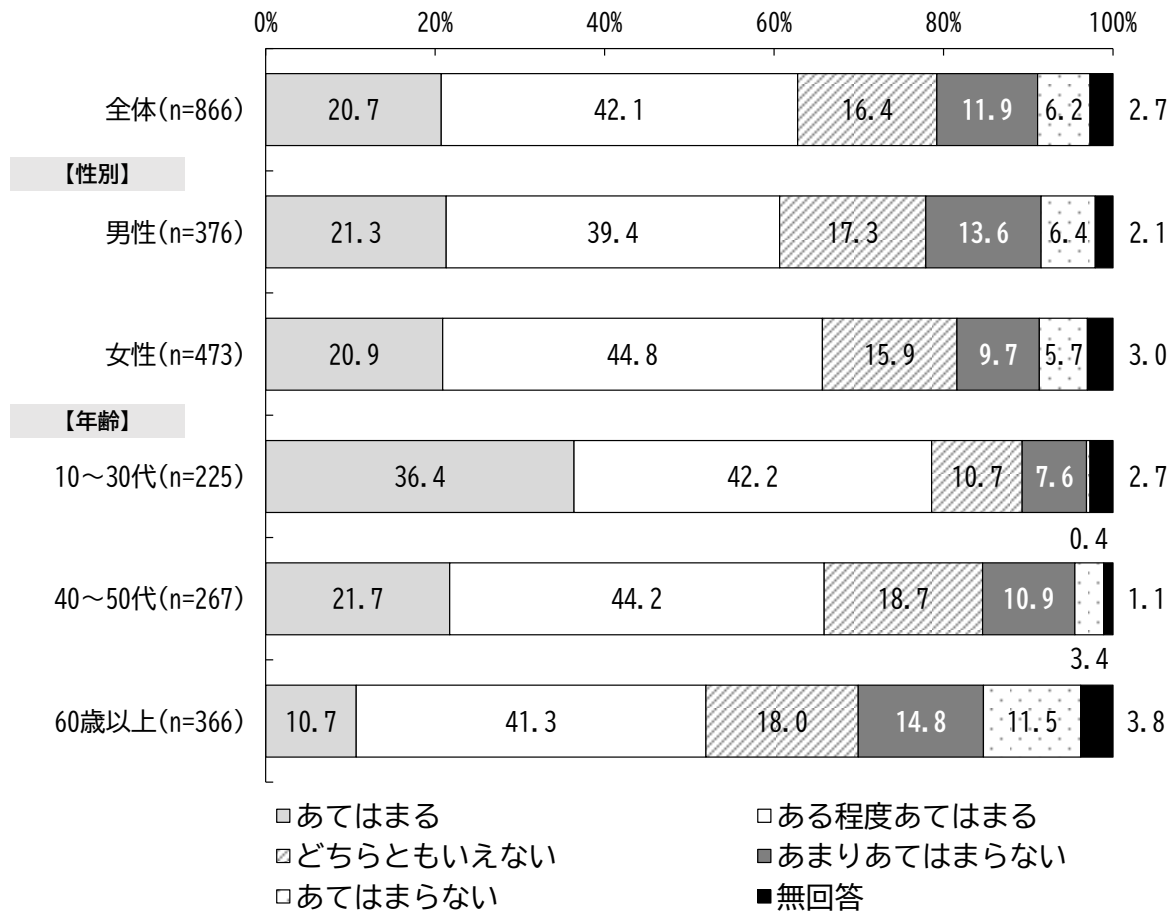
5段階の回答にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \left[\begin{array}{l} (\text{「あてはまる」の回答者数} \times 5 \text{点}) + (\text{「ある程度あてはまる」の回答者数} \times 4 \text{点}) + (\text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 3 \text{点}) + (\text{「あまりあてはまらない」の回答者数} \times 2 \text{点}) + (\text{「あてはまらない」の回答者数} \times 1 \text{点}) \end{array} \right] \div \left[\begin{array}{l} \text{「あてはまる」、「ある程度あてはまる」、「どちらともいえない」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の回答者数} \end{array} \right]$$

※三重県平均値

デジタル庁「地域幸福度 Well-Being 指標 2025 年度（令和7年度）版」

身体的な健康状態について（全体、性別、年齢／回答割合）

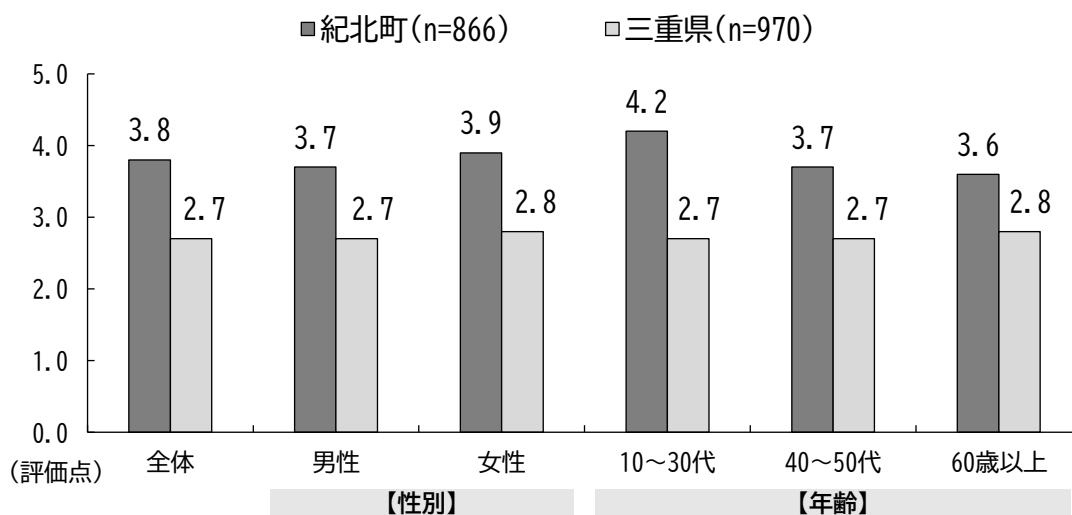


(10) 身近な相談相手の有無について

問16⑩あなたの暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいますか。

- 身近な相談相手の有無について、5段階で回答いただいた結果を点数化しました（※評価点算出方法参照）。
- 評価点は全体で3.8点と県平均の2.7点を上回っています。
- 性別で見ると、女性が3.9点と男性の3.7点を上回ります。また、男女ともに県平均を上回っています。
- 年齢では、10～30代が4.2点と最も高く、40～50代で3.7点、60歳以上で3.6点となっています。また、すべての層で県平均を上回ります。

身近な相談相手の有無について（全体、性別、年齢／三重県との比較）



※評価点の算出方法

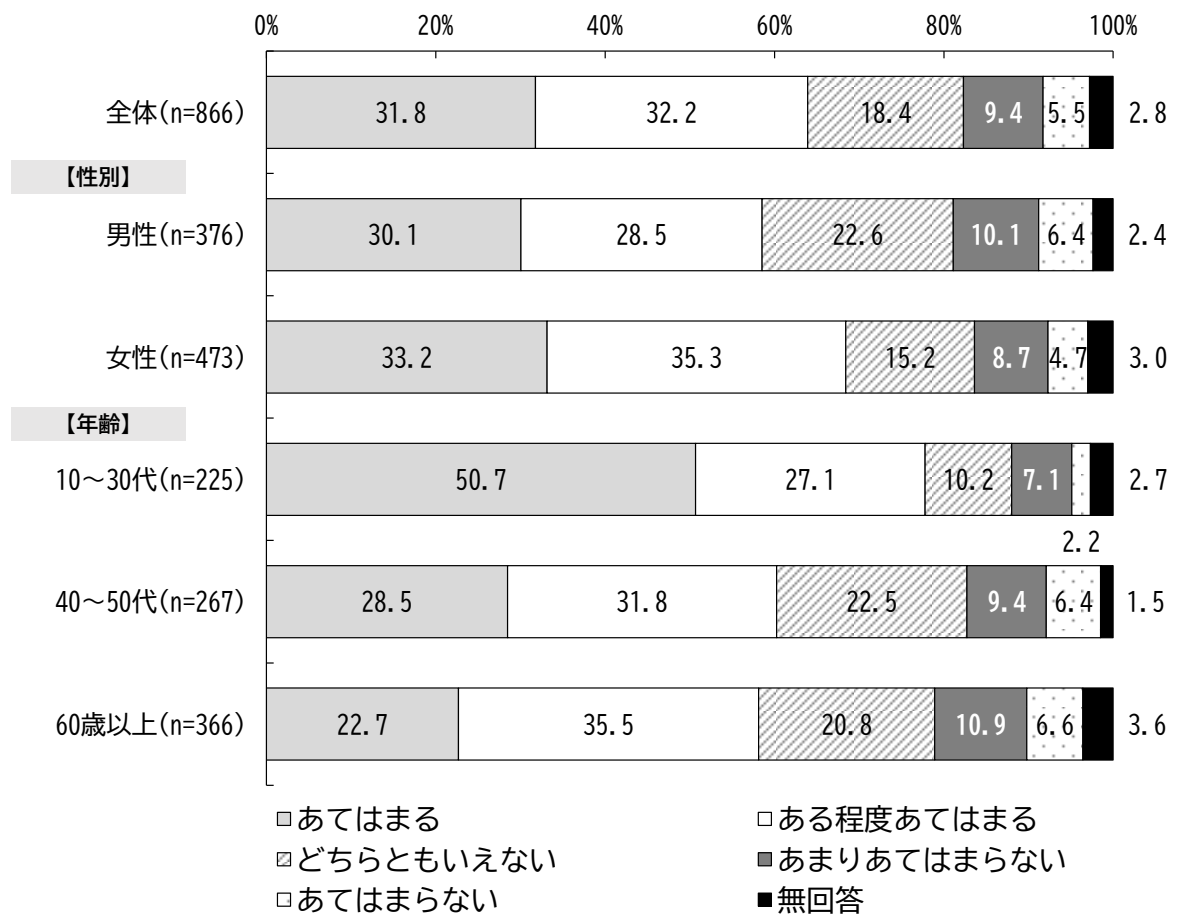
5段階の回答にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left[\begin{array}{l} \text{（「あてはまる」の回答者数} \times 5 \text{点）} + \text{（「ある程度あてはまる」の回答者数} \times 4 \text{点）} + \text{（「どちらともいえない」の回答者数} \times 3 \text{点）} + \text{（「あまりあてはまらない」の回答者数} \times 2 \text{点）} + \text{（「あてはまらない」の回答者数} \times 1 \text{点）} \end{array} \right]}{\left[\begin{array}{l} \text{「あてはまる」、「ある程度あてはまる」、「どちらともいえない」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の回答者数} \end{array} \right]}$$

※三重県平均値

デジタル庁「地域幸福度 Well-Being 指標 2025 年度（令和7年度）版」

身近な相談相手の有無について（全体、性別、年齢／回答割合）



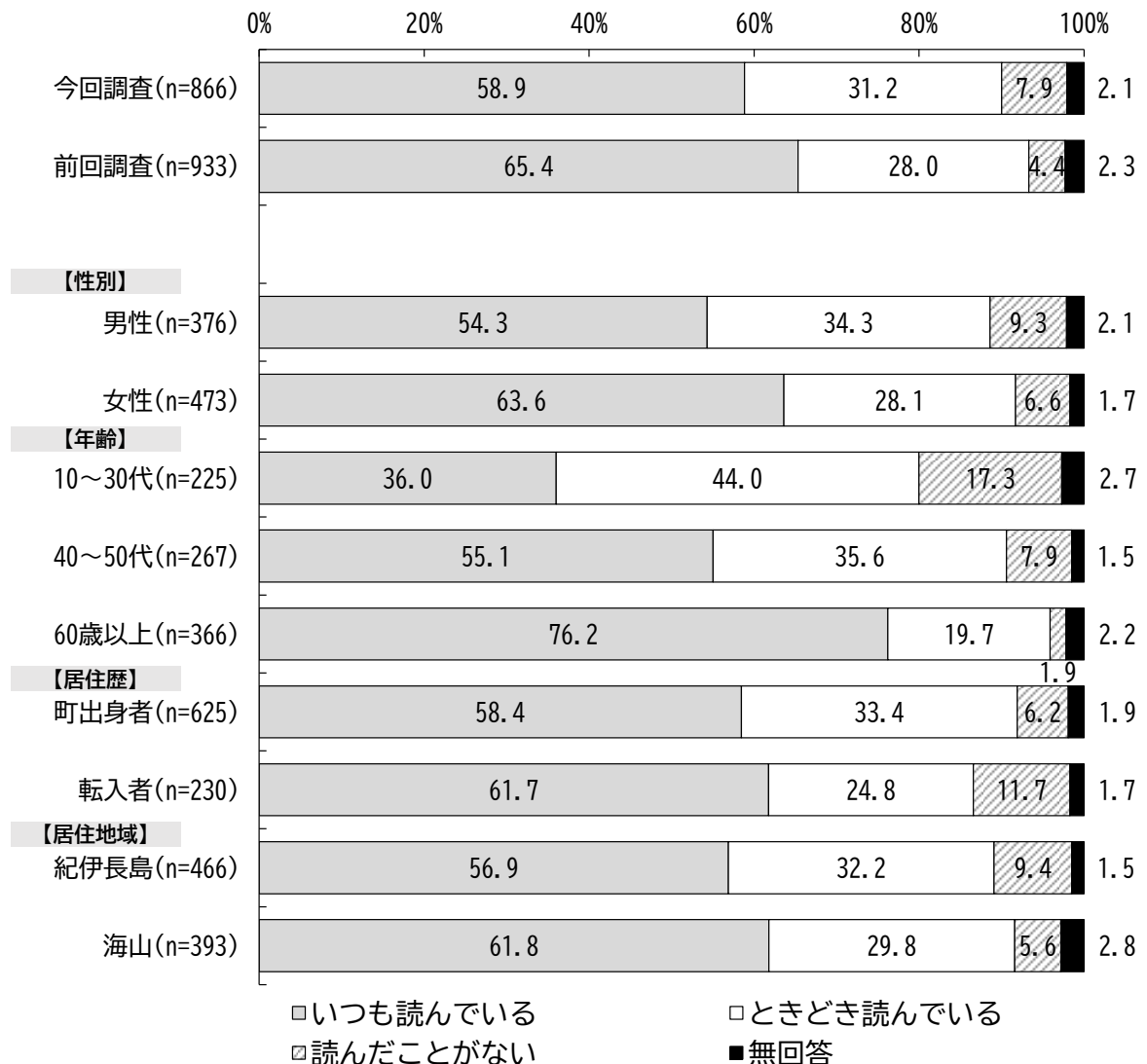
7. 情報入手・情報発信について

(1) 「広報きほく」について

問17 あなたは、「広報きほく」を読んでいますか。

- 「広報きほく」については、「いつも読んでいる」が 58.9%、「ときどき読んでいる」が 31.2%と、これらをあわせた『読んでいる』が 90.1%となっています。
- 『読んでいる』と回答した割合をみると、性別では女性 (91.7%)、男性 (88.6%) と約9割となっています。
- 年齢では、10～30代で 80.0%、40～50代で 90.7%、60代以上で 95.9%と年齢が上がるにつれて『読んでいる』割合が増加します。
- 居住歴では、町出身者 (91.8%) が転入者 (86.5%) を上回ります。
- 居住地域では、海山で 91.6%、紀伊長島で 89.1%と9割前後となっています。

「広報きほく」について（全体・前回調査比較、性別、年齢、居住歴、居住地域）

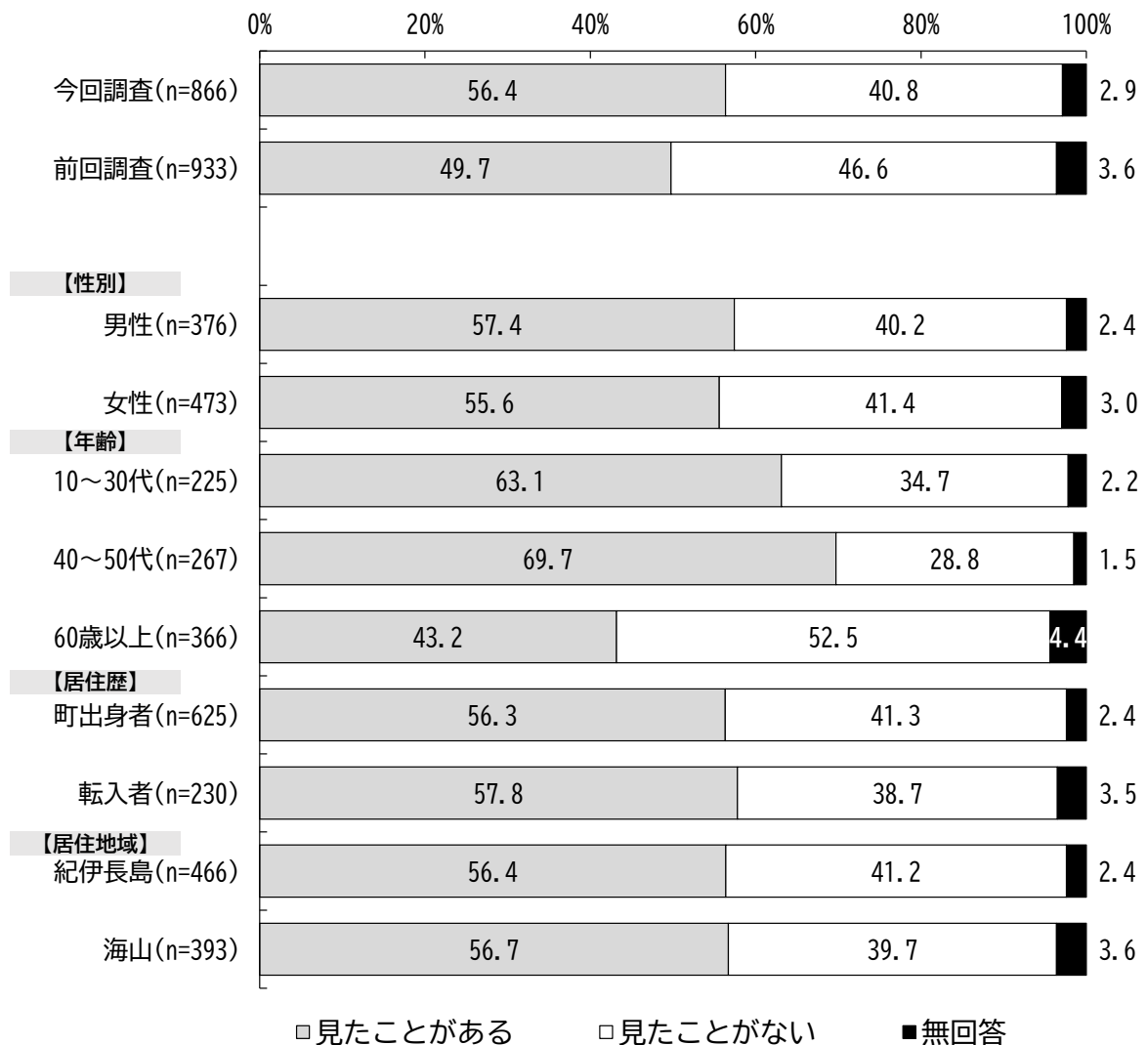


(2) 町のホームページについて

問18 あなたは、町のホームページを見たことがありますか。

- 町のホームページについては、「見たことがある」が56.4%、「見たことがない」が40.8%となっています。「見たことがある」は前回調査の49.7%から約7ポイント増加しています。
- 「見たことがある」と回答した割合をみると、性別では男性（57.4%）と女性（55.6%）でほぼ同率となっています。
- 年齢では、40～50代で69.7%、10～30代で63.1%と6割を超えますが、60代以上では43.2%にとどまります。
- 居住歴では、転入者（57.8%）と町出身者（56.3%）でほぼ同率となっています。
- 居住地域では、海山（56.7%）と紀伊長島（56.4%）でほぼ同率となっています。

町のホームページについて（全体・前回調査比較、性別、年齢、居住歴、居住地域）

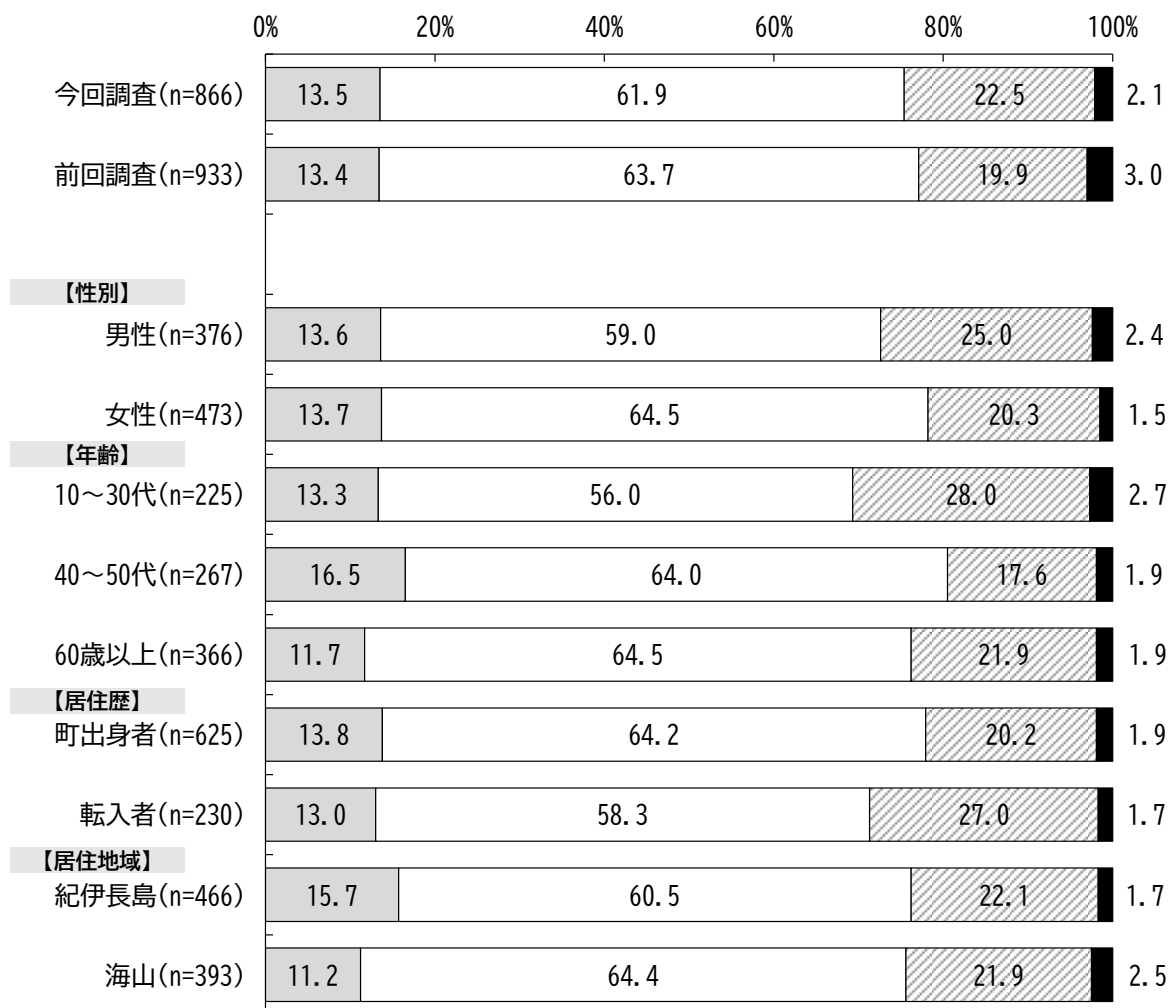


(3) 行政情報番組について

問19 あなたは、「行政情報番組ふるさと紀北町（ZTV）」を見ていますか。

- 行政情報番組については、「ときどき見ている」が61.9%、「いつも見ている」が13.5%と、これらをあわせた『見ている』が75.4%と前回調査の77.1%とほぼ同率となっています。
- 『見ている』と回答した割合をみると、性別では女性（78.2%）が男性（72.6%）を上回ります。
- 年齢では、40～50代で80.5%と最も多く、60代以上で76.2%、10～30代で69.3%となっています。
- 居住歴では、町出身者（78.0%）が転入者（71.3%）を上回っています。
- 居住地域では、紀伊長島（76.2%）と海山（75.6%）でほぼ同率となっています。

行政情報番組について（全体・前回調査比較、性別、年齢、居住歴、居住地域）



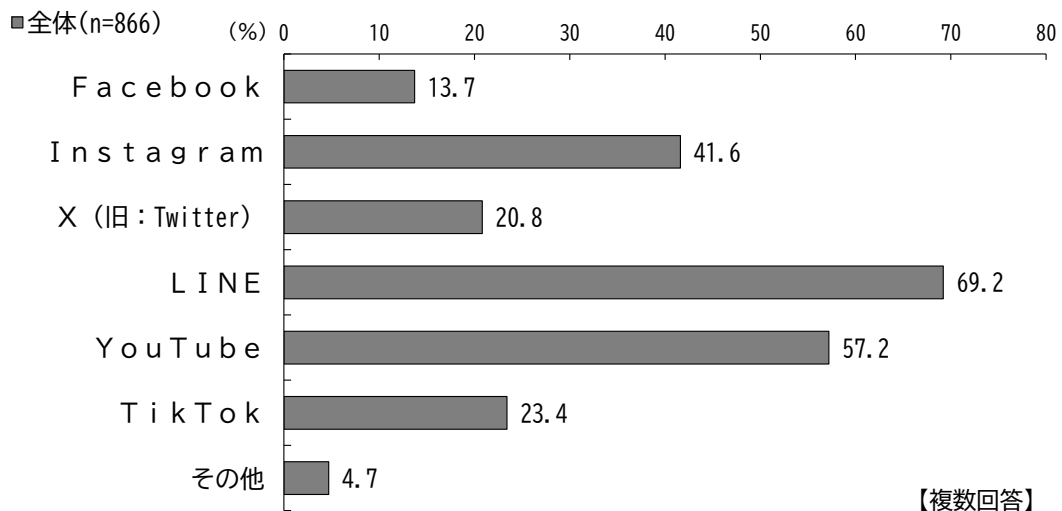
□いつも見ている □ときどき見ている □見たことがない ■無回答

(4) 活用しているSNSについて

問20 あなたが活用しているSNSを教えてください。【複数回答】

- 活用しているSNSについて、「LINE」が69.2%で最も多く、次いで「YouTube」(57.2%)、「Instagram」(41.6%)が続きます。
- 性別、年齢、居住歴、居住地域でも、「LINE」、「YouTube」、「Instagram」が上位を占めています。
- 年齢別の10～30代では上位項目の回答割合がそれぞれ多く、特に10代では「TikTok」(75.6%)といった回答も多いことから、複数のSNSを活用していることがうかがえます。

活用しているSNSについて（全体）

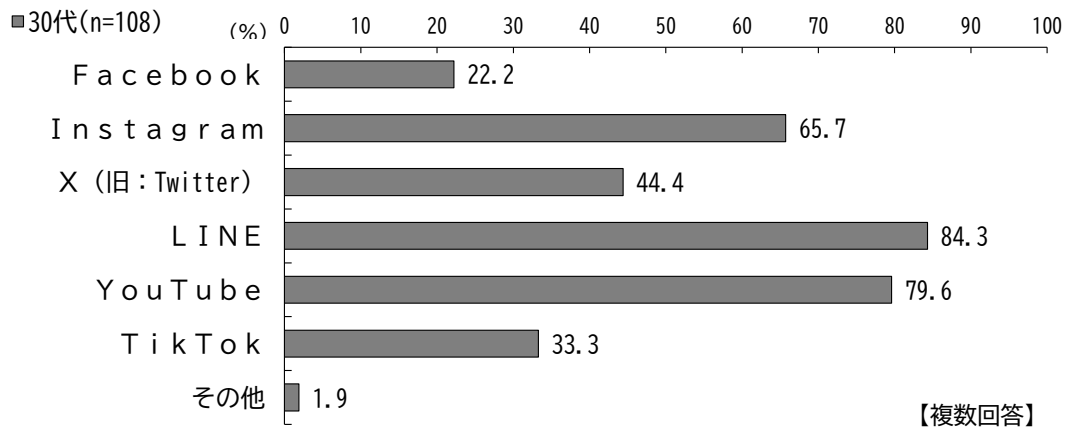
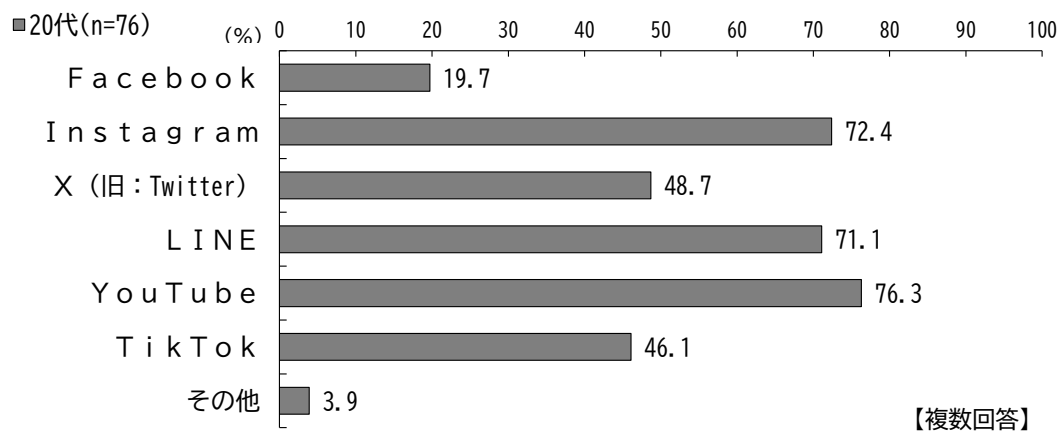
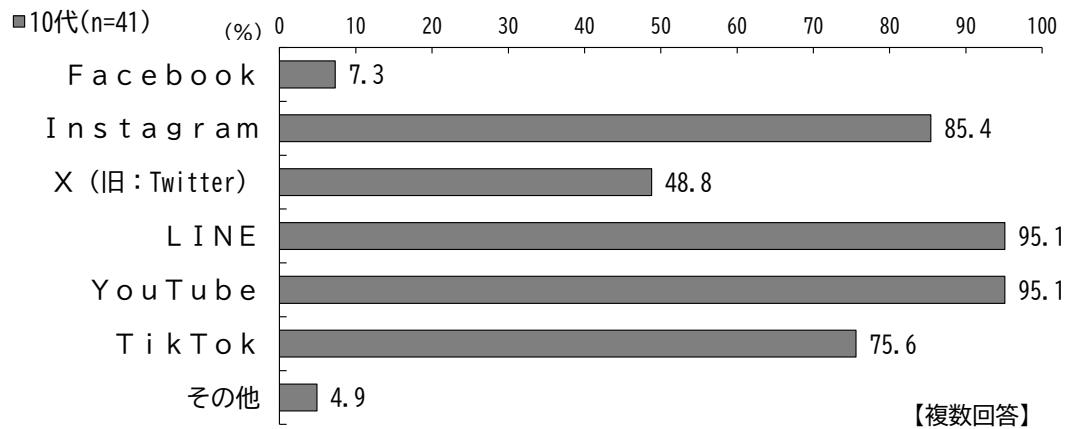


活用しているSNSについて（全体、性別、年齢）

（複数回答、上位3位、単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		LINE 69.2	YouTube 57.2	Instagram 41.6
性別	男性(n=376)	LINE 67.6	YouTube 61.7	Instagram 33.5
	女性(n=473)	LINE 70.4	YouTube 53.9	Instagram 48.0
年齢別	10～30代(n=225)	LINE 81.8	YouTube 81.3	Instagram 71.6
	40～50代(n=267)	LINE 85.8	YouTube 69.3	Instagram 59.2
	60歳以上(n=366)	LINE 49.7	YouTube 34.2	Instagram 10.7

活用しているSNSについて（年齢別：10代、20代、30代）



Ⅲ. 小中学生アンケートの調査結果

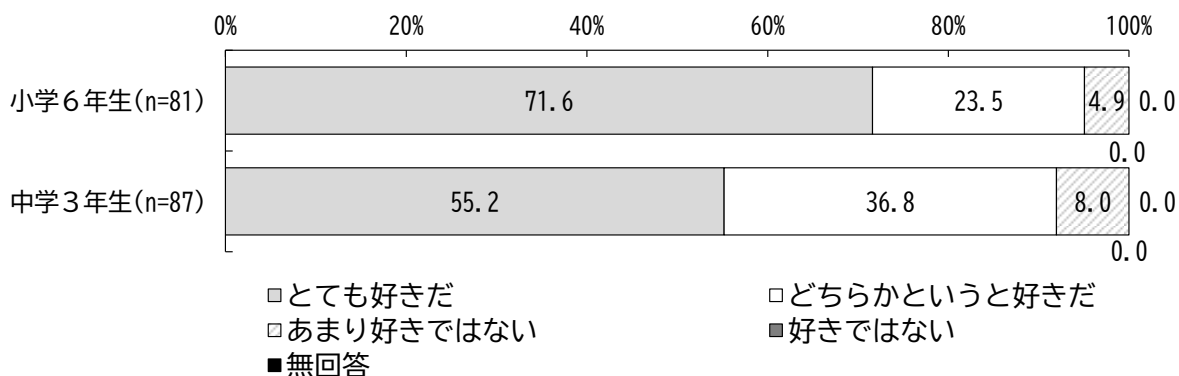
1. 町について

(1) 紀北町が好きか

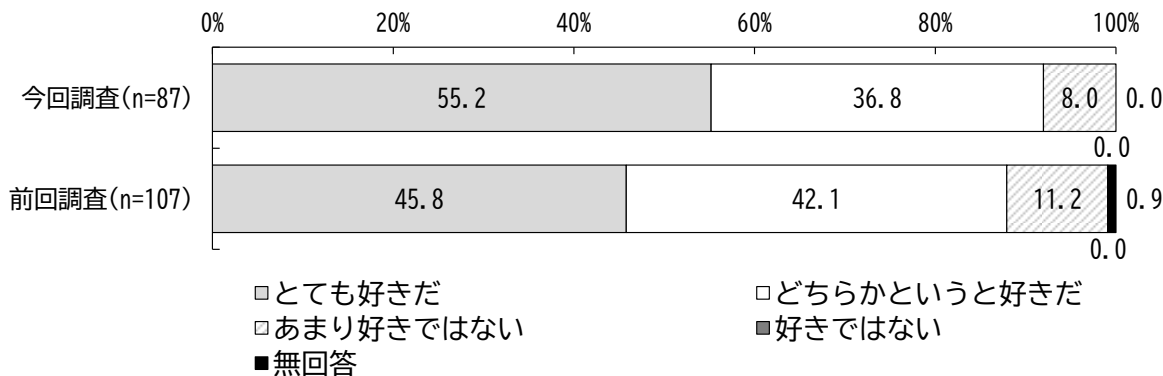
問2 あなたは、紀北町が好きですか。

- 小学生6年生では「とても好きだ」が71.6%で最も多く、これに「どちらかというが好きだ」(23.5%)をあわせた『好き』が95.1%となっています。これに対して、『好きではない』(「あまり好きではない」4.9%及び「好きではない」0.0%の合計)は4.9%となっています。
- 中学3年生では『好き』が92.0%、『好きではない』が8.0%となっています。
- 中学3年生の結果を前回調査と比較すると、『好き』は前回調査の87.9%から今回調査の92.0%へ約4ポイント増加しています。

紀北町が好きか (学年別)



紀北町が好きか (中学3年生/前回調査との比較)

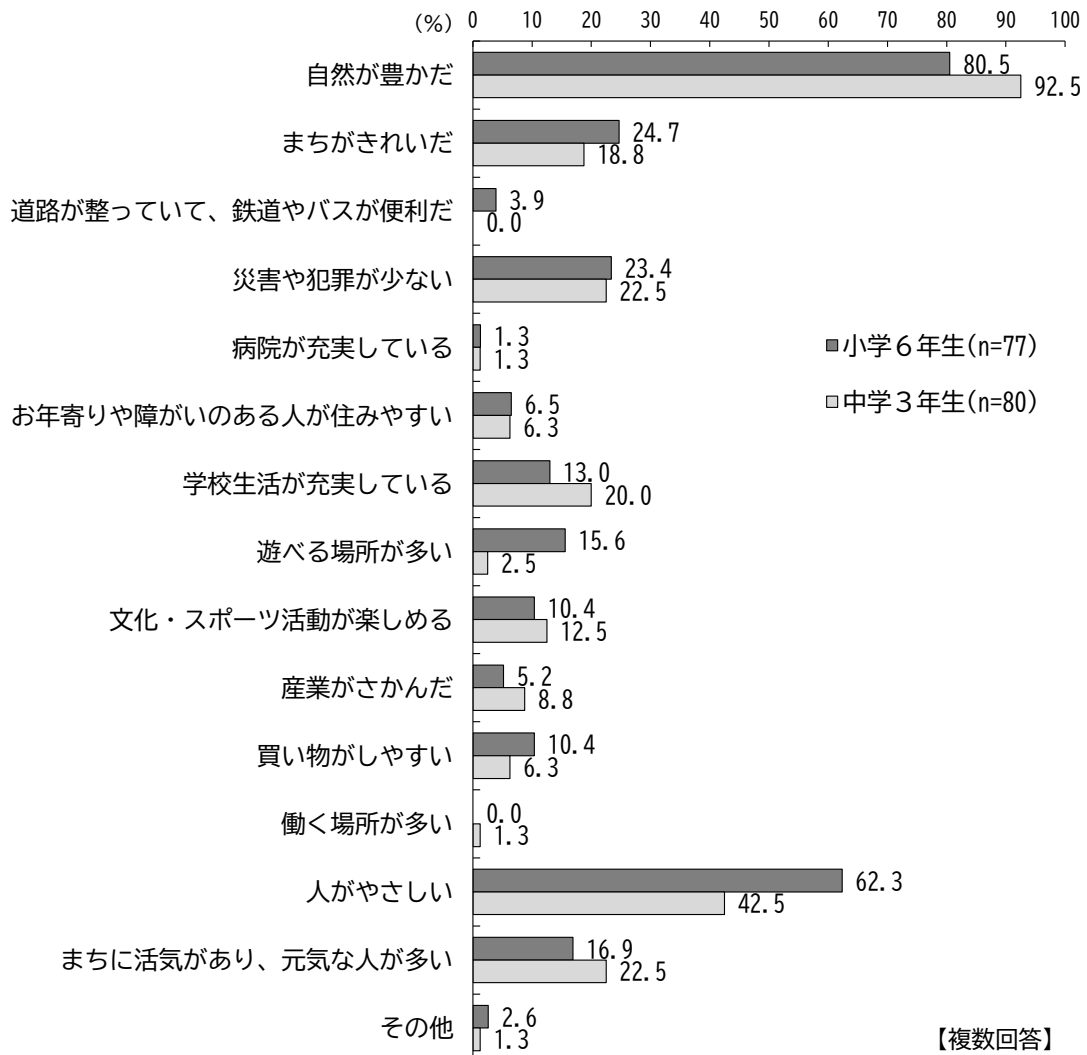


(2) 町の好きなところ

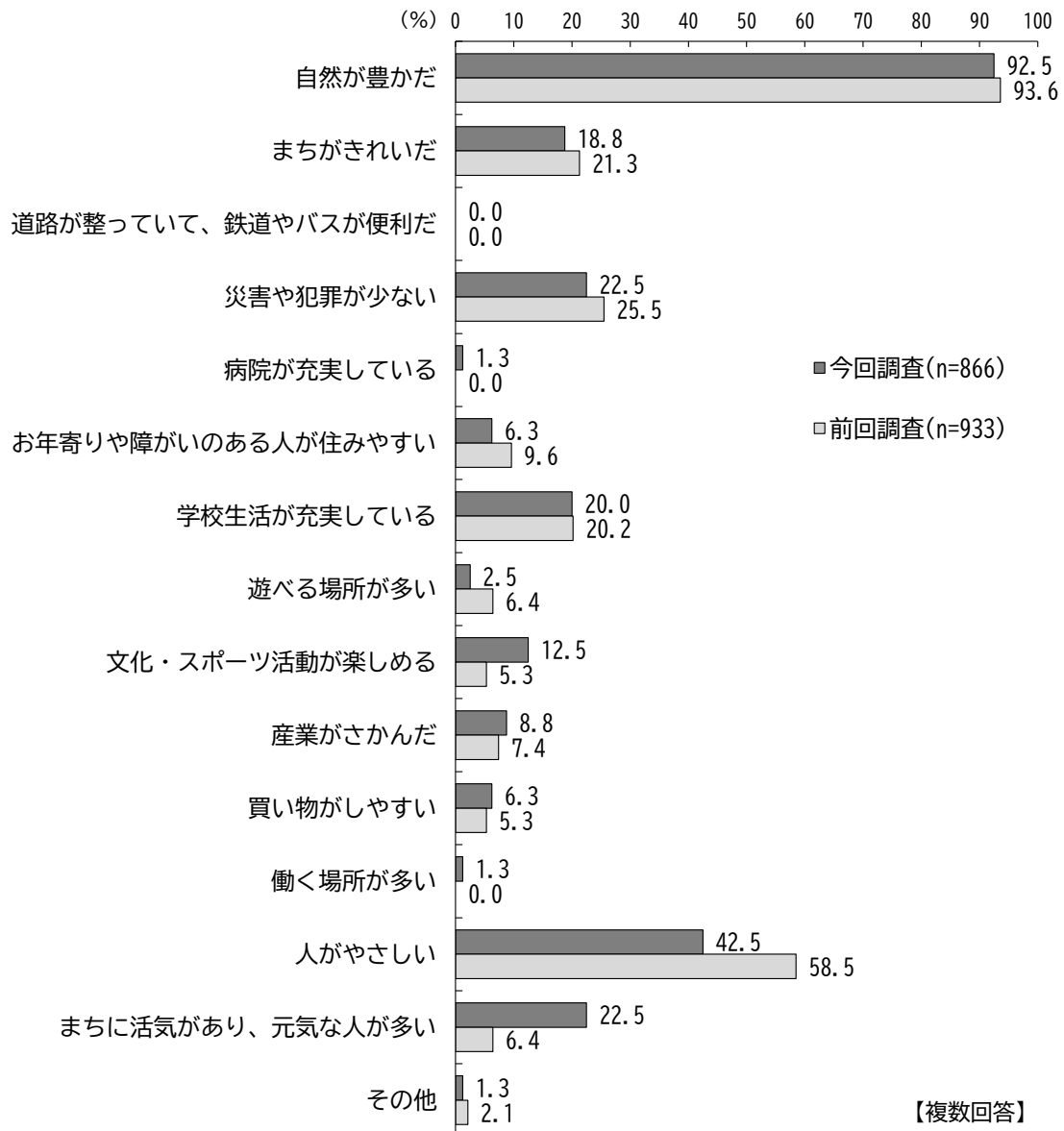
問2で「1」または「2」(好き)に○をつけた方におたずねします。
 問2付問① あなたは、紀北町のどんなところが好きですか。【複数回答】

■町の好きなところについては、小学6年生、中学3年生ともに「自然が豊かだ」が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「人がやさしい」が続きます。
 ■中学3年生を前回調査と比較すると、前回調査と同様に「自然が豊かだ」が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「人がやさしい」も第2位となっています。

町の好きなところ (学年別/『好き』と回答した人のみ)



町の好きなところ（中学3年生／前回調査との比較／『好き』と回答した人のみ）

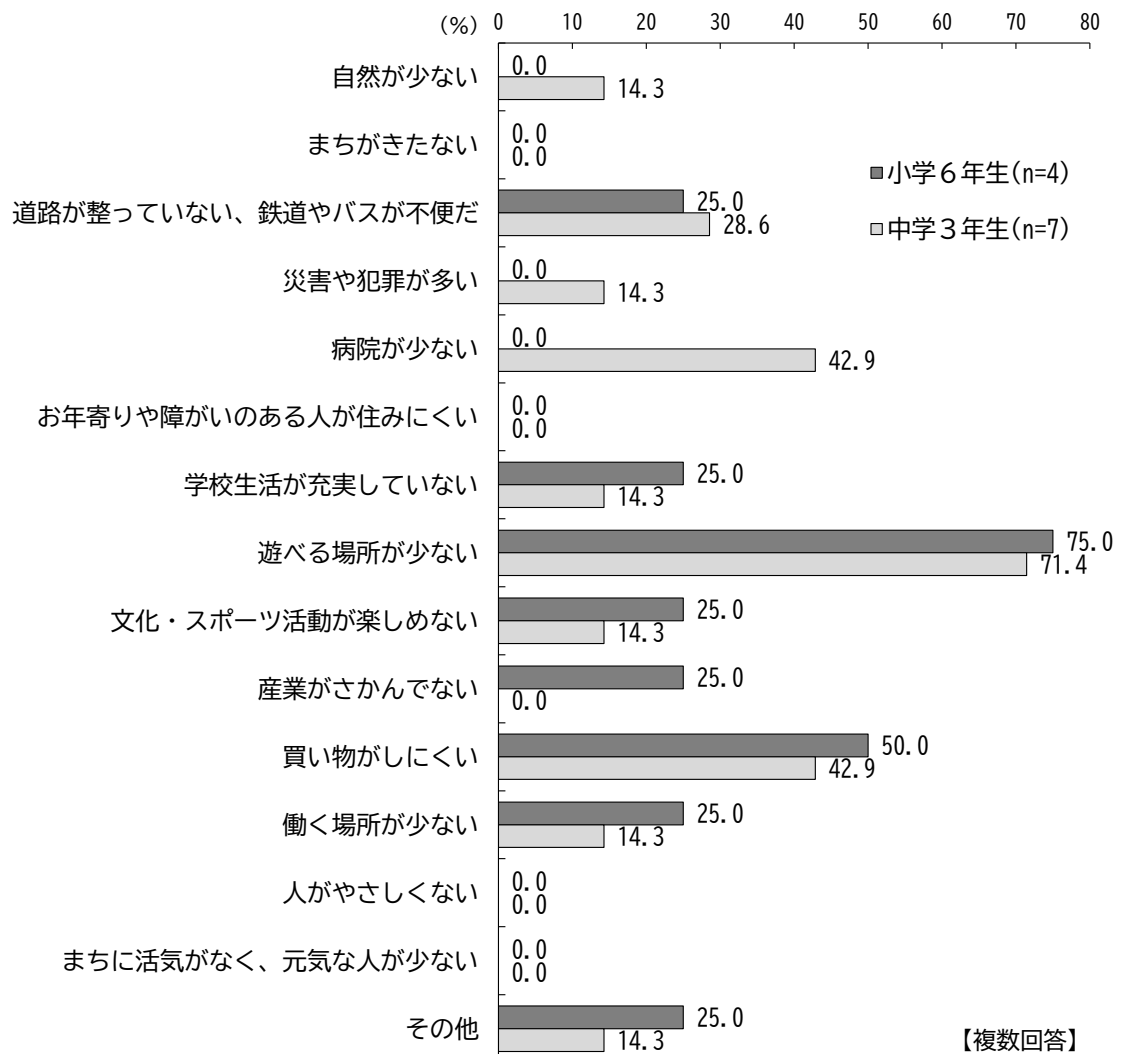


(3) 紀北町が好きでない理由

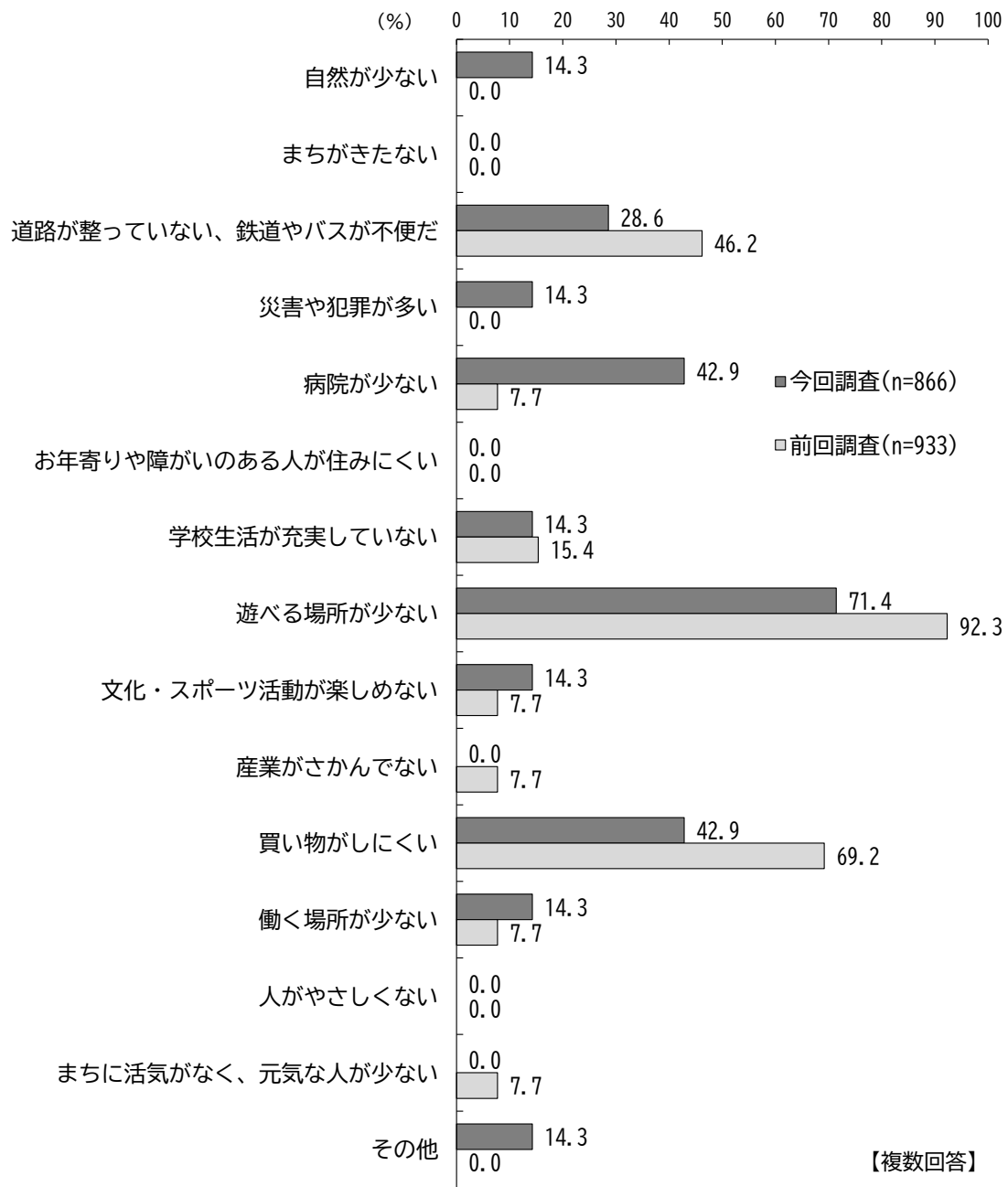
問2で「3.」または「4.」に○をつけた人にうかがいます。
 問2付問② 好きではない理由はなんですか。【複数回答】

- 好きではない理由については、小学6年生、中学3年生ともに「遊べる場所が少ない」(92.3%)が他を引き離して第1位に挙げられています。
- 中学3年生を前回調査と比較すると、「遊べる場所が少ない」が前回調査と同様に第1位に挙げられています。また、前回調査から「病院が少ない」と回答する割合が大きく増加し、「買い物がしにくい」が大きく減少しています。

好きではない理由について（学年別／『好きではない』と回答した人のみ）



好きではない理由について
 (中学3年生/前回調査との比較/『好きではない』と回答した人のみ)



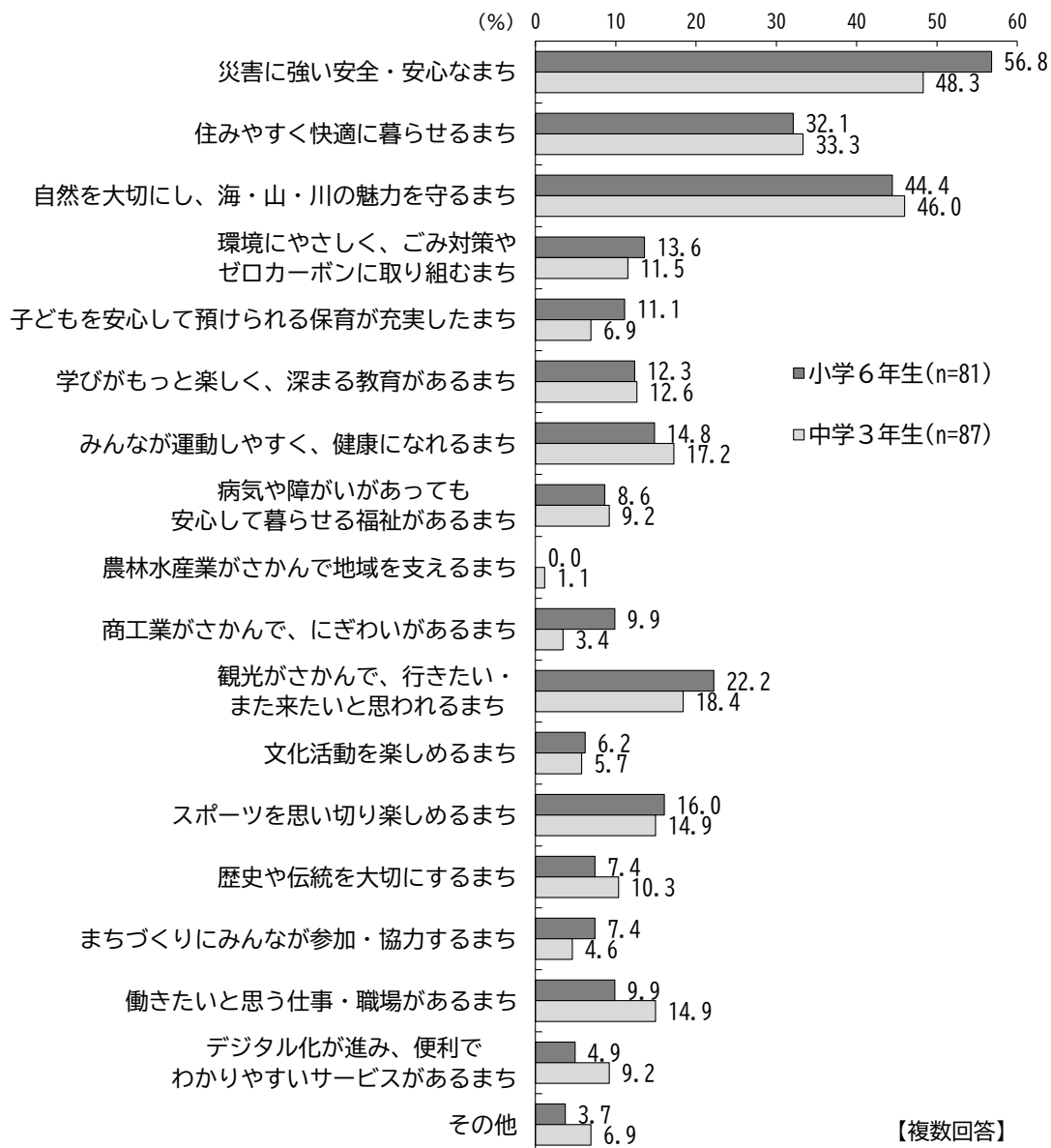
2. 今後のまちづくりについて

(1) 将来のまちの姿

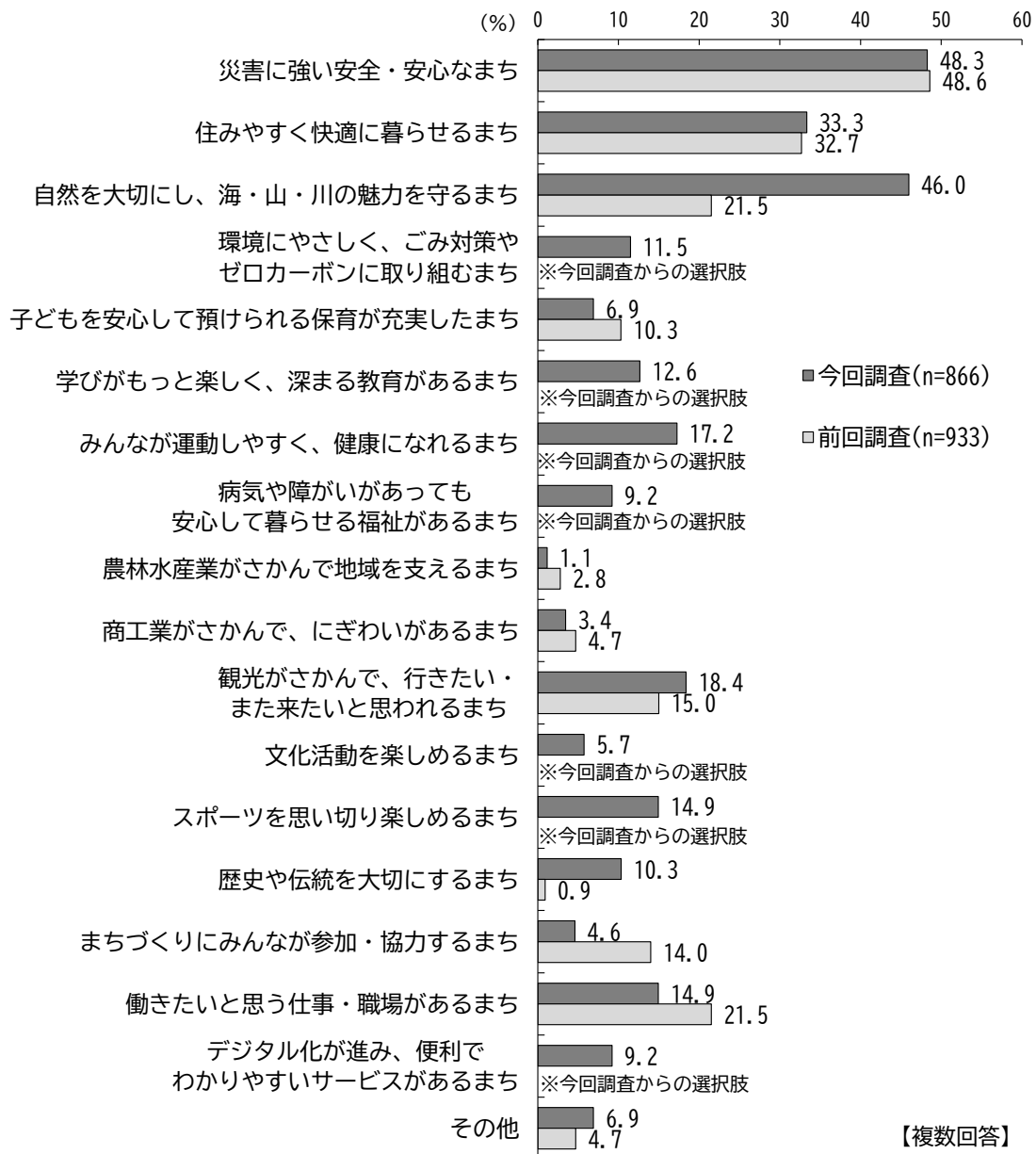
問3 あなたは、今後、紀北町はどんなまちになってほしいと思いますか。【複数回答】

- 小学6年生、中学3年生ともに「災害に強い安全・安心なまち」が第1位に挙げられ、次いで「自然を大切にし、海・山・川の魅力を守るまち」、「住みやすく快適に暮らせるまち」が続きます。
- 中学3年生を前回調査と比較すると、「災害に強い安全・安心なまち」が前回調査と同様に最も多くなっています。また、「自然を大切にし、海・山・川の魅力を守るまち」と回答する割合が大きく増加しています。

将来のまちの姿について（学年別）



将来のまちの姿について（中学3年生／前回調査との比較）



(2) 町で自慢できること

問4 紀北町であなたが自慢できることは何ですか。なんでもかまいません。具体的に下の枠内に2つまで書いてください。

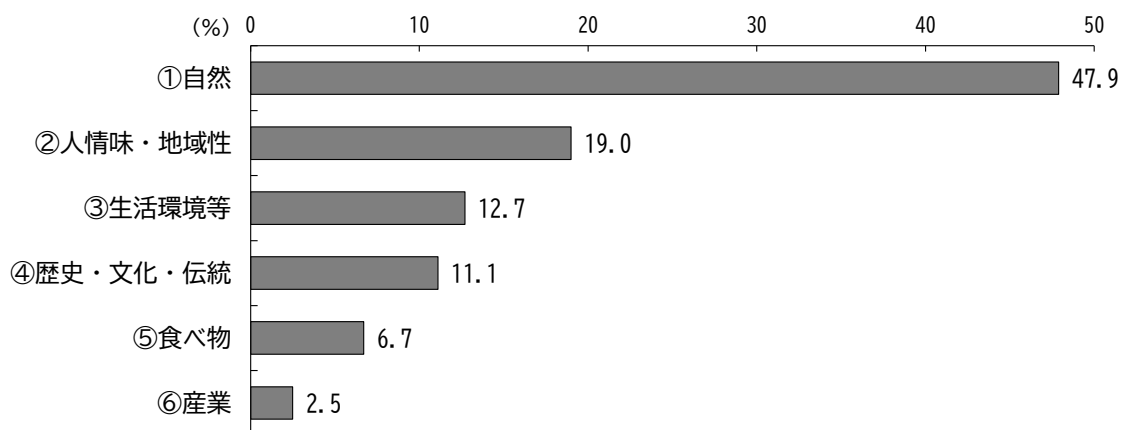
■「自然」に関する自慢が最も多く、次いで「人情味・地域性」が続きます。

紀北町の自慢できることについて記入された意見を集約すると全315件となっています。集約した意見を①自然、②人情味・地域性、③生活環境等、④歴史・文化・伝統、⑤食べ物、⑥産業という6分野に区分し、件数をまとめると次のとおりとなります。

町で自慢できることの件数・記入割合（全体）

区 分	件数	%
①自然	151	47.9
②人情味・地域性	60	19.0
③生活環境等	40	12.7
④歴史・文化・伝統	35	11.1
⑤食べ物	21	6.7
⑥産業	8	2.5
合計	315	100.0

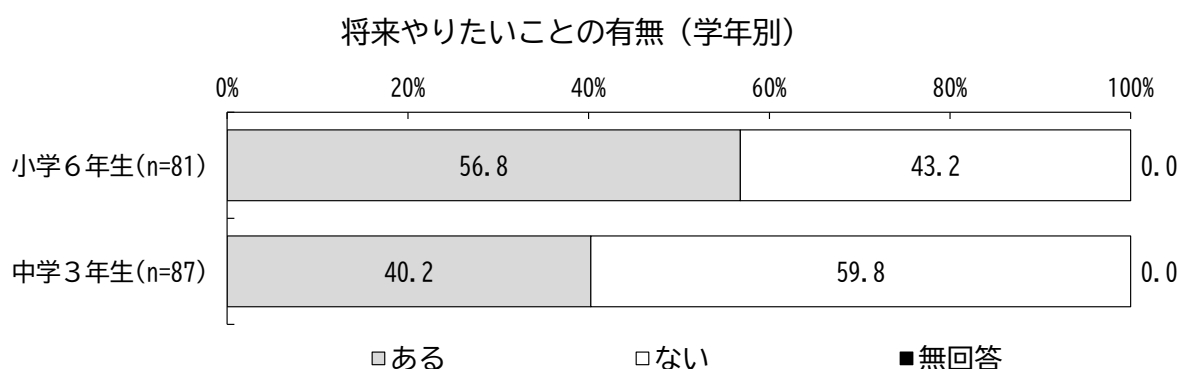
町で自慢できることの件数・回答割合（全体）



(3) 将来やりたいことの有無

問5 あなたは、将来やってみたいことはありますか。

- 将来やってみたいことが「ある」と回答した割合は、小学6年生で56.8%、中学3年生で40.2%となっています。
- 将来やりたいことについて自由記述で回答してもらったところ、「職業・仕事」に関する意見が85.2%、「職業・仕事以外のやりたいこと」が14.8%となっています。「職業・仕事」で意見の多い分類は「①芸能・エンターテインメント関係」、「②スポーツ関係」となっています。



将来やりたいことについて記入された意見を集約すると全81件となっています。意見を分類し、件数をまとめると次のとおりとなります。

将来やりたいことの件数・回答割合

区分	件数	%
職業・仕事	69	85.2
①芸能・エンターテインメント関係	11	13.6
②スポーツ関係	11	13.6
③医療・福祉関係	8	9.9
④飲食関係	8	9.9
⑤教育関係	5	6.2
⑥動物関係	5	6.2
⑦美容・ファッション関係	4	4.9
⑧農林水産業関係	4	4.9
⑨運輸関係	3	3.7
⑩警察・消防関係	2	2.5
⑪その他仕事	8	9.9
職業・仕事以外のやりたいこと	12	14.8
合計	81	100.0

さらに、将来やりたいことをするために町に不足していることをたずねたところ、記入された意見を集約すると全 53 件となっています。意見を分類し、件数をまとめると次のとおりとなります。

将来やりたいことの件数・回答割合

区 分	件数	%
①教育機関・機会（高校、専門学校、絵の勉強するところ、料理の勉強するところ など）	12	22.6
②スポーツ環境（野球場、オムニコート、部活が少ない など）	11	20.8
③商業施設（絵を描くためのものが売ってある店、近くに道具が売っていない、本屋 など）	7	13.2
④職場（働く場所 など）	4	7.5
⑤医療・福祉環境（介護施設を増やしてほしい、病院 など）	4	7.5
⑥その他（インフラ、給料、人口、人材、設備 など）	15	28.3
合計	53	100.0

(4) 将来、町に戻ってきたいか

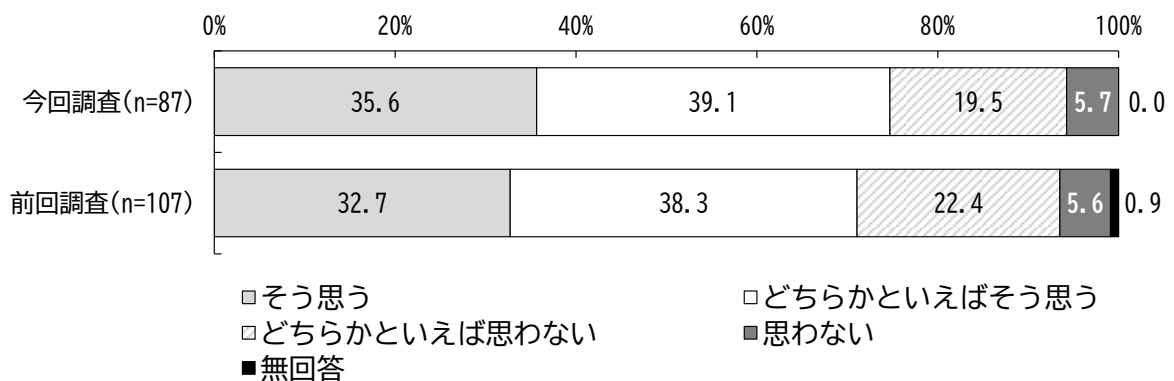
問6 あなたは、これから先、就職や進学で紀北町を離れたとしても、また紀北町に戻ってきたいと思いませんか。

- 小学6年生では「そう思う」が65.4%と6割以上を占め、これに「どちらかといえばそう思う」(25.9%)をあわせた『戻りたい』が91.3%となっています。これに対し、『戻りたくない』(「どちらかといえば思わない」3.7%及び「思わない」4.9%の合計)は8.6%となっています。
- 中学3年生では『戻りたい』が74.7%、『戻りたくない』が25.2%となっています。
- 中学3年生を前回調査と比較すると、『戻りたい』は前回調査の71.0%から今回調査の74.7%へ約4ポイント増加しています。

将来、町に戻ってきたいか (学年別)



将来、町に戻ってきたいか (中学3年生/前回調査との比較)



IV. 調査結果の考察

1. 住民アンケート調査について

(1) 町の住みやすさについて

町の住みやすさについては、『住みやすい』が77.9%と8割弱となっており、『住みにくい』は19.8%にとどまります。前回調査の82.8%から全体で5ポイント減少し、年齢別の40代～50代、60歳以上で減少していますが、10～30代では増加しています。

町の魅力については、「自然環境が豊かである」が最も多く、次いで「生活環境が整っている」、「人情味や地域の連帯感がある」が上位に挙げられ、属性別でも、上位回答に大きな差がないことから、こうした点が共通の町の特性として認識されていることがうかがえます。

(2) 定住意向について

今後の定住意向については、『住み続けたい』が78.3%と約8割となっている一方、『住みたくない』は20.9%にとどまります。前回調査(84.9%)から全体で約7ポイント減少し、年齢別でもすべての層で減少しています。

年齢別の10～30代では『住み続けた』が69.7%と前回調査(74.3%)から減少し、『住みたくない』が30.2%と約3割となっています。こうした比較的若い層の定住意向を上げていくことが、今後の定住・移住対策で重要になります。

住みたくない理由については、「道路・交通の便が悪い」及び「買い物の便が悪い」が第1位に挙げられ、次いで「働く場が不十分」が続きますが、年齢別の10～30代では「働く場が不十分」が第1位の回答となっており、若い層の定住対策として雇用の場が大きな課題となっていることがうかがえます。

(3) 町の現状と今後の取り組みについて

町の各環境に対する満足度・重要度については、満足度が低く、重要度が高く優先的な対応が必要な項目として、重要度の高い順から「1-①自然災害からの安全性」、「2-①保健・医療の状況」、「3-①日常の買い物の便利さ」、「3-②働きがいのある職場」、「2-②福祉サービスの状況」、「1-⑩公共交通の便利さ」、「4-③子どもの教育環境」、「2-③保育・子育て環境」となっており、主に防災、保健・医療・福祉、子育て・教育、生活利便性の向上、働く場の確保などが優先して取り組む必要がある項目といえます。

また、重要度を前回調査と比較しても、前回調査で重要度の最も高い「1-①自然災害からの安全性」が今回調査でも重要度が最も高く、防災対策が引き続き重点施策であることがうかがえます。

今後のまちづくりの特色については、「安全・安心なまち」が第1位に挙げられ、次いで「健康・福祉のまち」が続き、防災、健康・福祉を軸としたまちづくりへの関心が強い結果となっています。また、年齢別の10～30代、40～50代では、「子育て・教育のまち」と回答する割合が多く、子育て世代では子育て支援や教育に対する要望が強い結果となっています。

(4) 分野別の取り組みについて

防災対策については、属性別でみてもすべての層で「避難場所の整備充実と周知」が前回調査と同様に第1位となっており、津波による被害が危惧される地域であることから、津波からの避難対策の充実が求められています。

定住対策については、属性別でみてもほとんどの層で「子どもを産み育てやすい環境づくり」及び「若者が働きたいと思う雇用の場の確保」が上位を占め、子育て支援と雇用の場の確保が重視されています。

環境については、「海岸、河川などの水辺の保全」が最も多く、地域の誇りであり、地域資源である自然環境の保全意識が強い傾向がみられます。

地域福祉については、「身近な移動手段の確保・充実」が上位に挙げられ、高齢化とともに、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯の増加が進む中、住み慣れた地域での安心な暮らしに欠かせない移動手段の確保が必要になっています。

観光・交流については、「海・山・川を生かした体験型観光の充実」、「世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興」など、地域資源を生かした体験型の観光振興が支持されています。

教育については、「豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実」が前回調査と同様に第1位に挙げられ、次いで「学力向上を図る質の高い教育の充実」が続きます。

健康づくりについては、「気軽に運動できる施設や環境の整備」が第1位に挙げられ、次いで「高齢者や子育てなど、世代別の健康支援」が続きます。

(5) コミュニティ活動、参画・協働について

コミュニティ活動等への参加状況と参加意向については、『現在参加している』は20.0%となっていますが、『今後参加したい』は42.1%と潜在的な地域活動への参加希望者が多く、特に40~50代で48.0%と約半数となっており、地域のコミュニティ機能が低下する中、コミュニティ活動やボランティア活動の活性化に取り組む必要があることから、参加しやすい環境づくりが重要となります。

(6) 日頃の行動などについて

生涯学習活動については、60歳以上での活動が多い傾向にあり、高齢者の生きがい対策として引き続き充実を図る必要があります。

スポーツ活動については、40~50代、60歳以上の取り組みがやや低く、壮年層からの運動不足が指摘される中、生活習慣病予防のためにも運動の習慣づけが重要となります。また、健康増進についての取り組みは、年齢が上がるにつれて取り組む割合が上昇しており、生活習慣病予防、介護予防のためにも、運動習慣とあわせて一層の普及が必要となっています。

災害時の避難路・避難場所の認知度は、属性別でみてもほとんどの層で8割を超えています。食料・水の備蓄、家具の転倒防止など防災対策の取り組みは約7割となっており、家庭での防災対策を啓発していく必要があります。

福祉活動への参加については、身近な地域での見守り、支え合いなどをした人が約2割にと

どまります。

幸福度については、全体では類似調査の県平均と同水準となっていますが、年齢別の10～30代、40～50代では県平均を上回っています。

地域の暮らしの満足度については、全体では類似調査の県平均を下回り、性別、年齢でみてもすべての層で県平均を下回っています。

身体的な健康状態については、全体では類似調査の県平均を上回り、性別、年齢でみてもすべての層で県平均を上回っています。

身近な相談相手の有無については、全体では類似調査の県平均を上回り、性別、年齢でみてもすべての層で県平均を上回っています。

地域とのつながりについては、10～30代、40～50代でやや低くなっており、地域でのつながりが低下していく傾向がみられます。

「広報きほく」については、約9割の人が読んでおり、今後も、行政情報の提供手段として重要な役割を担っていることから、わかりやすい紙面づくりなど一層の充実が必要となっています。

町のホームページについては、40～50代で約7割、10～30代で約6割となっており、比較的若い世代では行政情報の入手方法として活用されています。また、関連して活用しているSNSをたずねた結果、若い層ほど多様なSNSを利用している結果となっています。

行政情報番組については、『見ている』が75.4%と若い世代から高齢者まで視聴されている結果となっており、今後も内容の充実を図っていく必要があります。

2. 小中学生アンケート調査について

(1) 町について

紀北町が好きかどうかについては、小学6年生で95.1%、中学3年生で92.0%が紀北町を『好き』と回答し、中学3年生では『好き』と回答する割合が前回調査の87.9%から今回調査の92.0%へ約4ポイント増加しています。

好きなどころについては、「自然が豊かだ」が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「人がやさしい」が続き、関連する設問（町で自慢できるところ）でも、「自然」、「人情味・地域性」が上位に挙げられるなど、「自然環境」と「人情味や地域の連帯感」が地域の誇りとして認識していることがうかがえます。

一方、好きでない理由としては、「遊べる場所が少ない」、「買い物がかたくなる」が上位に挙げられています。

(2) 今後のまちづくりについて

将来のまちの姿については、「災害に強い安全・安心なまち」が最も多く、住民アンケート調査と同様に、防災対策への関心が強く、今後も継続して取り組む必要があるといえます。

町で自慢できるところとして、「自然」、「人情味・地域性」、「生活環境」、「歴史・文化・伝統」、「食べ物」などが挙げられ、銚子川や山・川・海のある環境、人のやさしさ、海産物などの食

べ物、熊野古道や各地域の祭りなどが地域の誇りとして挙げられており、こうした地域資源や地域性を生かし、伸ばす視点からまちづくりを進める必要があります。

町を離れたとしても、また町に戻ってきたいかをたずねた結果は、『戻りたい』（「どちらかといえばそう思う」と「そう思う」の合計）が小学6年生で91.3%、中学3年生で74.7%となっており、中学3年生では前回調査の71.0%から約4ポイント増加しており、若い層が町に戻りやすい環境づくりが必要です。

V. 資料編：調査票

1. 住民アンケート調査票

紀北町まちづくりアンケート調査

ご協力のお願い

町民の皆さまには、日頃から町政に対し格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび紀北町では、新しいまちづくりを進めるための指針となる「紀北町第3次総合計画（前期基本計画）」及び「第3期紀北町総合戦略」を策定することになりました。

本調査は、これら新しい計画の策定にあたり、町民の皆さまのご意見をお聞かせいただき、これからのまちづくりを考える貴重な資料とするために実施するもので、16歳以上の町民の皆さまの中から、2,500名を無作為に抽出し、ご回答をお願いすることになりました。

お忙しいところ恐縮ですが、今後のまちづくりを、皆さまとともに考えていきたいと思っておりますので、調査の目的、趣旨をご理解の上、率直なご意見をお聞かせください。

令和7年11月

紀北町長 尾上 壽一

【ご回答の方法】

1. ご回答は、封筒のあて名のご本人がお答えください。
2. 黒の鉛筆またはボールペンでご記入ください。
3. 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。設問ごとに（1つに○）、（あてはまるものすべてに○）などと指定してありますので、それにしたがってご回答ください。
4. 設問によっては、該当する番号に○をつけた方だけにお答えいただく設問がありますので、その説明にしたがってご回答ください。
5. この調査は無記名です。アンケートに回答することで、個人が特定されることはありません。
6. ご記入後は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに期限までにご投函ください。

【For English speaker】

If you would like to answer in English, please see the next page for instructions on how to answer.

■この調査は郵送以外に、インターネットからの回答も可能です。

次の手順でご回答ください。

①右の二次元コードから専用ページにアクセスしてください。

②PCを使用される場合は、次のURLからご回答ください。

https://gyosei.qualtrics.com/jfe/form/SV_aaxJT0liwMnTIq

※通信サービスの接続料金は利用者様の負担となります。



回答締め切り：令和7年12月15日（月）まで

お問い合わせはこちら ⇒ 紀北町役場 企画課

電話：0597-46-3113 FAX：0597-47-5908

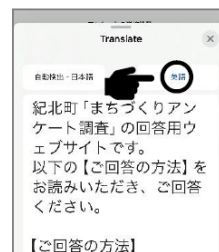
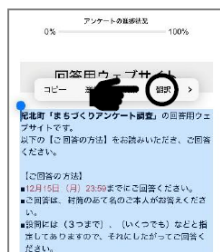
※英語で回答される方へ

(日本語で回答いただく方は、次のページからご回答ください。)

If you would like to answer in English, please see this page for instructions on how to answer.

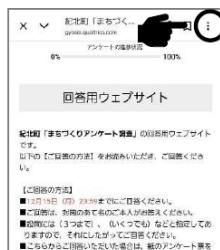
For iPhone

- ① Please scan the code with your smartphone camera.
- ② Drag the part you want to translate, click it, and then click the "翻訳" button.
- ③ Select the translated language.



For Android

- ① Please scan the code with your smartphone camera.
- ② Click the three dots button in the top right corner of the screen.
- ③ Click the "翻訳" button.



愛着度・定住意向について

問2 あなたにとって、紀北町は住みやすいまちですか。 (1つに○)

- | |
|--|
| 1. 住みやすい
2. どちらかといえば住みやすい
3. どちらかといえば住みにくい
4. 住みにくい |
|--|

問3 あなたは、紀北町のどのようなところに魅力を感じていますか。 (3つまで○)

- | | |
|---|---|
| 1. 自然環境が豊かである
2. ごみ処理施設や生活排水処理、水道施設などの生活環境が整っている
3. 道路・交通の便がよい
4. 情報通信網が整っている
5. 消防・防災・防犯体制が整っている
6. 文化・スポーツ環境が整っている
7. 子育て・教育環境が整っている
8. 福祉環境が整っている | 9. 保健・医療環境が整っている
10. 買い物の便がよい
11. 働きたいと思う職場がある
12. 活力ある地場産業がある
13. 人情味や地域の連帯感がある
14. 行政サービスが充実している
15. 特に魅力を感じない
16. その他
(具体的に：) |
|---|---|

問4 あなたは、これからも紀北町に住み続けたいと思いますか。 (1つに○)

- | |
|--|
| 1. 住み続けたい
2. どちらかといえば住み続けたい
3. どちらかといえば住みたくない
4. 住みたくない |
|--|

※問4で「3.」または「4.」(住みたくない)に○をつけた方にうかがいます。

問4 付問 その主な理由は何ですか。 (3つまで○)

- | | |
|--|--|
| 1. 自然環境が悪い
2. ごみ処理施設や生活排水処理、水道などの生活環境が不十分
3. 道路・交通の便が悪い
4. 情報通信網が不十分
5. 消防・防災・防犯体制が不十分
6. 文化・スポーツ環境が不十分
7. 子育て・教育環境が不十分
8. 福祉環境が不十分 | 9. 保健・医療環境が不十分
10. 買い物の便が悪い
11. 働く場が不十分
12. 地場産業の活力が不十分
13. 人情味や地域の連帯感が不十分
14. 行政サービスが不十分
15. ふるさどが他にある
16. その他
(具体的に：) |
|--|--|

まちの現状と今後の取り組みについて

問5 町の現状についての満足度と、今後の重要度をおたずねします。

① あなたは、以下の項目について、現在どの程度満足していますか。それぞれについてあてはまる番号1つに○をつけてください。

② あなたは、以下の項目について、今後どの程度重視していますか。それぞれについてあてはまる番号1つに○をつけてください。

項目	①満足度					→	②重要度				
	満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である		重視している	どちらかといえば重視している	どちらともいえない	どちらかといえば重視していない	重視していない
1 生活基盤分野											
①風水害や地震など自然災害からの安全性	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②防犯、交通安全施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③騒音・振動・悪臭等の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
④ごみの収集・処理の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑤上水道の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑥生活排水処理・合併処理槽設置補助の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑦町営住宅の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑧公園・緑地・広場の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑨道路の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑩公共交通の便利さ	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑪デジタル※環境全般の整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑫自然環境の豊かさ	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
2 保健・医療・福祉分野											
①保健・医療サービスや施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②福祉サービスや施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③保育・子育て環境	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
④健康づくり・健康増進の取り組み状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
3 産業分野											
①日常の買い物の便利さ	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②働きがいのある職場	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5

項目	①満足度					→	②重要度				
	満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である		重視している	どちらかといえば重視している	どちらともいえない	どちらかといえば重視していない	重視していない
③観光・交流についての取り組み・施設整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
4 教育・文化・スポーツ分野											
①生涯学習活動、芸術・文化活動や施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②スポーツ活動や施設整備の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③子どもの教育環境	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
5 住民参画・行財政分野											
①人権尊重の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
②男女共同参画の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
③人情味や地域の連帯感	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
④公民館や集会所などの整備状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑤町からの広報や情報提供体制の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5
⑥自治体のデジタル※化の状況	1	2	3	4	5	→	1	2	3	4	5

※「デジタル」とはインターネット環境、スマートフォン・携帯電話の電波状況、公共Wi-Fi、町WEBサイトやSNSでの情報入手やオンライン行政手続き等のことを指します。

問6 あなたは、今後のまちづくりにおいて、紀北町をどのような特色のあるまちにすべきだと考えますか。(2つまで○)

1. 地震・津波対策をはじめ、あらゆる災害に強い安全・安心なまち
2. 快適な住環境の整備を推進する快適住環境のまち
3. 自然の保護や環境の保全・創造を推進する環境保全のまち
4. 子育て環境や子どもの保育・教育環境が充実した子育て・教育のまち
5. 人にやさしい保健・医療・福祉の充実した健康・福祉のまち
6. 農業・林業・水産業を中心として発展する農林水産業のまち
7. 商業の振興や地場産業の育成、企業立地による商工業のまち
8. 地域資源を活用し、観光や交流事業を進める観光・交流のまち
9. 生涯学習活動や文化芸術・スポーツ活動が活発な生涯学習・文化のまち
10. 歴史的遺産を大切にし、まちづくりに生かす歴史のまち
11. 町民と行政とが協力してまちづくりを行う住民参画・協働のまち
12. デジタル技術を活用し、誰もが快適に暮らせるデジタル化を進める便利なまち
13. その他(具体的に: _____)

防災対策について

問7 あなたは、町の防災対策について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまで○)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1. 防災意識の啓発活動の充実 | 6. 災害用備蓄品の充実 |
| 2. 防災訓練・避難訓練の充実 | 7. 災害ボランティアの受入体制の充実 |
| 3. 地域における自主防災組織の育成 | 8. 災害時の情報連絡体制の充実 |
| 4. 避難行動要支援者対策の充実 | 9. 災害発生危険箇所の整備 |
| 5. 避難場所の整備充実と周知 | 10. その他(具体的に:) |

※避難行動要支援者：災害時の避難などに支援が必要な方。具体的には高齢者、障がい者、傷病者など。

定住対策について

問8 あなたは、若者の定住対策として、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまでに○)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 住宅・宅地の整備など定住・移住しやすい住まいの確保 |
| 2. 結婚・出産・子育て支援など子どもを産み育てやすい環境づくり |
| 3. 福祉や医療の充実など安心して暮らせる環境づくり |
| 4. 子どもへの教育等を通じた地元愛等を育む取り組み |
| 5. 買い物などの日常生活の利便性向上 |
| 6. 防災や防犯体制の強化など安全に暮らせる環境づくり |
| 7. 企業誘致や産業振興による若者が働きたいと思う雇用の場の確保 |
| 8. その他(具体的に:) |

環境保全について

問9 紀北町では、豊かな自然を次世代につなぐため、平成30年に「自然と共生の町」宣言を行っています。あなたはこの宣言を知っていますか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問10 あなたは、地域の環境保全に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまで○)

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1. 環境教育・環境学習の推進 | 6. 生活排水対策の充実 |
| 2. 環境情報の提供 | 7. 再生可能エネルギーの拡大、森林保全など脱炭素化の推進 |
| 3. ごみの減量化・分別・リサイクルの推進 | 8. 海岸、河川などの水辺の保全 |
| 4. 安全で確実なごみ処理体制の構築 | 9. その他(具体的に:) |
| 5. 町民・事業者・町の自主的な取り組み | |

地域福祉について

問11 あなたは、地域での福祉環境の充実に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまで○)

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------|
| 1. 相談窓口の充実や相談機能の強化 | 7. 身近な移動手段の確保・充実 |
| 2. 制度の周知など情報提供体制の充実 | 8. 健康づくり活動の推進 |
| 3. 高齢者や障がい者の地域参加の促進 | 9. 成年後見制度や虐待防止など権利擁護
対策の推進 |
| 4. 地域での高齢者などへの見守り活動 | 10. その他 |
| 5. ボランティアや福祉団体の活動支援 | (具体的に：) |
| 6. 誰もが自由に社会参加できるユニバーサル
デザインのまちづくり | |

※成年後見制度：認知症、知的障がいなどの理由で判断能力の不十分な方の契約などの法律行為を支援する制度。

観光・交流について

問12 あなたは、町の観光・交流の活性化のために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまで○)

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 世界遺産熊野古道など地域の歴史を生かした観光の振興 | 6. スポーツ合宿の拡大・誘致 |
| 2. 海・山・川を生かした体験型観光の充実 | 7. 2地域居住ができる環境の充実 |
| 3. 始神テラスや道の駅など観光・集客交流施設の充実 | 8. 地域ブランドの開発 |
| 4. 観光イベントの充実 | 9. 広域的な連携強化による観光ルートの充実 |
| 5. 観光PRの充実 | 10. その他(具体的に：) |

※2地域居住：都市と地方にそれぞれ拠点を持ち、自由に行き来して生活すること。

教育について

問13 あなたは、学校教育の充実に向けて、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまで○)

- | |
|----------------------------|
| 1. 学力向上を図る質の高い教育の充実 |
| 2. 豊かな人間性や個性を育てる心の教育の充実 |
| 3. 高度情報化社会に対応できる情報教育環境の充実 |
| 4. 国際社会に対応できるALTによる英語学習の充実 |
| 5. 学校施設の安全性の確保 |
| 6. 学校規模の適正化 |
| 7. その他(具体的に：) |

健康づくりについて

問14 いつまでも健康で暮らしていくためには、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。 (2つまで○)

1. 健康に関する分かりやすい情報提供 (広報・ホームページ・SNS等)
2. 健康に関する講座や教室、健康イベントの開催
3. 健康に関する相談体制の充実
4. 誰もが気軽に運動できる施設や環境の整備 (ウォーキングコース・スポーツ施設等)
5. 高齢者や子育てなど、世代別の健康支援
6. 地域住民が主体となって行う健康づくり活動 (自主グループ) への支援
7. その他 (具体的に:)

コミュニティ活動、参画・協働について

問15 あなたの現在のコミュニティ活動 (地域活動) ・ボランティア活動への参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。 (1つに○)

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 現在参加しており、今後も参加したい |→ 問15 付問②へ |
| 2. 現在参加していないが、今後は参加したい | |
| 3. 現在参加しているが、今後は参加するつもりはない | |
| 4. 現在参加しておらず、今後も参加するつもりはない | |

※問15で「1」または「2」(参加したい)に○をつけた方にうかがいます。

問15付問① あなたは、今後 (今後とも) どのようなコミュニティ活動 (地域活動) ・ボランティア活動に参加したいと思いますか。 (3つまで○)

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1. 自治組織の活動 | 12. 教育・文化・スポーツ活動の指導・運営に関する活動 |
| 2. 商工会などを通じた活動 | 13. 青少年の健全育成に関する活動 |
| 3. いきいきクラブなどを通じた活動 | 14. 文化財や伝統行事の保存に関する活動 |
| 4. 自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動 | 15. 国内外との交流に関する活動 |
| 5. 緑化や花づくりに関する活動 | 16. 来訪者への案内など観光や関係人口に関する活動 |
| 6. 自主防災や災害援助に関する活動 | 17. 募金や寄付、バザー等に関する活動 |
| 7. 交通安全に関する活動 | 18. 地域づくりやまちおこしに関する活動 |
| 8. パトロールなど防犯に関する活動 | 19. 祭り・イベント等への参加活動 |
| 9. 健康づくりに関する活動 | 20. その他 |
| 10. 子育て支援に関する活動 | (具体的に:) |
| 11. 高齢者や障がい者の手助けなど福祉に関する活動 | |

まちのキャッチフレーズ及び自由意見について

- 今後のまちの姿を、簡単な標語やキャッチフレーズで表現するとしたら、どのようなものが考えられますか。お考えがありましたら、ご自由にご記入ください。

_____ <キャッチフレーズ> _____

--

- 最後に、あなたの生活で現在もしくは将来に向けて町の行政に望むことや、まちづくりに関するご意見・ご提案などがありましたら、ご自由にご記入ください。

_____ <自由意見> _____

ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は 12月15日(月) までに同封の返信用封

筒に入れて返送してください。(切手は不要です。)

または、インターネットからの回答をお願いいたします。

※問2で「3」または「4」に○をつけた人にうかがいます。

問2付問② 好きではない理由はなんですか。(3つまで○)

1. 自然が少ない
2. まちがきたない
3. 道路が整っていない、鉄道やバスが不便だ
4. 災害や犯罪が多い
5. 病院が少ない
6. お年寄りや障がいのある人が住みにくい
7. 学校生活が充実していない
8. 遊べる場所が少ない
9. 文化・スポーツ活動が楽しめない
10. 産業がさかんでない
11. 買い物がかたい
12. 働く場所が少ない
13. 人がやさしくない
14. まちに活気がなく、元気な人が少ない
15. その他 ()

問3 あなたは、今後、紀北町はどのようなまちになってほしいと思いますか。(3つまで○)

1. 災害に強い安全・安心なまち
2. 住みやすく快適に暮らせるまち
3. 自然を大切にし、海・山・川の魅力を守るまち
4. 環境にやさしく、ごみ対策やゼロカーボン※に取り組むまち
5. 子どもを安心して預けられる保育が充実したまち
6. 学びがもっと楽しく、深まる教育があるまち
7. みんなが運動しやすく、健康になれるまち
8. 病気や障がいがあっても安心して暮らせる福祉があるまち
9. 農林水産業がさかんで地域を支えるまち
10. 商工業がさかんで、にぎわいがあるまち
11. 観光がさかんで、行きたい・また来たいと思われるまち
12. 文化活動を楽しめるまち
13. スポーツを思い切り楽しめるまち
14. 歴史や伝統を大切にするまち
15. まちづくりにみんなが参加・協力するまち
16. 働きたいと思う仕事・職場があるまち
17. デジタル化が進み、便利でわかりやすいサービスがあるまち
18. その他 ()

※ゼロカーボン：地球温暖化による気候変動の影響を減らすため、温室効果ガス（二酸化炭素など）の排出を全体としてゼロにすること。家庭や工場で排出せざるをえなかったガスを森林などで吸収したり、除去することで差し引きゼロにします。

問4 紀北町であなたが自慢できることはなんですか。なんでもかまいません。2つまで書いてください。(自由記述)

自慢その1	自慢その2

問5 あなたは、将来やってみたいことはありますか。(1つに○)

1. ある	→ 問5付問へ
2. ない	

※問5で「1」に○をつけた人にうかがいます。

問5付問① 将来やってみたいことはなんですか。(自由記述)

--

問5付問② そのことをするために紀北町に足りないものがあれば書いてください。(自由記述)

--

問6 あなたは、これから先、就職や進学で紀北町を離れたとしても、また紀北町に戻ってきたいと思いませんか。(1つに○)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえば思わない
4. 思わない

問7 紀北町の未来、これからのまちづくりに関するご意見があれば、自由に書いてみてください。(自由記述)

--

まちづくりに関するアンケート調査結果報告書

発行年月：令和8年3月

発行：紀北町

編集：紀北町企画課

〒519-3292

三重県北牟婁郡紀北町東長島 769 番地 1

電話：0597-46-3113 FAX：0597-47-5908